

大阪大学文学部紹介

OSAKA UNIVERSITY  
School of Letters  
2021-2022

2	ごあいさつ
3	沿革
4	教育目標
5	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
6	教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
7	アドミッション・ポリシー
8	文学部のカリキュラム
9	履修のしくみ
10	資格
12	文学部生の生活
14	文学部の入試案内
15	専修紹介
56	スタッフ／文学部の教育体制
74	留学体験
76	就職活動
78	大学院進学
79	就職実績
80	アクセスマップ





古来、人間はさまざまな知識や情報を集積し、次代にバトンタッチしてきました。そうした知識はつまるところ、私たちは「どこからきたか」「今どこにいるか」、「どこへいくか」という三つの問いに集約されるでしょう。学問とは、文系であれ理系であれ、これらの問いに応える営みです。とはいえ、そこにはおのずから分業があり、文学部が扱う分野—つまり人文学—は、より多く過去に関わります。歴史学はもとより、哲学であれ文学であれ、問題を考えるにあたって時間を遡りし、出発点に立ち返って議論するのが、人文学の特性です。

しかしながら、起源や来歴を問うことは、過去の世界に沈潜することと同じではありません。人文学が取り組んでいるのは、私たちの立っている現在が、どのような道筋をへて今に至ったのか、なぜ他の道筋をとらなかったのか、つまり私たちは「なぜここにいるのか」という問いです。見失われた小さなものに目を凝らし、ささやかなものの声に耳を傾ける人文学の営みは、現在をより深く捉えなおすことに他なりません。

ひとは記憶を喪失すれば、生活に重大な支障をきたすでしょう。社会もまた、「どこからきたか」が分からなくなれば「今どこにいるか」を知ることはできず、まして「どこへいくか」を考えることはできません。つまり、「どこからきたか」という問いを忘れず、そのうえで現在を理解し未来を構想する知的営為は、社会の持続的な発展に欠かせないのです。人文学はそのための学問であり、文学部はそうしたセンスを養い、深める場所です。

私たちの現在は、さまざまな文化的伝統や社会的コンテキストが交差する地点です。その姿を幅広くとらえるため、大阪大学文学部は哲学系・史学系・文学系・芸術学系・日本学系という5つの系列に沿って、20の専修を配置しています。その特徴は、洋の東西で鍛え上げられてきた文献研究の原理・技法と、ケアや移民やサブカルチャーなど今日的なテーマに向き合うアクチュアルな問題関心とを両立させて、つねに問題を組み換え、新たな領域を開拓してきたことです。この『文学部紹介』では、そうした多様性に富んだ文学部の研究と教育の実際をお伝えしたいと思います。皆さんが自身の将来を考えるにあたり、おおいにご活用いただければ幸いです。

### 三谷研爾 みたに・けんじ

1961年生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。博士（文学）。大阪府立大学総合科学部をへて大阪大学文学部勤務、2008年より文学研究科教授。専門分野はドイツ・オーストリア文学／中欧文化論、とりわけ多民族都市プラハの社会環境と文学テキストの相関を研究。著書に『世紀転換期のプラハ—モダン都市の空間と文学的表象』、『境界としてのテキスト—カフカ・物語・言説』、翻訳書にアンダーソン『カフカの衣装』など。

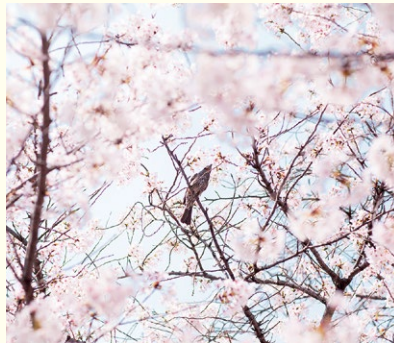
## History

# 沿革

### 誕生

大阪大学文学部の歴史は、1948年に設立された大阪大学法文学部に始まります。このときは、法学科・経済学科とならぶ文学部として出発しましたが、翌1949年、文学部として独立しました。哲学・史学・文学の3学科14講座を擁してスタートを切り、1952年には教育学科を設置して4学科19講座に再編されました。

文学部の始まりは1948年ですが、その精神的源流は、1724年に大坂の有力町人によって設立され、幕末までの約150年のあいだに数多くの逸材を輩出した学問所「懐徳堂」にさかのぼります。文学部は、自由と独創を重んじ、開かれた学問所であった「懐徳堂」の精神を受け継いで発展してきました。



### ユニークな学科の新設

1960年代の半ばには、既設の心理学・社会学・教育学関係の諸講座を統合して文学部から独立させる新学部構想が具体化し、1972年に人間科学部が創設されました。新学部の設置のために文学部の9講座が振り替えられ規模が縮小したことにより、その後は文学部の整備と充実が重要な課題となりました。既設学科の充実とともに、新しい構想の学科が模索され、1973年には当時の国立大学としては初めての試みであった美学科が新設されました。さらに、1975年に大学院に日本学専攻が設置されました。1986年にはこれに対応する学部組織として日本学科が設置され、5学科16専攻32講座を擁する組織に成長しました。



1995年には学部の5学科の区分を廃して1学科に統合し、人文学科としました。これとともに小講座制から大講座制に移行し、哲学、日本史、世界史、考古学、国文学・東洋文学、西洋文学・語学、芸術学、芸術史、日本学、人文地理学、日本語学の11講座に整備されました。



### 20の多彩な専修

1998年および1999年に、大学院の研究・教育を主体にしつつ学部教育を推進するという構想のもとに、大学院重点化が行われました。それに伴って、学部には20の専修が置かれました。

2007年10月には、大阪大学と大阪外国語大学が統合し、新たな大阪大学が誕生しました。大学院文学研究科では、それまでの文化形態論専攻および文化表現論専攻に加え、修士課程に文化動態論専攻（共生文明論、アート・メディア論、文学環境論、言語生態論の4コース）が新たに設置されました。その結果、学部でも動態論科目を受講することができるようになり、多彩な学部教育の充実化が図られました。



## Educational Goals

### 教育目標

大阪大学は、「知の創造、継承及び実践」を使命とし、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、学問の独立性と市民性を備えた世界水準の高度な教育研究を推進し、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目的とします。

その目的の実現のため、学部及び全学的な教育研究組織において、

#### 高度な専門性と深い学識

##### 教養

##### 国際性

##### デザイン力

を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材を育成します。

文学部は、大阪大学の教育目標のもと、また自由と独創を重んじ広く社会に開かれた学問所であった「懐徳堂」の精神を受け継いで、以下のような人文学の特質と現代社会の要請を重視して人材育成を行います。人文学は、日本および諸外国の精神文化と物質文化の両面にわたる人間の営為を、

- ①過去から現在にいたる時間的変化のなかで広く関連づけてとらえる、
- ②本質や原理にまでさかのぼって考え抜く、
- ③対象に深く分け入り内在的に理解する、

という特質を持っています。また現代社会は大きく変貌しつつあり、現代社会の諸問題に対応した分野横断的で総合的なアプローチの必要性が高まっています。文学部は、これらに鑑みて、思想、言語、歴史、文学、芸術にまたがる「総合的な人文学教育」を推進し、以下のような教育を目標とします。

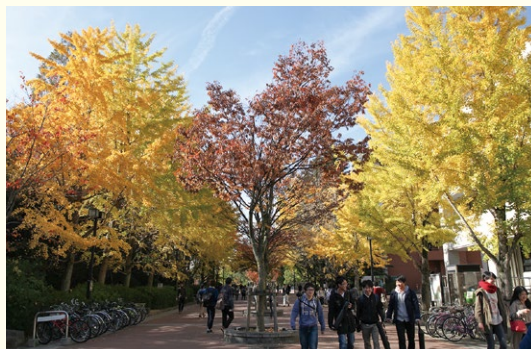
**高度な専門性と深い学識** …………… 人文学に関する高度な専門性と深い学識を体系的に養います。

**教養** …………… 学問全般にわたる幅広い教養と現代にふさわしい情報リテラシーを培います。

**国際性** …………… 他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を涵養します。  
豊かな日本語能力と、国際共通語である英語、そして専門分野に関わる諸外国語の運用能力を養います。

**デザイン力** …………… 自己を深め、世界を探求し、現代社会の諸課題を発見・解決する能力を養います。

**独自の教育目標** …………… 以上の知識や能力を生かして、リーダーシップをもって国際的に活躍できる人材を育成します。



## Diploma Policy

### 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

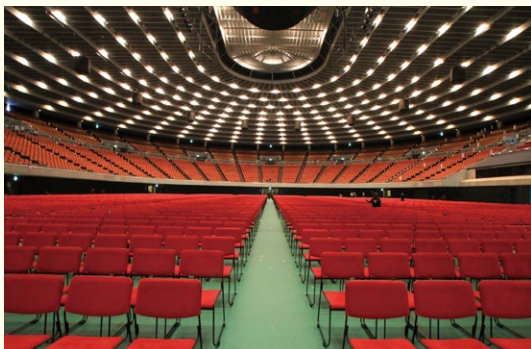
大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める専門分野に関する知識・技能、教養、国際性及びデザイン力を身につけ、所定の単位を修得し学部規程に定める試験に合格した学生に学位を授与します。

#### 【学習目標】

- 高度な専門性と深い学識** …………… 専門分野における知識・技能を有している  
課題解決のために知識・技能を活用できる
- 教養** …………… 幅広い知識を有している  
複眼的・俯瞰的に思考し、客観的に評価できる
- 国際性** …………… 異なる言語・文化を理解できる  
言語・文化の相違を超えて交流できる
- デザイン力** …………… 社会・学問における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想できる  
社会・学問における課題の発見・解決のために、様々な分野の人と協働できる

文学部は、大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、以下の能力や学識の修得を学士（文学）授与の要件とします。

- 高度な専門性と深い学識** …………… 専門的知識と、調査・研究のための方法・技能を系統立てて身につけている。  
調査・研究の成果と自分の知見を、日本語および外国語で明晰に論述する能力を身につけている。
- 教養** …………… 学問全般にわたる幅広い教養を身につけている。  
多くの事象にわたる総合的な人文的教養を身につけている。
- 国際性** …………… 他者や異文化に対する鋭敏な感受性と深い理解力を身につけている。  
豊かな日本語能力と、2つ以上の外国語の運用能力を身につけている。
- デザイン力** …………… 人間の精神的・文化的営みを深く内在的に把握するとともに、社会と文化の変遷を巨視的な観点に立って意味づけ理解できる。  
上記の能力をもとに、社会・学問における新たな課題を発見し、解決の道筋を構想できる。
- 独自の学習目標** …………… 高度な専門性と深い学識、教養、国際性、デザイン力に基づいて、独自性を備えた卒業論文を作成できる。



# 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

大阪大学は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、教養教育、専門教育及び国際性涵養教育に関する授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を行います。

また、試験により学修成果を厳格に評価します。

文学部は、大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、以下の方針でカリキュラムを編成します。

### 【教育課程編成の考え方】

4年間の学士課程を通じて、専門教育、教養教育、国際性涵養教育の3つの柱に基づいた科目編成を行い、人文学の高度な専門性と深い学識、幅広い教養、外国語の高い運用能力と異文化理解の能力に基づいた国際性、社会と文化を巨視的な観点から見通し現代社会の諸課題に取り組むデザイン力を養います。

**専門教育** ……………1年次配当の必修科目「文学部共通概説」により、人文学全般の基礎とアカデミックスキルの基礎を修得させ、2年次の専修分属以降は、「専門教育科目」により、当該分野の学問的特性にしたがって、専門的知識を系統的に養います。また、4年次には卒業論文を課すことで、教員の指導の下で自主的に主題を設定し、研究計画を構想・実行し、人文学的教養と専門的知識を総合する豊かな論述・表現能力を身につけるように導きます。

**教養教育** ……………1年次に全学共通教育科目により幅広い学問分野の基礎と情報リテラシーの基礎を学ばせたあと、2年次以降には「高度教養教育科目」により人文学以外の学問分野や領域横断的な分野に関する高度な教養を養います。

**国際性涵養教育** ……………1・2年次には、「国際性涵養教育科目」により2つ以上の外国語の運用能力を修得・向上させ、2年次以降には、「外国語科目」と「高度国際性涵養教育科目」により異文化や他者に対する感受性と知識を培います。また、海外の諸大学との交流協定等に則った留学、海外研修、国際交流への参加を促すことで、上記の能力や知識をさらに高めます。

### 【学修内容及び学修方法】

講義科目では、個々の主題に関する体系的な知識を習得するとともに、与えられる論述課題を通じて、自力で資料を収集・分析・考察し、その結果を的確かつ論理的に構成・表現する能力を身につけます。また、演習科目では、各人が口頭発表を行うことで、日本語ならびに外国語の文献資料の読解・分析能力、調査・研究を的確に遂行する能力、その結果を論理的かつ説得的に発信する能力を身につけます。なお、本学部では演習科目を重視し、2年次以降に演習科目を20単位以上修得することを卒業要件としています。

**専門教育** ……………全20専修の教員によるオムニバス形式の「文学部共通概説」の履修を通じて人文学全般に関する幅広い知識を得るとともに、専修決定の重要な判断材料とします。また、講義科目と演習科目からなる「専門教育科目」から選択履修します。専門分野によっては学外での実習やフィールドワークを取り入れた実習科目も開講しています。さらに、卒業論文作成を通じて、独自の課題について主体的に考究・発信する能力を身につけます。

**教養教育** ……………1年次には、少人数制の演習科目「学問への扉」、講義科目「基盤教養教育科目」、講義とeラーニングからなる「情報教育科目」等を履修します。また、2年次秋以降には、文学部および他学部等で開講する講義科目または演習科目である「高度教養教育科目」を選択履修します。

**国際性涵養教育** ……………1・2年次配当の「国際性涵養教育科目」および2年次以降配当の「外国語科目」を履修します。これらは外国語学習に主眼を置いた少人数制の科目であり、受講生の積極的な参加が求められます。英語の授業ではeラーニングも実施します。また、2年次秋学期以降には主として講義科目からなる「高度国際性涵養教育科目」を選択履修します。

### 【学修成果の評価方法】

講義科目、演習・実習科目においては、シラバス等に記載されている学習目標の達成度に従い、成績評価の方法（試験や課題、レポートなど）を用いて評価します。

卒業論文においては、主題選択の妥当性、論述の明晰さ、資料・文献調査の適切性、主張の独自性を総合的に判断し、評価します。



## Admission Policy

### アドミッション・ポリシー

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、高等学校等における学修を通して、確かな基礎学力及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。

#### 【求める人材像】

文学部は、古今東西の思想、言語、歴史、文学、芸術の分析的かつ総合的な探求を通じて対象を本質的に理解し、そこで得られた知見をもって現代社会の諸問題の解決に積極的に取り組む人材の育成を目的としています。そのため、本学部では、大阪大学のアドミッション・ポリシーをもとに、次のような資質を備えた学生を求めています。

- (1) 高等学校等で履修する主要教科の基本的な知識。
- (2) 日本語および外国語の文章を正確に読解する能力。
- (3) 論理的に思考し、自分の考えを口頭および文章で明晰に表現する能力。
- (4) 人文学についての基本的な理解と学問探究への強い意欲。

#### 【入学者選抜の基本方針】

本学部の入学試験では、上記の学生を多様な評価基準によって選抜するために、一般選抜、総合型選抜、私費外国人留学生特別入試を実施します。

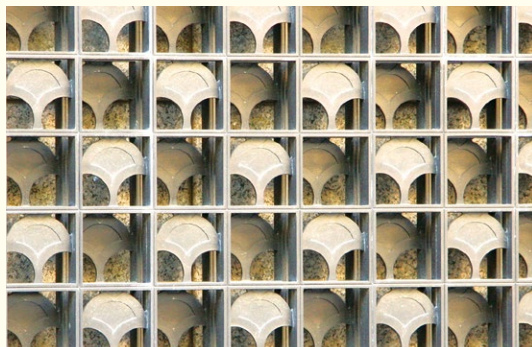
#### 【具体的選抜方法と、資質・能力との関係】

一般選抜では、(1)、(2)を重視し、大学入学共通テストで国語、地理歴史、公民、理科、数学、外国語を、個別学力検査では地理歴史または数学、外国語、国語を、それぞれ課します。(3)のうち、論理的思考力および文章表現力については、個別学力検査で評価します。

総合型選抜では、(3)、(4)を重視し、志望理由書や活動実績報告等の書類の提出を求め、小論文、面接を課します。

(1)、(2)については、大学入学共通テストで評価します。

また、私費外国人留学生特別入試を実施し、高い日本語能力と学問探究への意欲をもつ外国人留学生を選抜します。



## 文学部のカリキュラム

2019年度から開始された新カリキュラムでは、「教養教育」「専門教育」「国際性涵養教育」の3つの柱からなる縦型教育となっています。文学部の教育課程は、1・2年次の全学共通教育で開講する科目と、2～4年次の主に文学部で開講する科目によって編成されています。文学部を卒業するには、合計130単位以上を修得する必要があります。

## [履修モデル]

学年	学期	教養教育系科目	専門教育系科目	国際性涵養教育系科目	自由選択枠 (10単位)	
4年次	秋～冬学期	高度教養教育科目 (2単位以上選択)	卒業論文(10単位)	高度国際性涵養教育科目 (4単位以上選択)	自由選択枠 (10単位)	
	春～夏学期		専門教育科目 (必修28単位) (選択38単位以上選択)			
3年次	秋～冬学期		演習を20単位以上修得する必要があります。英米文学・英語学専修、ドイツ文学専修、フランス文学専修に所属する学生は、外国語科目2単位を含まなければなりません。			第1外国語 (8単位)
	春～夏学期					
2年次	秋～冬学期	健康・スポーツ教育科目(2単位)	基盤教養教育科目 (6単位以上選択) ※一部専門教育科目の単位となるものがあります。	選択外国語 (4単位)	グローバル理解 (8単位)	
	春～夏学期					文学部共通概説 (2単位)
1年次	秋～冬学期	学問への扉 (2単位)	※一部専門教育科目の単位となるものがあります。	第1外国語 (8単位)	グローバル理解 (8単位)	
	春～夏学期	※情報教育科目(2単位)				文学部共通概説 (2単位)

■ 履修クラスが決まっている必修科目   
 ■ クラス・教員等を選択して履修する必修科目   
 ■ 多数の開講科目から選択する科目  
 ※春学期のみの科目

## [卒業までに必要な単位]

## 全学共通教育で開講する科目 36単位以上

学問への扉…2単位 基盤教養教育科目…6単位

「哲学の基礎」「アジア史学基礎」「フランス文学入門」「芸術の歴史」「日本語学基礎」などから選択履修（一部、文学部の専門教育科目となるものもあります）。

情報教育科目…2単位 健康・スポーツ教育科目…2単位 マルチリンガル教育科目…24単位

○第1外国語 (8単位) …英語

○第2外国語 (4単位) …ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語の中から1つ選択。

○選択外国語 (4単位) …英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ラテン語、ギリシア語の中から1つ選択。

○グローバル理解 (8単位)

## 主に文学部で開講する科目 84単位

高度教養教育科目…2単位

「人文学概説」または他学部等で開講する高度教養教育科目を履修。

専門教育科目…78単位 (必修30単位+選択38単位+卒業論文10単位)

専修によって単位は異なります。専門教育科目のうち、「文学部共通概説 (2単位)」は、1年次に履修することができます。

この2単位は必修30単位に含まれます。

高度国際性涵養教育科目…4単位

文学部または他学部等で開講する高度国際性涵養教育科目を履修。

## 自由選択枠 10単位

高度教養教育科目や専門教育科目、高度国際性涵養教育科目などで要件単位よりも多く修得した単位が自由選択枠の単位となります。

# 履修のしくみ

文学部の対象とする分野は広い領域にまたがり、また多様な専門分野に分かれています。開講される授業科目の数は多く、めいめいの関心に応じた選択が可能です。教育カリキュラムにおいては、単なる知識の習得に満足するのではなく、考えるというプロセスとその論理的道筋を大切にしています。

### 第2外国語選択

入学前に第2外国語を選びます。外国語選択にあたっては、専修での研究内容を考慮した上で決定するのが望ましい形です。特に大学院進学を考えている人は、専門分野によっては入試で課せられる外国語について決まりがある場合がありますので、よく調べた上で選択してください。ただ、自分の趣味との関係や憧れの国の言葉だということを決めている人も多いため、堅苦しく考える必要はないでしょう。

### 文学部共通概説

2年次からどの専修に進学するかを決定する手助けになるよう、「文学部共通概説」が開講されています。文学部の教員が交代でそれぞれの研究や専修の概要について話をするガイダンスの色彩の濃い授業です。文学部のフィールドを知り、自分の好きな分野を見つけるのに役立ちます。

### 専修決定

大阪大学文学部の大きな特徴は、1年次に専修選択したのち、2年次から専修ごとに分かれ専門研究を行うことができる点です。専修決定をすると2年生から4年生の長い期間をその専修で過ごすこととなりますから、後悔しないよう慎重に選びましょう。1年次の必修である文学部共通概説の授業の一環として専修紹介と研究室訪問がありますので、この機会を利用して、積極的にいろいろな専修の研究室を訪れて先生方の話を聞いたり上級生や大学院生と話をしたりすることで、雰囲気や研究内容を知ることができます。好きな分野が最初からあって専修を決める人もあれば、1年次の文学部共通概説や全学共通教育科目の専門基礎教育科目を受講して興味を持って決める人もいます。また研究室の雰囲気で選ぶ人もいます。

### 卒論テーマ決定

担当教員の指導のもと自分のテーマを設定し、データを収集してそれを整理・分析し、自分独自の視点から問題を論じて卒業論文を仕上げます。

### 卒論提出

文学部での勉学の総決算です。心残りのないよう全力を尽くしてください。ただし、締切厳守ですからご注意ください。卒論提出の後は、口頭試験が行われます。必要な授業単位を修得のうえ、この試験に合格すれば晴れて卒業です。

## 資格



中村真菜美さん  
美術史学専修出身  
所属：石川県立歴史博物館

日本・東洋美術史研究室では作品を徹底的に「見る」ことを重視し、毎週1日かけて関西近郊の寺社や博物館・美術館に出かけていました。

私は石川県立歴史博物館にて美術担当の学芸員として働いています。とはいっても2020年4月に着任したばかりの「ひよっこ」で、目下、資料保存の難しさに悩み、そして人生初の特別展の準備に奮闘中です。

学芸員は、一般にはあまり知られていない職種ではないでしょうか。高校時代の私も、展覧会を企画する仕事かなと漠然と思っていました。そんな私が、いざ資格取得を目指してみると、講義数の多さ、領域の広さにびっくり。案外理系の知識がいることに対して不安を覚えたのも思

い出します。正直なところ、当時は単位を取ることに必死で、現場に出てみて、ようやく講義一つ一つの意義を再認識している次第です。

例えば、新型コロナウイルスの流行は博物館にも大きな影響を与え、当館も休館やイベントの中止を余儀なくされました。改めて学芸員の、博物館の存在意義が問われているようで、心細く感じる中、抛り処になったのは博物館学を通して、学び、考えたことでした。各講義では国内外の博物館をめぐる事例検討の時間が多かったのですが、SNS運用

をはじめとする情報発信のあり方など、今年まさに当館が直面した課題なども取り扱っていました。

しかし、より正確を期すならば、私が学芸員として抛り処にしているのは、博物館学に限らず、学生生活を通じての学びというべきかもしれません。大学の学びは答えがないとよく言いますが、答えがない中であれこれと考えた経験は得がたいものです。私が所属した日本・東洋美術史研究室では、作品を徹底的に「見る」ことを重視し、毎週1日かけて関西近郊の寺社や博物館・美術館に出かけていました。そのときには作品だけを見ているつもりでしたが、数多くの展示空間を目にする機会でもあったと言え、その場で先生や友達と話し合った内容も含めて、私の学芸員生活の糧になっています。

まだまだ「ひよっこ」の私ができるアドバイスは限られていますが、日々の生活で考えたことや目にしたものを大切に、「引き出し」を増やすことが学芸員への一歩だと思えます。

## 学芸員資格

大阪大学文学部で選択的に取得できる資格に学芸員資格と教員免許状があります。

学芸員とは、美術館や博物館で働く専門職員です。美術や歴史などに関わる資料の収集・保管・調査・研究を行うことや、展覧会の企画・開催を行うことが主な業務です。教育普及活動に従事することもあります。大学で学芸員資格を取得するためには、文部科学省令で定める博物館に関する科目を履修する必要があります。学芸員資格認定に関する科目については、実習を除いて2年次より受講できます。

### 博物館に関する科目

「博物館学」の授業を履修します。博物館全般にわたる概論に加え、資料や展示、保存、教育、生涯学習、情報メディア、経営など博物館の個別分野についての基礎を学びます。

### 博物館（学内）実習

豊中キャンパス内にある大阪大学総合学術博物館待兼山修学館などで、実習を行います。歴史・美術・考古の各資料を扱う実習に加え、総合学術博物館所蔵品などによる模擬展示を行います。

### 博物館（館園）実習

学外の博物館などに赴いて実習を行います。資料の取り扱いなどを実践的に学びます。主な実習先は「大阪歴史博物館」「大阪府立弥生文化博物館」「大阪府立近つ飛鳥博物館」などです。

私は中学校・高等学校の国語科の一種免許状を取得しました。所定の単位を修得し申請を行うことで、大学卒業時には一種免許状を、大学院修了時には専修免許状を得ることができます。私が教員免許を取るうえで最も苦労したことは、「教科等に関する科目」の単位の修得です。「教科等に関する科目」とは、主に文学部の授業として開講されている科目のことであり、国語科の一種免許状取得には、日本文学や日本語学、中国文学などの授業がそれに該当します。私は日本学専修に所属していたため、国語科の免許に必要な科目はすべて他専修の授業でした。自専修の講義や演習科目に出席しつつ、その他の時間を活用して他専修の授業を受講するという忙しい日々を送っていましたが、教員になりたいという明確な目的意識を持つことでがんばることができました。

私が教員を目指したきっかけは、高校時代の担任の先生との出会いでした。その先生は厳しさの中にも優しさがあり、雑談を交えながら生徒

## 林 将伍さん

日本学専修出身  
所属：兵庫県立西宮甲山高等学校



生徒と共に自分自身も常に進化し続ける教員が私の理想です。

を授業にひき込んでいく力を持っていました。私も教員生活2年目になりますが、ただ単に自分が身につけている知識を披露するだけではなく、「どのように学べば生徒の授業理解が深まるのか」「生徒が主体的に理解しようとするのはどのような授業か」などを問い続け、試行錯誤する日々です。上手いかず落ち込むこともあります。そのような機会を活用して自分自身も成長することができる部分に仕事のやりがいを感じています。生徒と共に自分自身も常に進化し続ける教員が私の理想です。

大学では、さまざまな学問分野に触れ、多様な知識や価値観を吸収することができます。先輩や後輩、同級生がそれぞれの興味・関心に沿った研究を行っており、今まで知らなかった世界がそこには広がっています。私は卒業論文で、運動部活動経験について研究しましたが、同じ研究室にはオタク文化や化粧文化の研究をしている人もいました。大学での4年間は、知的好奇心さえあれば常に学び続けることができます。ぜひ文学部での4年間に有意義なものにしてください。

## 教員免許

教員になるためには、各学校種ごとの教員免許状が必要です。(中学校・高等学校は教科ごとの免許状が必要です。)教員免許状を取得するためには、「特に文部科学省令で定める科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科及び教科の指導法に関する科目」「大学が独自に設定する科目」の各区分において定められた授業科目を履修する必要があります。1年次から計画的に履修するようにしましょう。

### 総合演習 (1年)

夏から秋にかけて、学校現場で支援活動を行う「総合演習」があります。体育大会の補助や臨海学校への参加など、内容はさまざまです。

### 介護等の体験 (3年)

中学校の教員免許状を取るために必要な実習です。老人ホームなどの社会福祉施設で5日間、支援学校で2日間の実習を行います。

### 【文学部で取得できる教員免許状と教科】

○中学校教諭一種免許状＝国語・社会・英語・ドイツ語・フランス語

○高等学校教諭一種免許状＝国語・地理歴史・公民・英語・ドイツ語・フランス語

※一種免許状を取得した後、大学院で所定の単位を取得し修了すると、専修免許状が取得できます。

### 教育実習 (4年)

原則母校で実習を行います。授業だけでなく、指導案の作成や他の授業の分析、ホームルーム活動なども経験します。

### 教職実践実習 (4年)

教職課程の総まとめとして、大学近隣の学校や施設で現場体験を行い、その後大学でワークショップ・討論形式の演習で締めくくります。

# 文学部生の生活



今坂朋彦さん

日本文学・国語学専修（4年）

これから大学に入る人へ。大学は思っているよりも自由です。「好き」を前面に出して気の合う仲間と好きなことをしてください。

サークル。夢や希望が詰まった言葉ではなからうか。斯く言う私も、サークルに恋愛にバイトに……、高校生の頃はそんな大学生活を夢見ていたものである。

しかし、私は最初のサークル選別に失敗した。のんびり文化系サークルに入ったつもりが、蓋を開けてみれば体育会系だったことが判明し、逃走。こうして、夏に所属先を失ったのだが、何もしない大学生活ほど寂しいものもない。無論、研究に4年間を費やすのは素晴らしいことではあるが、学生らしい活動もしたい

……とってしまった。大学ではたとえ一人きりであっても、サークルを名乗れば、それがサークルになるのだ。望むものが無いなら作る、そんな自由さが大学にはある。幸運にも、参加してくれる仲間恵まれて、私はビブリオバトルサークルの部長になった。ビブリオバトルとは、簡単に言えば、本の紹介ゲームである。詳しくは『ビブリオバトル公式ルール』で検索してほしい。そして、ビブリオバトルには全国大会もある。昨年はサークル内から私と後輩が決勝戦に出場し、後輩が全国優勝（後輩

に負けたのが悔しい）。何かと人前で発表する機会が多い大学生活、ビブリオバトルを通してプレゼン力を身につけようではないか。と、ふざけたような宣伝を試みたが、これが案外真面目なのである。私自身、高校生の頃は極度のあがり症であったのに、最近はどうやったらウケる話ができるかと大阪人根性を拗らせている。日ごろから練習の機会を持つことは、意外と大切だったりする。

最後に高校生にメッセージを書いてほしいと依頼されたのだが、どうも説教くさいのは苦手である。これだけは知っておいてほしいというもの一つ挙げるとすれば、大学は思っているよりも自由だということだ。気の合う仲間と自分の好きなことをする。これほど楽しいことはない。私自身、サークルを作ったことで思わぬ友達ができたり、作家と知り合いになれたり、さまざまな経験をした。高校生の皆さんにはぜひ、大学に入ったときには、臆することなく「好き」を前面に出して活動してほしいな、と思う次第である。

## 文学部の施設

主に授業を受けたり、研究室がある施設です。



### 文法経本館

1階には文学部教務係のほか事務部門が入っており、学生自習室や教育支援室など学生スペースも設置されています。2階から上には研究室や演習室があります。



### 日本学棟

日本文学専修と日本語学専修の研究室があります。



### 芸術研究棟

主に美学・芸術関連の授業および研究が行われます。1階には視聴覚編集機材のあるメディアラボがあります。



### 文法経講義棟

文学部の専門教育の授業が行われます。1階にはリサーチ・commonsがあります。

わたしは現在、哲学を学んでいます。1年の時、哲学サークル「希哲会」を見つけたのが、哲学を勉強したいと思ったきっかけです。

希哲会は2015年に有志で立ち上げられた哲学研究会で、今は約20名が活動しています。わたしは文学部の学生ですが、基礎工学部や人間科学部、理学部、外国語学部の会員が半数を占めています。主な活動は週に2度の読書会と、1年に1度刊行する機関誌『希哲』の執筆・編集作業です。読書会とは、会員と一緒に読みたい本を半期に数冊選び、それらを約5か月かけて少しずつ読み進める活動です。一人で読むのが難しい本でも、友達と一緒におしゃべりしながら読み進めれば、思わぬ論点も見えてきて、そこが読書会の面白いところです。

また機関誌については、会員が自由に原稿を書いて、それらを互いに校閲・編集し、一冊の雑誌としてまとめあげる、ということをしています。内容はかなり自由で、好きな哲学者の思想を好きなアニメと結びつ

澤井優花さん

哲学・思想文化学専修（3年）



哲学サークル「希哲会」にて、読書会と機関誌の執筆・編集作業をしています。

けて論じたり、芸術作品の批評をしたり、小説や短歌を書く会員もいます。校閲や編集作業はすこし大変ですが、自分の原稿が本になって人々の手に渡るという経験は貴重です。

活動内容をこうして見てみると、忙しそうなサークルにも思えますが、会員それぞれの予定をききながら活動することで、個人の学業との両立を図っています。また読書会のような活動は、本を読むというより、読んだ本の好きなところをおしゃべりする、といった感覚に近く、息抜きにもなっているような気がします。こ

うした活動を通じ、研究者を目指している会員もいます。わたしは現在、大学院への進学を目指しています。

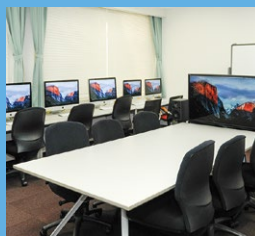
よく哲学は「日常を疑い、普遍を探求する」学問と言われますが、わたしは「自分を疑い、他者を見つめる」側面もあるように思います。文学部での学びも、直接には目に見えづらけれど、わたしたちと他者とのありように深く根差すものなのではないでしょうか。みなさんも、こうした意味での哲学や、文学部での学びに興味を持っていただけたら幸いです。

## 学生スペース 自習や研究に利用できるスペースです。



### 学生自習室

各種の辞典・事典や文学部の多様な研究分野に関する参考図書、最新の各種専門誌、パソコン、プリンター等が備えられており、落ち着いた環境で授業の予習、復習、その他の学習研究に取り組むことができます。



### メディアラボ

学生・教職員のメディア関連活動をサポートするための施設で、デジタル機器とアプリケーションが各種揃っています。一部機材の貸出もしています。Web制作の実習型メディア関連授業もここで開講されます。



### 教育支援室

学生の学習・生活・就職など多様な活動を支援するため、パソコン、プリンターの設備とともに、ミーティングスペースも設けられています。メールによる学習や生活等の相談も受け付けています。



### リサーチ・commons

学生や教職員の学習・研究・課外活動のための施設です。事前に申し込みればグループで利用することができます。

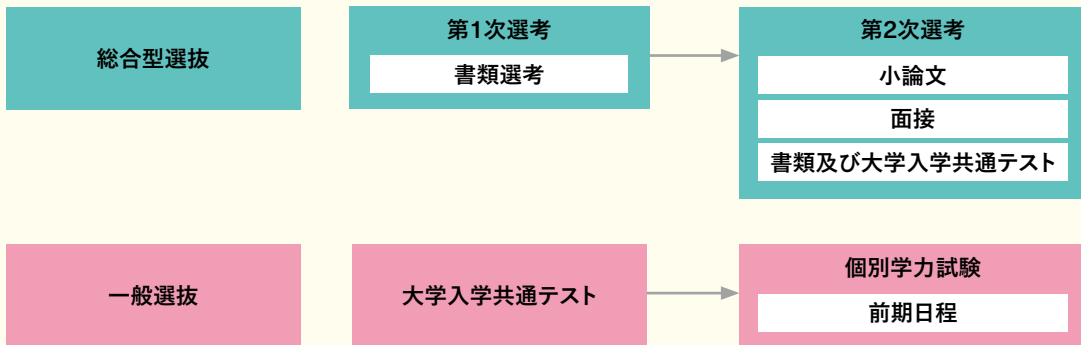
# 文学部の入試案内

文学部では、「一般選抜（前期日程）」と「総合型選抜（旧：AO入試）」を実施しています。

## 文学部入試概要

一般選抜（135名）

総合型選抜（30名）



## 総合型選抜について

21世紀のグローバル社会で活躍する、主体的に学ぶ態度と能力を身に付けた意欲的な人材を受け入れます。

第1次選考は提出書類に基づいて行います。

第2次選考は第1次選考合格者に対して、小論文及び面接による試験を実施し、

大学入学共通テストの成績、提出書類、小論文、面接の結果に基づいて、合格者を判定します。

**第1次選考**  
書類選考

### 書類選考

高等学校在学期間における文学部の学問（哲学・歴史学・地理学・文学・芸術学・日本学など）に関連する活動、高い外国語能力を示す書類などを提出。

- 11月 …… 第1次選考（書類選考）
- 12月 …… 第1次選考合格者発表
- 12月 …… 第2次選考（小論文・面接）
- 1月 …… 大学入学共通テスト
- 2月 …… 第2次選考合格者発表

**第2次選考**  
小論文  
面接  
書類及び大学入学共通テスト

### 小論文

日本語の文章を読んだうえで小論文を作成。読解力・論理的思考力・表現力などを判定。

### 面接

一人ずつ実施。30分以内。

### 第2次選考の合格者判定

小論文・面接・書類・大学入学共通テストの結果を合わせて判定。



「総合型選抜」の詳細情報は、大阪大学のホームページをご覧ください。  
<https://www.nyusi.icho.osaka-u.ac.jp/>







## Philosophy Thought and Culture

# 哲学・思想文化学専修

哲学は諸学の基礎の基礎に位置する学問です。例えば、何かが「存在する」とはどのようなことか。「意味する」とはどういうことか。意見が違うのに、違うということだけは一緒に確認できてしまうのはなぜか。根拠付けができたためしがないのに、なぜ現実には崩壊せず歴史は終わらないのか。そして、こんなことを問うているのは、心なのか脳なのか何なのか。哲学はこうした問題に取り組んできました。あまりに基礎的なので、現在でもこれに代わる分野は他にありません。

私たちの専修では、西洋の近世から現代までの哲学思想の研究を行っています。教員は全員古典と現代哲学思想の両方に通じ、専門領域をあわせるとドイツ系、フランス系、英米系のすべてをカバーしています。私たちは「なぜ」という疑問をとことん考えるための手ほどきと時間を提供し、助けます。

## 教員

ふなば・やすゆき  
舟場保之 教授  
もちづき・たろう  
望月太郎 教授  
なかむら・まさき  
中村征樹 准教授  
よしめ・みちひと  
嘉目道人 准教授  
みき・なゆた  
三木那由他 講師

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/philosophy/>

## 何を学んでいるの？

### 哲学の基礎 A

言語哲学、認識論、心の哲学、社会哲学などの哲学的問題をとりあげ、解説の後、より深く広い視野から考える力を身につけるため、各自で問いに答えを与える訓練を重ね、心と頭の柔軟体操を行います。

### 哲学の基礎 B

ひとりの哲学者が書いた論文を手がかりにして、ギリシア哲学—中世哲学—近代哲学—現代哲学と、どのような問題がどのように引き継がれ、どのような回答が与えられてきたのかを、振り返りながら自分自身で考えることの重要性を学びます。

## どんな授業があるの？

### 【講義題目】

西洋哲学通史  
J.ハーバーマスの思想  
ポール・グライスの哲学体系  
先端科学技術と社会

### 【演習題目】

パース著作集を読む  
論理学初級  
モンテスキュー『法の精神』を読む  
ドイツ哲学基本文献講読

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### リベラリズムにおける寛容への批判

J.ロールズに代表される現代のリベラリズムが、政治的に解決されるべき差異を私的領域における本質的な差異として捉え、その対処を寛容に委ねている点を批判的に考察するとともに、こうした本質主義を脱構築する公的領域の形成に向けた提言が行われる、非常に優れた論文。(選：舟場保之教授)

### 【卒業論文題目】

家父長制と資本制——性差別のしくみ  
B.ラッセルにおける知識の分析  
諸国家連合と世界市民体制  
精神医学における生物・心理・社会モデル

自分の頭で深く考えたい人はぜひ来てください。

学生インタビュー

なぜこの専修を選びましたか？

**T.A** 哲学というと、一つ一つの言葉を大事にして、深く読み込んでいくという感じがしています。そういう意味で一番細かい議論をする学問だと思います。より深いところ、理論のようなところをしっかりと勉強したいと思い、哲学・思想文化学専修を選びました。

それは例えば何についての理論ですか？

**T.A** 例えば、「自由」についてです。そもそも自由なんてものがあるのか、からはじまって、ないとしたら、どうして私たちは自由があるような気がしてしまうのか、までです。

普段当たり前に使っている基礎的な言葉の意味にまで遡って考えることが哲学なのだと思います。

「自由」といった哲学の問題をどのように研究していますか？

**T.A** 今は哲学者の書いた本を読んです、その哲学者について研究しています。原書を読むために語学を勉強したり、他の授業もあるので、今は自分の問題としたいテーマを直接に扱うための準備をしているという感じです。

**A.N** 研究室にはアレント、ウィトゲンシュタインなど特定の哲学者について研究している人もいますが、「自由」を主題として複数の哲学者を

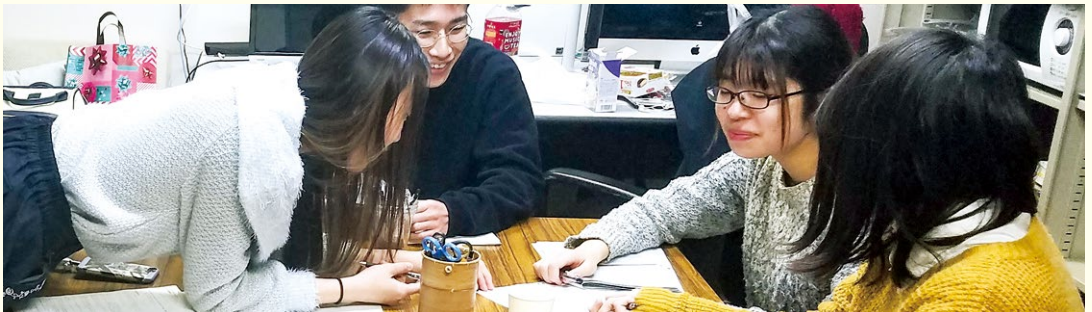
研究する人もいます。

最後に研究室の雰囲気をお話してください。

**T.A** 真面目な人が多いような気がします。実際、専修イメージランキング(『文学部紹介2013-2014』)では、「真面目な人が多そうな専修」で、ぶっちぎりの1位でした。

**A.N** それは、あくまでも「多そう」だから(笑)。

**T.A** 一匹オオカミは多いかもしれませんが。ただ、大学院生も多く在籍していて、語学や研究のことでいろいろ教えてもらうことができますし、また読書会も多く開かれていますので、研究するには良い環境です。



研究室に関わる書籍をご紹介します。

書籍紹介



『超越論的語用論の再検討』

嘉目道人：著／大阪大学出版会／2017

アペルが提唱した超越論的語用論は、現代ドイツ哲学の言語論的転回を主導したことで知られていますが、「究極的根拠付け」を重視するその思想は多くの批判も受けました。本書はフィヒテ哲学との関連から、超越論的語用論の擁護を試みています。



『話し手の意味の心理性と公共性』

三木那由他：著／勁草書房／2019

コミュニケーションとはいったい何でしょうか？ 改めて考えると、これはなかなか難しい問題です。グライスという哲学者は、この問題に話し手の意図という観点から答えようとしていました。本書では、そうしたグライスの議論の問題を指摘し、まったく別のコミュニケーション観を提示しようとしています。



『メタフシカ』

『Philosophia OSAKA』

哲学・思想文化学専修では、倫理学専修とともに『メタフシカ』を年1回発行しています。教員だけでなく、大学院生が研究成果を発表する貴重な場となっています。また、海外に向けて研究成果を発信するために、欧文雑誌『Philosophia OSAKA』を発行しています。





## Ethics

# 倫理学専修

倫理学は、私たちが社会の中で他者とともに生き、ともに何かをすることについて考える哲学の一分野です。扱われるテーマも、いのちと心、自己と他者、教育・福祉の問題、正義と暴力、性とジェンダー、マイノリティなど多岐にわたります。こうしたテーマに取り組むには、古今東西の哲学・倫理学の文献研究を基礎としながら、読む力・考える力を身につけること、また実際に社会で問題になっている事柄に向き合い、異分野の人たちと対話する力を養うことが大切です。

自分でじっくり考えると同時に、人々との対話の中で考えを発展させる。こうした倫理学専修の教育プログラムは、大学院での臨床哲学にも接続されています。大学院生や社会人とともに、対話法のプログラムや、より具体的な問題について、調査、ワークショップ、研究会、シンポジウム等を行っています。

<http://clphhandai.blogspot.com/> (大阪大学倫理学・臨床哲学研究室ブログ)

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/clph/index.html>

## 教員

ほりえ・つよし  
堀江 剛 教授

ほんま・なほ  
ほんま なほ 教授

こにし・まりこ  
小西真理子 准教授

## 何を学んでいるの？

### 倫理学講義

西洋中心の哲学・倫理学説が目に向けてこなかった視点からなる「新しい倫理学」を提示する。そこから現代の道徳規範や諸問題を批判的に考察するとともに、問題となる状況を生き抜くひとたちの生き方から倫理学を考える。

### 倫理学演習

わたしたちが生きるこの社会の中のままさまざまな問題を倫理的に考え、書くしかたを「レシピ」に喩えて学ぶ。倫理学をできあがった学説や理論としてではなく、他者とともにつくり、あじわい、批評する一連の行いとして、やってみよう。

## どんな授業があるの？

### [講義題目]

社会哲学講義：

コミュニケーションの哲学  
ジェンダー・セクシュアリティ研究  
基礎特殊講義

臨床哲学講義：ケアの倫理と臨床哲学

### [演習題目]

対話技法論演習：

ソクラテック・ダイアローグ  
ジェンダー・セクシュアリティ研究  
基礎演習

社会哲学演習：応用倫理文献講読

臨床哲学演習：ギリガンを読む

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### ラベリングの困難性に見る、アダルトチルドレンと毒親の倫理

自らをアダルトチルドレン（家族に起因するトラウマを抱えている人）だと認めることに伴う困難性に着目することで、臨床家らによって有害だと否定されがちな「毒親」概念が、いかなる状況においても一貫して虐待された子どもの立場に寄り添う概念であることを論証した。（選：小西真理子准教授）

### [卒業論文題目]

化粧を経験する：フェミニスト現象学による

生きられた身体経験の考察

ドーピングはなぜいけないとされるのか

：エンハンスメント議論を中心に

「うまれ」と決定：誕生に関わる自己決定を考える  
依存症からの回復の語りを聞くために

：ドラッグの使用をめぐる

## 研究することは、自分がどう生きるかに関わっています。

研究室レポート

### 研究室の魅力は？

**T** 私は化粧について研究しています。はじめはどうやって研究にするのか分からなかったです。でも発表すれば、いろいろアドバイスをもらえます。その中で自分にじっくりくする方法を模索できる土壌がここにはあると思います。

**N** 一つの実験室なのに、全然違った見方や違った知識に触れられるのがいいところかなと思います。今、自分の関心を考える手がかりが増えていると感じます。

**H** これは当たり前だよなとか、これはダメだよなというところにある声も切り捨てずに拾ってくれると思

います。そういう考えに触れると、自分が今までどれだけいろんなものを切り捨ててきたかということに気づけて面白かったです。

### 研究室で学んで変化したことは？

**T** 以前は研究することは、一つの独立した活動だと考えていたんですけど、実際に自分がどう行動するか、どう生きるかということに関わっていると思うようになりました。

**Y** 自分がどうなりたいかとか、そのためにはどうすればいいのかとかいうことをよく考えるようになりました。哲学は現実の生活にとっても関わりがあるもので、例えば、なりたい自分について、ことばで教えてく

れるなどと思います。

**H** 人と話すときに話し方が変わったと思います。対面した人と話しているとき、今まで自分が考えに入れてこなかったことを考えながらやりとりするようになりました。考えの選択肢が増えて、幅が広がりました。

### 先輩に向けて一言！

**T** モヤモヤした気持ちを抱えている人、ちょっとした火種はあるけれど、それを考える方法がうまく分からないという人は、この研究室が合っていると思います。

**Y** ここでの勉強は生き方にすぐ関わるなどと思います。自分の生とか世界について考えることができます。



## 研究室に関わる書籍をご紹介します。

書籍紹介



『こどものつがく：ケアと幸せのための対話』シリーズ臨床哲学3巻  
鷺田清一：監修／高橋綾・ほんまなほ：著  
大阪大学出版会／2018

子どもや若者たちと対話しながら、日々おもうこと、かんがえたことないこと、いえないうこと、いいたいことを、すこしずつ、つまかさね、「哲学」ではない、愛と幸福と知恵がつかがる「フィロソフィ」の原点にたちかえります。



『ソクラテック・ダイアログ：対話の哲学に向けて』シリーズ臨床哲学4巻  
中岡成文：監修／堀江剛：著  
大阪大学出版会／2017

専門的な知識に頼らず、対話を通して「哲学する」魅力。ソクラテック・ダイアログは、少人数の参加者で行う哲学対話ワークショップの方法です。その歴史・ルールなどを、いくつかの事例とともに紹介します。



『共依存の倫理：必要とされることを渴望する人びと』  
小西真理子：著  
見洋書房／2017

病理と非病理、偽物の愛と真実の愛、不幸と幸福、支配・従属と支え合い。多くの両義性を抱える「共依存」をめぐる言説を分析することで、臨床の専門家や各領域の理論家が見逃してきた倫理を提示します。



## Chinese Philosophy 中国哲学専修

諸子百家に代表される中国の思想は、世界と人間に対する深い洞察にあふれ、わが国を含む東アジアの文化形成にも大きな影響を与えてきました。

中国哲学は、中国古典の精読を通じて、広く東アジア世界の文化的・思想的特質を解明する学問です。本専修では、中国の思想形成を考える上で重要な儒家・道家・法家・兵家などについて学びます。また、これらの伝統的な典籍に加え、近年次々と発見されている新資料（竹簡）を活用して、通説の見直しを進めていきます。

さらに、大阪大学文学部の源流として知られる江戸期の学問所「懐徳堂」についても取り上げます。附属図書館が所蔵する懐徳堂関連の貴重資料に触れながら、実証的に日本漢学やその基盤となった朱子学を学ぶことができます。

目標としては、漢文訓読の基礎力や専門知識を身につけ、未知の資料の読解および多角的視点による考察を通して、中国思想史の謎や我々の生活に根付いた人間観のルーツの解明を目指します。実は身近であるにもかかわらず、あまり知られていない中国の思想について、ここでじっくりと考えてみませんか。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/chutetsu/>

### 教員

ゆあき・くにひろ  
湯浅邦弘 教授  
しん・ひよん  
辛賢 講師

### 何を学んでいるの？

#### 中国哲学演習——中国出土文献の研究

近年発見された戦国時代、秦代、漢代の竹簡資料を取り上げ、伝世文献と比較しながら精読します。毎回、担当者が釈文、訓読、和訳、語注を記したレジュメを元に発表し、全員で検討を進めます。

#### 中国哲学講義——易のはなし

もともと民間の占いのために作られた易は、のちに儒教に取り入れられ、五經の首位を占める経典となりました。本講義では、中国の長い歴史の中で易がどのように読まれ理解されていたのか、その思想史について概説します。

### どんな授業があるの？

#### 〔講義題目〕

中国思想史概説——諸子百家  
易のはなし  
中国の神仙思想と死生観  
——不老不死への道

#### 〔演習題目〕

懐徳堂文庫漢籍の研究  
中国出土文献の研究  
中国文献学演習Ⅰ・Ⅱ  
論文作成演習

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 『孫子』における「天」の概念について

中国を代表する兵書である『孫子』は、『論語』と並ぶベストセラーです。合理的な兵法を展開する『孫子』が「天」をどのようにとらえ、自身の兵法に取り入れていたのか、新たに発見された竹簡資料とともに検討している意欲作です。（選：湯浅邦弘 教授）

#### 〔卒業論文題目〕

中国古代における遇不遇論  
上博楚簡『恒先』の研究  
——「名」思想を中心に  
富永仲基の礼楽観——懐徳堂との関係を中心に  
藤澤東暎『辨非物』にみる泊園学の思想的特徴

## 漢文の読解、その意義の考察が主たる学習となります。

学生インタビュー

### この研究室を選んだきっかけは？

『三国志』がきっかけで中国古代史に惹かれました。漫画や小説、研究書などを読んでいくうちに、この時代の根底に流れる思想や宗教観に興味を持ち、今日に至ります。高校時代に読んだ新書の著者である湯浅先生が中国哲学研究室の教授だということも、選んだ要因の一つです。

### 研究室ではどのようなことをするのですか？

主に、漢文の読解とその意義の考察を行っています。演習では、竹簡の解読をしたり、懐徳堂の貴重資料について考察したりしています。初めて見る文献・資料が多く、毎回新

鮮に感じています。

### 研究室に入ってよかったことは？

学生数が他の研究室に比べて少ないですが、それゆえ多くのメリットがあります。最大の利点は、研究室に馴染みやすいことです。阪大文学部では、2年生からそれぞれの研究室に配属されます。ただ、研究室には多くの先輩がおられることなどから、他専修の友人の多くが「研究室に入りづらい」と話していました。その点、この研究室は人数が少ない分、先輩方との距離が近く、研究室という新たな環境に早く慣れることができました。また、演習での発表の機会が多いため、後々必要になるプレ

ゼンテーションやレジュメ作成の練習が早い段階からできます。先生との距離も近く、自分の学習についての確かなアドバイスをいただけることも、少人数ならではの利点です。研究室に配属されて1年目から、充実した日々を過ごしています。

### 先輩の皆さんに一言

中国哲学の分野は大変広く、必ず皆さんに合ったものが見つかります。勉強する人にとって最適な環境も整っているので、おすすめです。私たちと一緒に勉強してみませんか。

[インタビュー協力]

永田陸登(4年)



## 研究室に関わる書籍をご紹介します。

書籍紹介



### 『教養としての中国古典』

湯浅邦弘：編著／ミネルヴァ書房／2018

『論語』『老子』『戦国策』『列女伝』などの代表的な中国の古典を、最新の研究成果を踏まえて解説した書。今では見る機会が少なくなってきた写本・版本の図版や、原典に親しめる「名文読解」も収録し、中国哲学の基礎を学ぶのに適した入門書となっています。



### 『中国思想基本用語集』

湯浅邦弘：編著／ミネルヴァ書房／2020

古代から近現代に至る中国思想の主要な用語を網羅したコンパクトな事典です。全体を時代順・テーマ（人物・事項・文献）別に六つの章に分け、豊富な図版、資料、名言からコラムまで、楽しみながら読める充実の一冊です。



### 『荀子』湯浅邦弘：著／KADOKAWA／

角川ソフィア文庫／2020

『荀子』の主要な篇について、平易に解説した入門書です。第一部『荀子』の名言を読む』では、現代語訳・書き下し文・返り点付き原文に沿って、荀子の言葉を紐解きます。第二部『荀子』の思想に学ぶ』では、竹簡資料の情報も織り交ぜながら、改めて荀子の思想を解説します。



## Indian Philosophy

# インド哲学専修

インド哲学専修では、仏教を含めた古典インドのさまざまな思想や宗教の研究を行います。具体的には、主としてサンスクリット語（梵語）やそれから発展した言語（パーリ語など）で書かれた文献の解読が研究の中心となります。サンスクリット語は初心者には難解に見えますが、内実はとても明晰な言語です。これを用いるインド哲学も実に「道理にかなった」世界で、批判的・論理的思考が研かれるとともに、現代社会が求める、課題を自ら見つけ解決する能力の訓練にも格好です。幅広い原典を読み解くことで、例えば業や輪廻<sup>ごうりんね</sup>といった思想が既に仏教以前に展開していたことや、インドの仏教が現在の日本の仏教と如何に異なっていたかが理解できます。上記古典語以外にも、諸現代語（辞書や文法書、研究書を利用するのに、重要性の順から独・英・仏語）をはじめとする訓練を根気強く積むことが必要ですが、難問を解決することが好きなチャレンジ精神に富む人には飛躍の舞台となることでしょう。

教育目標としては、2年次で、サンスクリット語をはじめとした基礎的な知識や学力を充実させ、3年次からは、大学院生との学問的な相互交流の中で原典を用いた研究資料の読解を開始し、4年次において、原典資料の的確な把握と正しい論理展開に基づいた卒業論文を作成することを目指します。

### 教員

どうやま・えいじろう  
堂山英次郎 教授  
なわ・りゅうけん  
名和隆乾 講師

<https://handai-indology.wixsite.com/home>

### 何を学んでいるの？

#### インド学の基礎

古いサンスクリット語で伝承されたヴェーダと呼ばれる祭式文献に基づき、仏教以前のインドの社会や世界観について講義します。文化的源流であるインド・ヨーロッパ語族にも触れます。

#### インド仏教史概説

「インド学の基礎」で学んだヴェーダ文献以後、仏教を中心としたインド思想がどのように展開していくかを時代順に講義します。現代語訳を通して原典資料に触れる機会も多く持ちます。

### どんな授業があるの？

#### [講義題目]

古代インド諸思想を読み解く  
——ヴェーダから仏教へ

#### [演習題目]

ヴェーダ文献研究1  
パーリ語文献研究1  
死後の諸世界とそこに至る道たち

演習科目は、言葉を厳密に分析しながら原典を精読する、本専修の中核をなす授業です。昨年度はバラモン教聖典『リグヴェーダ』(前1200年頃)、イランのゾロアスター教聖典『アヴェスタ』(前10世紀頃?)、インド初期仏教聖典『ダンマパダ』(前4-3世紀頃?)等を講読しました。

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### パーリ三蔵における無常 (anicca)・苦 (dukkha)・無我 (anattan) の研究

インド初期仏教における非我説を巡る重要語の一つ「確立した自己 (thitattan)」の意味内容について一次文献から用例を精査し、定説が当該語を修行完成者の形容語のみとするのに対し、別の用法も見られることを指摘した堅実な文献学的研究で、少し手を加えれば学術雑誌に投稿し得る内容です。(選：名和隆乾 講師)

#### [卒業論文題目]

『マハーバーラタ』モークシャダルマ部における林住者の生き方について  
パーリ三蔵における無常 (anicca)・苦 (dukkha)・無我 (anattan) の研究  
古代インドにおける kūrma 「亀」  
Aṅgulimāla-sutta の考察



## 異なる価値観を否定せず、考える力を養います。

本研究室を選んだきっかけを教えてください。

**福島** 僕は以前からインドの古代美術と、それと根底で関わりあう哲学や神話に関心があり、これらすべてを扱うことができるからです。

**松尾** 私も宗教や思想に興味があり、一から学べるジャンルに挑戦したいと考え、インド哲学専修を選びました。

**片桐** 研究室の先輩が淹れてくださったコーヒーがとても美味しかったことがきっかけ……というのは半分冗談です。高校生の頃にサンスクリット語と仏教とに興味を持ち、「いつかは仏教の原典を読めるようになりたい!」と秘かに野望を抱いていました。本研究室では、サンスクリット語やパーリ語を学ぶことができ、なおかつ仏典を研究することができるので、つまり私の野望を叶えることができるわけです。

**林** インド哲学に初めて触れたのは、文学部共通概説の授業でした。古代インドの「この世で徳を積んでおくと、あの世で徳がお金に還元されて遊んで暮らせる。そしてお金がなくなると、またこの世に戻ってくる」という考えが面白くて、研究室に行ったんです。すると堂山先生が「自らのものとは全く異なる価値観を『おかしい』と否定するのではなく、彼らなりの理論を受容し考える力は、きっとこの先役に立つ」と話してくださいました。「何もわからないけれど、ここにいれば全く新しい視点

から世界を見つめられる」と確信し、ここに入ろうと決めました。

授業ではどのようなことをしますか?

**松尾** 二年次にはまず、インド哲学を学ぶうえで必須となるサンスクリット語を学習し、その後、ヴェーダの読解やパーリ語を用いた仏典の読解へ進みます。

**片桐** 三年次からの演習では、予習として、授業で扱うテキストの一語一語を、参考文献を参照して調べてみます。予習のときにすんなりと読めた場合、私は「このテキストを完全に理解した」と錯覚してしまうことが時たまあります。ところが、先生方のご指摘や参加者からの質問によって、予習の段階では見落としていた問題が次々と見えてきます。「完全に理解した」と鼻を高くしていたおのれの慢心を思い出して恥ずかしくなります。

**松尾** 先生方や先輩方に丁寧な指導をしていただき、人文科学に取り組むうえで必要となる学術的な態度を多く学ぶことができる、これは少数の研究室ならではのですね。

後輩へのメッセージをお願いします。

**片桐** 読書は一人でもできますし、さしあたり自分自身が本の内容に納得すれば、それは充実した読書だと思います。他方、研究は一人できるものとは言い難く、先生方や学友との議論を通じて、共通の理解を積み重ねていくことにより、充実した研

究が生まれるのだと思います（もちろん、私は読書も大事だと思いますが）。そして、本研究室には、「読書」するためではなく、古典インド語文献を「研究」するための環境が整えられていると思います。一緒に研究しましょう!

**林** 長い歴史を越え現代まで残ってきたインドの文献たちには、不思議な美しさがあります。読解は困難を極めますが、得るものは大きいです!

**福島** この研究室はインド哲学という名前ではありますが、研究対象は多岐にわたり、哲学はもちろん、比較言語学や文芸学的な研究も可能ですし、自分のように医学の分野に関わることもできます。インドの古典を取っ掛かりとして、一つ一つが非常に深みのあるさまざまな分野と携われることが、この研究室の何よりの魅力であると思います。もし「まだやりたいことがわからない」、逆に「いろいろ興味あるけど選べない!」という方がいたら、一度研究室に足を運んでみてほしいです。もしかしたら「インド」という観点から、あなたの知的好奇心をくすぐる何かが見つかるかもしれません。

[インタビュー協力]

片桐(4年)、松尾(4年)

福島(3年)、林(3年)





## Japanese History

# 日本史学専修

1854年、ペリー率いる黒船の威力に屈して日米和親条約を結び鎖国は終わった——この一見自明な事実を証明するには、数多くの史料を発掘し、さまざまな手続きを経る必要があります。また、日米和親条約の締結を広く東アジアの中に位置づけることで、今までの理解とは違った側面が見えてくるかも知れません。

皆さんは、これまで専ら他人が書いたものによって歴史を学んできたはずです。大学では、自ら課題を設定し史料を集め、自らの方法で独自の結論を得ることが求められます。本専修では、このような基礎的能力を身につけるため、各時代の演習・講義を用意しています。皆さんはそれらを学んだ上で、最終的には卒論という形で自己の見解を披露することになります。

研究室では、院生・学生が絶えず議論をたたかわせています。春と秋には恒例の研究室旅行があります。さまざまな場を通して大いに自分を磨いてください。

### 教員

いづか・かずゆき  
飯塚一幸 教授

かわい・やすし  
川合 康 教授

いち・ひろき  
市 大樹 教授

ばんせ・あけみ  
伴瀬明美 准教授

のむら・げん  
野村 玄 准教授

<https://sites.google.com/site/osakauniversitynihonshi/>

### 何を学んでいるの？

#### 古代史の考え方

##### ——古代史と現代社会

この講義では、災害と復興、歴史教科書、陵墓、皇位継承、天皇号、日本国号、文字、その他さまざまな話題を取り上げながら、古代史が現代社会とも密接に関わっていることを明らかにします。

#### 日本史上の根本問題

##### ——日本とは何か、天皇とは何か

この授業では、天皇号の成立に関する学説を検討し、憲法に規定される天皇という称号の意味を考えます。歴史的に連続するのか、または断絶しているのか、双方の見方に配慮して多角的に講じます。

### どんな授業があるの？

#### 〔講義題目〕

新出資料による日本古代史像の再検討  
——宮都の成立過程を中心に④  
源頼朝論／中世天皇家の諸相  
日本近世国家論・日本近世政治史の新構築  
自由民権運動の再検討

#### 〔演習題目〕

日本古代史料演習（『令義解』・『七大寺巡礼私記』等の講読）  
中世史料講読（『玉葉』・『東寺百合文書』）／日本中世古文書演習  
日本近世史くずし字読解演習  
／近世古文書の解読と整理  
日本近代史料演習（『ペルツの日記』・『山県有朋関係文書』）

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 福岡水亜「9世紀における瑞祥の変化と歴史的背景」

天皇の治世を正当化する役割を担った祥瑞（めでたい吉兆）について、件数の増減、献上方法、褒賞のあり方に着目しながら分析し、8・9世紀における変化の過程とその歴史的意義を浮かび上がらせることに成功しました。完成度が高く、即座に学術雑誌に掲載されました。（選：市 大樹 教授）

#### 〔卒業論文題目〕

『続日本紀』編纂の原史料と天文異変記事  
中世における東大寺再建の展開と政治的背景  
信長の子息育成と織田家継承構想  
初等教育成立過程における改正教育令期の  
歴史的意義

日本史研究室はとてもアットホームな雰囲気、研究室構成員同士の仲が良いのが自慢です。先輩も後輩もみんな勉強熱心で、刺激を受けながら勉強することができます。学年の枠をこえた交流の機会もたくさんあります。ここではその一部を紹介します(2020年度は新型コロナの影響で一部中止あり)。

### 旅行

#### 新入生歓迎旅行

毎年5月に行われる新入生が主役の旅行です。日帰りで関西圏の身近な史跡を巡ります。有名な寺社から普段は見過ごすような史跡まで、実際に歩きながら見学します。2019年度は山科方面(毘沙門堂・山科本願寺など)を訪れました。2年生にとっては初めての大きな研究室行事であり、新入生・上級生双方にとって交流を深められる場となっています。

#### 研究室旅行

10月に2泊3日で行われる研究室最大のイベント。2019年度は紀伊半島方面(熊野本宮大社・和歌山県立博物館など)を巡りました。院生と学部生が協力して旅行委員会を結成し、学生主体で旅行を計画しています。見どころを詰め込んだ史跡見学はもちろん、学年の枠をこえて研究室構成員同士が交流を深めたり、先生方とたくさんお話ができたりするのが、この旅行の醍醐味です。

### 授業・例会

#### 史料演習

先行研究で史料がどのように使用されてきたかを通して、研究の中で史料を使用する方法を学びます。教科書に登場する人物の日記や書簡を読むことは、彼らの新しい面を知ることができるようでとてもわくわくします。また、自分だけでは思いつかなかったアイデアが演習の議論の中で生まれることも多く、史料と向き合うことで新たな見識が得られることを実感できる場でもあります。

#### 古文書演習

くずし字の読み方を学ぶことに始まり、現物の史料整理を学ぶことで日本史学の研究に不可欠な史料との向き合い方を学びます。この授業では本物の古文書にふれながら史料整理の方法を学ぶことを目標とします。長期休暇中の学外での古文書整理合宿や、研究室が借りている古文書を月1回程度整理する会もあり、日本史研究室では古文書にふれる機会がたくさん用意されています。実際の史料にふれながら、過去に「タイムスリップ」する感覚を味わってみてください。

#### 研究室例会

これまで日本史学を牽引してこられた先生を毎年おひとりお招きして、講演をしていただく会です。専門と

される時代にかかわらず、歴史学そのものや研究の方法論、これまでの研究生活などについてのお話をお聞きする中で、歴史学の奥深さを感じることができます。

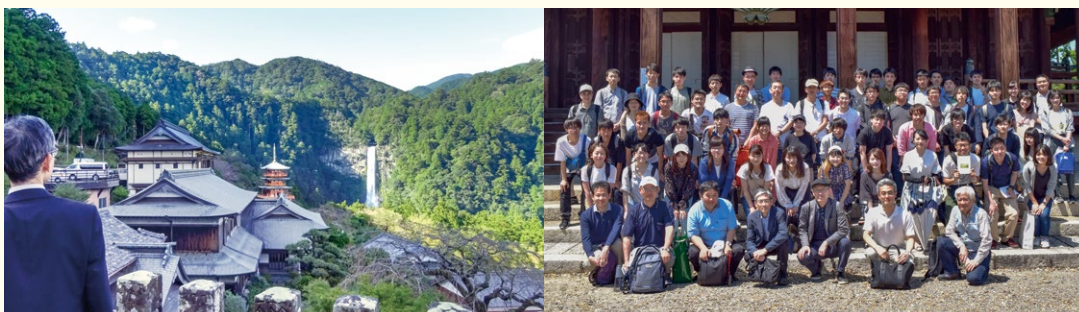
### 勉強会

#### 時代別勉強会

専門の時代についての知見を深めるため、学生・院生たちが自主的に勉強会を開いています。現在、古代、中世、戦国・織豊期、近世、近現代という5つの勉強会があり、それぞれが活発に活動をしています。勉強会に参加する中で研究の進め方や史料・論文の読み方を学ぶことができます。自分の興味のある時代や分野を探るため、複数の勉強会に参加している2年生も多くいます。

#### 古文書勉強会

学生・院生が主体となり、古文書の読み方を勉強しています。授業でも2年次からくずし字の読み方を習いますが、この勉強会では辞書の引き方からゆっくり、自分のペースでくずし字を勉強できます。古文書は一朝一夕に読めるようになるものではありませんが、ある程度読めるようになれば博物館などの展示も今以上に面白くなり、歴史の世界にぐっと入り込めるようになります。





## Asian History

# 東洋史学専修

中国・日本を含む東アジア・海域アジア、さらに中央ユーラシア（北アジア・中央アジア）世界の歴史を扱います。特に、中国古代・中世（隋～唐）の宗教文化・対外交渉史、近世～近代（明・清・民国）の社会経済史・法制史、6～14世紀のトルコ・モンゴル諸民族史を主な領域として、文字通り世界レベルでの競争に伍すべく研究を重ねています。古典漢文をはじめとする諸言語文献資料の厳密な読解に立脚しつつ、フィールドワークの成果を重視するのも本専修の特徴です。

学部2年次には、領域を限定せず、広くアジアや歴史全般への眼を開くとともに、前近代のユーラシア東方地域の研究に欠かせない漢文史料の読解の基礎訓練を行います。3年次からは重点的に学習する分野・テーマを絞り、関係する分野の史料（漢文・トルコ語・モンゴル語など）や外国語研究文献（主に英語）を講読する演習を通じて専門性を深め、4年次に提出する卒業論文へと結びつけます。また、研究室全構成員が分野を横断して議論する合同演習での研究報告作業を通じて、幅広い視野に基づく論理的思考やコミュニケーション能力など、学問の場を越えて通用する能力を身に付けることも目指されています。本当の学問は苦勞も多いが実に楽しい、ということを感じてもらえるよう、熱心に指導します。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/toyosi/main/>

<https://twitter.com/handaitoyoshi> (twitter)

## 教員

まつい・だい  
松井 太 教授  
たくち・こうじろう  
田口宏二郎 教授  
かわかみ・まゆこ  
河上麻由子 准教授

## 何を学んでいるの？

### アジア史学基礎A

中央ユーラシア草原地帯の遊牧民の歴史を中心として、ユーラシア世界史の全体的な展開を理解する

### アジア史学基礎B

異文化理解の一環として中国の歴史をとりあげ、その文明・政治・社会・経済・思想に関する基本知識を修得するとともに、特に近世・近代史の諸事象から今日の中国理解のためのヒントを得る

## どんな授業があるの？

### [講義題目]

中国経済史  
東アジアジェンダー史概論  
中央アジア=ウイグル王国史の諸問題  
モンゴル時代のユーラシア交流に関する諸問題

### [演習題目]

東洋史学合同演習  
漢籍基礎講読  
東アジア史英語演習  
古代トルコ・モンゴル文献学演習

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### 清代四川省移民社会と糖業

清代長江上流の移住と宗族という角度から、一種の産業史を追う卒論。先行研究での論点の修正のみならず、18世紀以後の移住の波のあり方を描くことに成功したことが重要である。低地に移住・定着した客家の多角経営の中から製糖事業が卓越化するプロセスに関する分析は、まさに出色。(選：田口宏二郎 教授)

### [卒業論文題目]

11世紀中葉の遼宋関係に関する考察  
元代のチベット仏教と華北仏教の関係について  
近世琉球の福州への留学

### 東洋史学の授業

当研究室では、先生方の最新の研究に触れることのできる講義のほか、さまざまな言語の史料を講読するゼミがあります。東洋ことアジアは広大なので、興味関心に応じて、さまざまな時代のさまざまな言語を使って研究することができます。学生の中には、「史料の細部に目を配るので、就職活動でも役に立った」と話してくれた人もいました。もうひとつ授業で重要なのは研究発表ゼミである合同演習です。発表内容はそれぞれが研究する広大なアジアのどこかの時代。毎週、知らない時代・地域の研究を聞いて、質疑応答で議

論を行います。「その議論の中で、自分の専門外の時代・地域に関する事項も、自分の研究に引きつけて考えられるようになった」と話してくれた学生もいました。また、多様な言語を使うのでプリントアウトがうまくいかず、文字化けだらけの資料で発表した強者も…。

### 留学・海外調査の機会

外国史を学ぶ魅力のひとつは、日本では考えつかないような歴史の展開や文化そのものを知ることにあります。日々の学びの中でももちろんその魅力に触れることができますが、東洋史学研究室では、留学経験で身を持ってその魅力を知ることも推奨

しています。留学先として一番多く選ばれるのは中国ですが、ベトナム・タイ・モンゴル・ロシア・イギリスなど、さまざまな国にこれまで学生を送り出してきた経験があり、**留学希望者をバックアップする体制が整っています**。海外からの留学生も研究室に在籍してしますので、身近で語学を磨くこともできます。さらに、大学院生以上になれば現地調査で得た発見をもとにして研究を進めていったり、国際学会で発表することもできます。



## 幅広い立場の人に開かれた研究室であり続けることを重視しています。

### 研究室の生活

東洋史学研究室では、日々の生活でも幅広い立場の人に開かれた研究室であり続けることを重視しています。研究書や史料が豊富に揃った研究室では、学部生も大学院生も、卒業生・修了生も、来た人は誰でも肩を並べて研究活動を行うことができます。そのため、さまざまな立場・年代の先輩と知り合うことができます。研究に関わる話を聞けるのももちろん、研究室の過去の逸話で盛り上がることもあります。そうした触れあいの中から、授業の枠を越え、研究室の学生同士による自主的な勉強会も開催されています。さらには、毎

年春と秋、学園祭の時期に研究室対抗のソフトボール大会も開かれます。そのときには学生だけでなく、卒業生・修了生も、教員も参加して熱闘を繰り広げます。

### 未来の後輩へのメッセージ

ひとつひとつ時間をかけてじっくりと考えるのはとても楽しいことです。これまで習ってきた歴史の教科書から一歩進んで、新しい発見をする知的興奮を一緒に味わいましょう。アジアの歴史を語らずして21世紀は語れません。待ってます！





## European and American History

# 西洋史学専修

西洋史学は地理的な範囲を説明するのが難しい分野です。

ヨーロッパ文明の歴史がその中心的な構成要素であることは異論がないとしても、そのヨーロッパ文明は先行するオリエント、地中海世界の文明から深い刻印を受けています。また、16世紀以降、ヨーロッパ人が南北アメリカ、アジア、アフリカ、オセアニアなど世界の至るところに進出して、それらの地域にヨーロッパ文明を移植し、あるいはそれらの地域の伝統文明に多大な影響を及ぼしたことはよく知られているとおりです。本専修ではこうした地球規模での西洋文明の歴史を研究領域とし、きわめて多様なテーマについて教育と研究を行っています。個別の問題について実証的に研究しながら、それらを世界史的視野で考察することができる専修だと言えるでしょう。

私たちの教育目標は、グローバル化が進む中、急速に変化する時代に対応できる、総合的な知的能力の養成です。つまり、問題発見力・情報収集力・分析力・総合力・表現力を養うことです。また現代を生き抜くもう一つの武器としての外国語、特に英語の実践的能力の習得を重視しています。学生のみなさんには、西洋史を学び、研究することで、問題を情報に基づいて深く考察するだけでなく、それを日本語と英語で、他の人びとに伝える能力を身に付けることを期待しています。

## 教員

あきた・しげる  
秋田 茂 教授  
ふじかわ・たかお  
藤川隆男 教授  
くりはら・あさこ  
栗原麻子 教授  
ナディン・ヘー  
Nadin Heé 教授  
ジェロルド・クロゼフスキー  
Gerold Krozewski 教授  
なかや・そろ  
中谷 恕 准教授  
みせ・はるか  
見瀬 悠 講師

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/seiyousi>

## どんな授業があるの？

### 西洋史学基礎A および西洋史学基礎B (1、2年生対象)

西洋の歴史に関する基礎的な知識を学ぶと共に、歴史の研究手法や歴史的なものの考え方についての理解を深める授業で、共通教育で開講されています。Aは前近代、Bは近現代を対象としています。

### 歴史資料学演習(2年生対象)

歴史研究に必要な基本的な知識と技術を、実践に即して習得します。研究とはどんな作業なのかという問題から始まり、テーマ設定・仮説定立、文献の探し方・集め方、ノートの取り方から、論文執筆・口頭発表上の注意点にいたるまで、主に西洋史研究の初学者を対象に、研究の実際に即した知識と技術を学ぶ授業です。

### 西洋史入門・文献講読など

西洋史の古代、中世、近世、近代、現代の各時代に関して、それぞれ講義・講読の科目があり、それぞれの時代の特色と歴史研究で話題とされているテーマが広く学べます。

### [講義題目]

グローバルヒストリー入門講義  
移民と外国人の近世フランス史  
北アフリカから見た古代ローマ世界

### [演習題目]

イギリス帝国とグローバルヒストリー  
オーストラリア史演習  
——デジタル・ヒストリーの実践  
西洋中世史演習

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### 18世紀前半イギリス帝国の形成と海賊討伐

——ウッド・ロジャーズによる海賊掃討作戦を中心に  
17、18世紀のカリブ海(西インド諸島)は、海賊が横行する「海賊活動の黄金時代」であった。スペイン継承戦争後に、新たにパハマ総督に就任したウッド・ロジャーズは、海賊討伐作戦を展開し、大きな成果を収めた。本論文は、なぜこの時点で海賊討伐が行われたのかを、イギリス本国での商業革命の展開、その過程での海外貿易商や商船船長など「貿易従事者」の社会的地位の向上など、イギリス帝国の社会経済構造の変容と関連付けて論じている。(選:秋田 茂 教授)

### [卒業論文題目]

ローマ期エジプトにおける兄弟姉妹婚の選択  
13世紀イベリアにおける異教徒間共存のあり方  
17世紀後半財政=軍事国家としてのスウェーデン  
ポスニア紛争における民族対立  
——ローカルな対立と媒介

**なぜ、この専修に決めましたか？**

**M** 世界史が好きだったからです。特にドイツ史に興味があったので、より詳しく研究したいと思って西洋史学専修に決めました。

**T** 私は歴史全般に関心があったので、明るい雰囲気にかかれてこの専修に決めました。

**いつ頃、決めましたか？**

**B** 1年の後期に研究室訪問で決めました。先生方が熱心に自分の話を聞いてくださり、ここなら自分の好きなことが学べそうだと思いました。

**O** 私は専修の選択直前まで悩んでいました。でも、西洋史では扱える分野が広いので、結果的にやりたいことを研究できてよかったです。

**専修の魅力は何ですか？**

**A** 「西洋史学」と一言でいっても学生の研究している分野はかなり多様です。他の人の研究発表を通してさまざまな地域の歴史や文化を学べるのが面白いと思っています。

**O** 海外旅行を深く楽しめる知識も得られますね（笑）。

**M** どの先生も、専門分野にとどまらず守備範囲が広いので、文献の情報から歴史の見方まで、とても有益な助言をいただくことができます。

**B** 先生と学生の距離が近くて、なんでも気軽に質問できるところも魅力ですね。

**どんな授業がありますか？**

**K** 授業には講義と演習があります。この専修では演習の比重が大き

いですね。演習では研究者の書いた論文や自分の研究について学生が発表し、それを踏まえて先生を含めた参加者全員で議論します。

**B** 英語で自分の研究を発表するディベート演習もあります。他の演習でも外国語の文献を読む機会が多いので、語学力が身に付きます。

**O** 古代ギリシア史から20世紀のアメリカ史まで、各先生の研究テーマに関わる内容を深く学びます。歴史を学ぶとは、暗記ではなく考えることだということが分かります。

**どんなことを研究していますか？**

**K** 西洋史とはいっても、中には西洋という枠組みにとらわれず、アジアとヨーロッパの関係性を研究している人もいます。政治や経済、文化など、テーマもさまざまです。時代についても、古代から現代までそれぞれの関心に沿って研究しています。自分の興味次第でなんでもできる場所…かもしれません。

**B** 私はプトレマイオス朝エジプトに関心があり、卒論もそれについて書いています。

**研究室の雰囲気、普段の様子は？**

**M** 堅苦しい雰囲気はあまりありません。昼休みには先生方や学部生・院生が研究室で一緒にご飯を食べて、楽しくおしゃべりをしています。

**A** 誰かが必ず研究室にいますので入りやすく、授業の合間などはお菓子を食べに行ったりします。研究に関しても、先輩や先生が親身に相談に

乗ってくれます。

**T** 明るくてユーモア抱負、優しい方ばかりなので楽しいです。

**B** 先生と学生、学生の中でも院生と学部生の距離が近く、和気藹々としています。研究の真面目な話から、就活やアルバイト、さらにはクリスマスの過ごし方など、研究室で繰り広げられる話題は幅広いです。

**K** しっかり勉強しています！

**学ぶのに一番大切なことは？**

**K** 「楽しむ」ことだと思います。楽しめるテーマを見つけることができれば、いい研究ができるはずですよ。

**M** そのうえで、自分の研究にどのような意義があるのか考えることが必要です。研究を進めていくと、自分の研究に意味なんてあるのか？と悩むときが来るので、前に進めるためにも研究の意義をはっきりと認識しておくことは大切です。

**A** 自分が研究する分野の知識を深めるということも大事なのですが、もっと大切なことは、それらの知識を自分なりの視点に立って、論理的に構成することです。レポートや卒論が論理的な文章になっていないと先生方から突っ込まれます。

**後輩に向けて一言！**

**T** 3年間で学ぶ内容を決めるのは大変だと思いますが、焦らずじっくり考えてください。

**B** 歴史に少しでも興味のある方、ぜひ一度研究室をのぞいてみてください！





## Archaeology

# 考古学専修

考古学は、地中に埋もれた遺跡や遺物などの物質資料の分析を中心にして、人類の歴史や文化を研究する学問です。

考古学専修では、大型の古墳が集中し、古代から都が置かれてきた近畿が大学の所在地であるという地の利を生かして、日本考古学に重点をおいた研究や教育を行っています。とりわけ、ほぼ毎年フィールド調査を行っており、近年では古墳時代の前方後円墳や平安時代の窯跡などの発掘調査を行っています。

もちろん、教員や大学院生は海外調査にも出かけて外国との比較研究を積極的に進めており、広い視野で日本考古学の諸問題に取り組んでいます。専任スタッフが2名の小規模な専修ですが、研究室は昼も夜も活気に満ちています。

ただし、考古学専修は考古学の専門家だけを養成するところではありません。自らの手で遺跡を発掘し、長期にわたる人類文化の展開を考える4年間は、どのような道に進むにせよ、みなさんの将来にとってきっと有意義なものになるでしょう。

学生時代の貴重な経験を糧にして、卒業生たちは、考古学の専門家として発掘調査の第一線に立っているほか、学芸員、教員、公務員、ジャーナリスト、企業人などさまざまな方面で活躍しています。

## 教員

ふくなが・しんや  
福永伸哉 教授  
たかはし・てるひこ  
高橋照彦 教授

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kouko/>

## 何を学んでいるの？

### 考古学基礎

考古学の方法論と日本考古学の成果の概説。主に考古学に関わる諸テーマの研究現状を紹介するとともに、考古学と関わり深い博物館や埋蔵文化財保存の問題などについても講義する。

### 考古資料論演習

発掘調査から調査報告書の作成までが必要となる考古学の専門的技術を習得するための演習。地形測量や遺物の実測図作成、図面レイアウト・トレースなどを学ぶ。3・4年次の履修。

## どんな授業があるの？

### 【講義題目】

考古学の基礎的方法  
青銅器の考古学  
日本古代における窯業生産  
歴史考古学の諸問題

### 【演習題目】

考古学の基本技術  
考古学英書講読  
考古学文献演習  
考古資料分析実践演習

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### 粘土槨の展開過程とその画期

古墳時代には、被葬者の棺を粘土で覆った「粘土槨」と呼ばれる葬法がある。それらの類例を集め、構築の手順を復元して、葬法の変遷と歴史的意義を明らかにした。大阪大学の発掘した古墳が偶然にも未盗掘の粘土槨であり、その調査に参加した経験と刺激が新たな論文を生んだ好例である。(選：高橋照彦 教授)

### 【卒業論文題目】

西播磨における土器様相と地域間関係  
——弥生時代後期から終末期を対象として  
大阪湾岸地域における  
古墳時代中期土器製塩の展開  
猪名川流域における古墳時代後期の埴輪生産体制  
平安時代後期における播磨の瓦生産



# 考古学研究室の年間スケジュールをご紹介します



研究室のこと  
私たちが答えます!

研究室は勉強だけでなく、コーヒーを飲んだりしながら、いろいろな話題で盛り上がる、和気あいあいとした雰囲気。遺物の整理作業や発掘調査など、研究室一丸となつての作業が多いので、上級生から下級生まで分け隔てなくみんな仲良しです。

## 研究室の主な年間行事

- 4月 新学期ガイダンス
- 5月 新入生歓迎旅行（日帰り）  
歓迎会
- 6月 遺物整理作業
- 7月 ↓
- 8月 ↓
- 9月 夏休み
- 10月 卒業論文・修士論文  
中間発表会
- 10月 下旬 研究室旅行（2泊3日）
- 12月 大掃除・忘年会
- 1月 卒業論文・修士論文提出
- 2月 予餞会
- 2月～3月 発掘調査
- 3月 卒業式

## 考古学の授業は？

考古学の授業には講義と演習があります。講義では、日本だけでなく海外の研究など幅広い範囲を扱います。講義を受けて、博物館にいくと、モノの見方が変わります。また、屋外に繰り出しての演習授業は考古学ならではです。



出土品を自分たちの手で分析します。  
写真は約1000前の土器や瓦。



## 毎年のフィールドワーク（発掘調査）が一番の醍醐味

### 新入生歓迎旅行って？

5月には、新入生を歓迎して日帰りの遺跡見学旅行があります。行き先は毎年異なりますが、兵庫県や奈良県、京都府など大阪周辺の各所をめぐる。発掘調査成果や文化財の活用事例を実地で学び、考古学の世界を知ることができます。

### 研究室旅行とは？

秋にはみんなで2泊3日程度の研修旅行に行きます。近年では、大分県と熊本県、福井県と石川県などに行きました。旅先では遺跡や博物館だけでなく、土地の美味や温泉も堪能。温泉、遺跡、グルメ。それが考古学の研究室旅行です。

### 発掘調査って？

春休みは、研究室の一大イベント、発掘調査。2015年から兵庫県宝塚市の古墳を調査しています。測量、発掘、図面作成と自分たちで行うので、室内では学べないことも多く学べます。共同生活では思わぬハプニングや珍事件も…。



各地で最新の出土資料を見学



研究室旅行にて楽しい昼食の風景



自分たちの手で遺跡の実態を解明していきます



## Japanese Studies 日本学専修

日本学と聞いてどんなことをイメージしますか？文学や史学といった他の専修と比べるとイメージがしにくいかもしれません。それは、日本学が学際的な研究や教育を目指す領域だからです。日本学専修は、日本を自明なものとして捉えるのではなく、歴史学、民俗学、人類学、文化研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究、表象分析といった多様な方法と視点から日本にアプローチします。そして、一国的な研究の枠組みではなく、日本を広く超えて展開される新たな日本研究の可能性を模索しています。そんなスリリングな知的作業に、あなたも加わってみませんか？

### 教員

うのだ・しょうや  
宇野田尚哉 教授  
きたむら・つよし  
北村毅 准教授  
やすおか・けんいち  
安岡健一 准教授  
なかじま・いずみ  
中嶋泉 准教授

<http://japanese-studies.jp/>



### 何を学んでいるの？

#### 日本学演習

論文の読み方や書き方、文献調査・インタビュー・プレゼンテーションの仕方など、基本的なアカデミックスキルを学びます。

#### 比較文化学演習

近現代日本の社会・文化について、ビジュアルを含む史料をジェンダーなど多様な視点から読み解く力を養い、議論する演習です。

### どんな授業があるの？

#### [講義題目]

近代日本と女性文学  
近世思想史講義  
戦後日本民衆史  
戦後社会運動とメディア文化

#### [演習題目]

アート・アクティビズム：  
実践と理論  
『思想の科学』を読む  
同時代史研究：  
地域における記憶の記録  
戦後民主主義論を読む

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### アジア・太平洋戦争下における鉄道貨物輸送／博物館で部落差別を表象すること

今年は二つの優秀論文が選ばれた。一つは、関西地方の軍需品輸送着目し、地道な資料読解を通じて地域間つながりなど戦時期の実態と変化を明かした。もう一つは、2020年度に休館した大阪人権博物館（リパティ大阪）の歴史と展示を調べ、「差別は表象しえるのか」という難問に挑戦した。（選：安岡健一 准教授・北原恵 教授）

#### [卒業論文題目]

教義解釈の変化を生きる——世界救世教  
／世界メシア教信者の宗教実践を事例として  
1990年代以降のストリートダンスの発展と  
その背景  
ゲームの中の交流史——在日中国人  
キャラクターの創作をめぐって

声や記録は積極的に集めないに残らないと感じました。

学生インタビュー

授業で印象に残っていることは？

Y.S. オーラルヒストリーについて学んだ文化交流史演習「コロナ禍の声を記録する」では、春の緊急事態宣言下の経験を身近な人にインタビューしました。声や記録は積極的に集めないに残らないんだと感じました。「社会調査基礎演習」は「権力と表象」というテーマで、どれも内容がものすごく濃かったです。

J.Y. 私は人の人生について聞くのが好きなので、インタビューをする授業は面白かったです。

日本学専修を選んだきっかけは？

Y.S. 院生の先輩の発表を聞いて興味を持ったのと、自主研究で性教育

について調べたので、ジェンダー表象について学びたいと思いました。

J.Y. 日本のサブカルチャーやジェンダーの問題に関心があり、日本について総合的に学べると感じました。日本の現代史を韓国の同時代と対比して考えると、多くの気づきがあります。

日本学演習について

Y.S. 資料の探し方や信頼できる文献の探し方、レポートの書き方について深く学びます。1年生まではなんとなく済ませていた、研究の基本的なルールや方法を知ることができ

研究室の雰囲気はどのようにですか？

Y.S. 授業は主にオンラインでしたが、先輩や先生が交流する機会も設けてくださいました。フラットな雰囲気です。

J.Y. 先輩と一緒に読書会もしています。

先輩へのメッセージをお願いします。

J.Y. 近現代の日本に関することからカバーしてもらえるので、日本について何かしたいと思う人はぜひ。

Y.S. 演習などでは丁寧に見てもらえます。ジェンダーについて学ぶことができるのも大きな魅力です。

[インタビュー協力]

J.Y.さん(2年)、Y.S.さん(2年)



真剣な議論を通し、考えを言語化できたのはいい経験です。

研究室レポート

日本学ではどの学期も、誰かが、なにかしらの勉強会を開催しています。今学期は私が主導で立ち上げましたが、2021年度秋冬学期にフェミニズム勉強会を開催していました。

コロナ禍で大学に来られず、日本学の共同研究室で勉強会ができなかったため、この勉強会はオンラインで行いました。当初は日本学専修の4人だけだったのですが、今では哲学科や法学部、留学生等、学年や学部の垣根を越えて、多くの人が参加してくれるようになりました。

最初の4回はベル・フックスの『フェミニズムはみんなのもの 情熱の政治学』を読み、次の4回は哲学

的な視点からフェミニズムを勉強するため、フェミニスト現象学についての文献を読みました。参加者は文献を事前に読んできて、担当者がレジュメを作成して発表し、各自で意見を出し合う形式です。毎回多種多様な意見が出てきて、授業とはまた違った面白さがあり、とても勉強になります。その後は、フェミニズムに関連して、各自が興味を持っていることについて発表をしました。

私は、第二次世界大戦期の出来事に興味があって日本学専修を選んだこともあり、その関心とフェミニズムの視点を合わせて女性兵士についての発表をしました。フェミニズムは

実践的な学問だと思っているのですが、皆との真剣な議論を通して、自己の経験や今までぼんやりと思っていたことが言語化できたのは、いい経験になりました。

このような勉強会以外にも、院生と協力して、他大学の先生と大阪の歴史遺跡を巡るフィールドワークを開催したこともあります。日本学は勉強会だったり、フィールドワークだったり、なにかしたいことがあれば先生も学生も協力してくれる、とても勉強にうちこめる環境です。みなさんも、日本学でさまざまなことを学んでみませんか。

C.O.さん(2年)



## Human Geography

# 人文地理学専修

人文地理学とは、人間と環境・地域との関係を考察し、事象の空間的な分布がどのようなプロセスで形成されるのか、その成因を探究する学問分野です。そこでの主なキーワードには、環境・地域・空間・景観・場所・ネットワーク・フローなどがあり、多様な視点を持つのがこの分野の特徴です。人文地理学専修では、人間—環境関係、人間—空間関係をさまざまな角度から分析・考察しています。講義を通じて先行研究の視点や、方法論・手法などを理解し、演習や実習では、論文講読・フィールドワーク・データ解析・図表作成・プレゼンテーションなどを体験し、知識を深め、技術を習得します。人文地理学専修は1995年に講座化されましたが、大阪大学には1950年代以来、人文地理学者が在籍し、地図研究の蓄積があります。また、近年では都市・農村研究の蓄積もあり、多面的な研究と教育を行ってきています。間口が広い専修であるといえるでしょう。

入口がたくさんあるのが人文地理学です！人文地理学では、人間と地域・環境・空間・場所との関係を、現地調査を重視しつつ、論理的・分析的に探究します。多くのことに関心のある人を待っています。人文地理学では、調査・研究の方法論や技法の理解、論理的な思考、そして現地調査などの経験を重視した教育を行い、地域や空間で展開する問題を構造的に捉える視点を養います。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/>

### 何を学んでいるの？

#### 人文地理学の考え方

人間と環境との関わりを研究する学問として、熱帯や温帯地域の環境利用・環境問題・人口誌・文化の拡散といった題材の研究事例を紹介しつつ、地域性や地域文化の形成要因といった問題にせまる地理学的方法論を学びます。

#### 人文地理学の話題

主に都市に焦点を当て、都市化・都市システム・都市の内部構造・都市圏などに関する理論と事例について学び、地図・写真・映像など多彩な資料を通じて都市にアプローチします。

### どんな授業があるの？

#### 【講義題目】

人文地理学の展開と社会経済地理学  
人間・環境関係論  
歴史地理学からみた近代移行期の日本における地域変化  
自然地理学の基礎とその応用

#### 【演習題目】

人文地理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ  
人文地理学文献講読  
地域調査実習  
人文地理学卒業演習

### 教員

つつみ・けんじ  
堤 研二 教授  
さとう・れんや  
佐藤 廉也 教授  
いもと・やすこ  
井本 恭子 准教授

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 日本における女性就業の地域差とその要因

日本の女性就業率は、子供を育てる年齢に大きく落ち込むことが知られていますが、実は日本全国で大きな地域差がみられます。この卒業論文では、市町村レベルの全国データを用いて分析を行い、経済的要因だけでなく文化や女性就業に対する意識が地域差の要因となっていることを明らかにしました。(選：佐藤 廉也 教授)

#### 【卒業論文題目】

介護予防サービス資源の地域差に関する研究  
犯罪発生傾向から見た都市の特徴について  
「着地型観光」イベントが地域に与える持続的な影響について  
神戸市における在日ベトナム人の集住と居住地拡大について

## 「地域調査」と「人文地理学演習」の二つをご紹介します。

研究室レポート

まずは地域調査から。人文地理学研究室では毎年、地域調査を実施しています。2014年から2019年にかけては、毎夏に島根県隠岐郡隠岐の島町を対象として地域調査を行いました。2016年には大阪大学の近隣地域を対象とした地域調査のグループもあり、どちらかを選択して参加する形でした。ここでは、隠岐の島町の地域調査について紹介します。隠岐の島町は、日本海に浮かぶ離島（島後）の一つです。独自の生態系や地形を有し、牛突きや古典相撲などの伝統ある文化が見られ、林業や漁業、観光業が盛んである一方、高齢化や人口流出が進む地域でもありま

す。地域調査は現地を訪ねる前から始まっています。島の基礎知識を把握しておくだけでなく、聞き取り調査の質問項目をリストアップしたり、スケジュールを立てておく必要があります。当日は、実際に聞き取り調査を行いつつ、八朔牛突きなどの隠岐の貴重な文化を体験します。調査後には、各班で内容をまとめて報告書を作成します。人文地理学のスキルを実地調査で習得できるのが特徴です。

そして人文地理学演習です。先ほど紹介した地域調査とも関わりがあり、地図の読み方や聞き取り調査のノウハウを身につけます。また、グ

ループで統計分析や多変量解析を行ったり、GIS（地理情報システム）を扱い、分析内容をまとめます。地域分析の技法をグループで協力しながら学べることも特徴の一つと言えるでしょう。このような地域分析には数学や統計学の知識が必要になりますが、演習では初歩的な内容にも触れていくので心配ありません。

両者に共通するのは、頭の中に知識を蓄えるだけでなく、それを実際に引き出して活用したり、手や体を動かして調査や研究を進めたりすることの重要性です。そんな人文地理学と一緒に学んでいきませんか。

文=T.T.さん(4年)



実体視による空中（航空）写真の判読



教室創設21周年記念行事での展示（2016年10月）

## 知りたいことをさらに深める大きな経験だと思えます。

研究室Q&A

### なぜ人文地理学専修に？

- ★ 地図を眺めるのが好きだったから。
- ★ センターでも二次でも地理に助けられてきたので、このまま運命をともにしようと思ったから。
- ★ 人間環境と空間・場所を結びつけるという人文地理学特有の多角性に惹かれたから。
- ★ 自分の興味関心と地理を関連付けると何でもできるという幅広さがあるから。
- ★ 地理が好きだったから。

### 研究室に入って良かったことは？

- ★ 広い視野と深い知見が得られる。
- ★ 各地のお土産が食べられる。
- ★ 旅行時の交通手段についてアドバ

イスをくれる人が多い。

- ★ 社会派で、良い意味で文学部らしくない勉強ができる。
- ★ バラ色のキャンパスライフがあなたを待っています！

### 研究室の雰囲気はどんな感じ？

- ★ 学部生と院生の垣根を越えて話ができるアットホーム感。
- ★ 研究には真面目に取り組み、飲み会などは楽しむ硬軟両様のメリハリ感。
- ★ 学部生でも気兼ねなく居座れる作業場。
- ★ とても和やかな雰囲気先輩や後輩といろいろな話ができる。

### 興味のある研究分野は？

- ★ 認知地理学という、「人間が空間や環境をどのように認識しているのか」を明らかにする分野。
- ★ 都市の再開発やコミュニティの維持・形成といった分野。
- ★ 入学してくる後輩にメッセージを！
- ★ 興味関心の幅を広げておくと、専門的な内容を掘り下げるときにも間違いなく役立ちます。
- ★ 好奇心を持って余している方を歓迎したいと思います！
- ★ 多様な切り口がある大学の地理学は、いろんなことに興味のある人にはうってつけの学び舎になるのではないのでしょうか。



## Japanese Linguistics

# 日本語学専修

日本語学専修は、現代日本語学、社会言語学、応用日本語学の三つの領域の教育・研究を行っています。

現代日本語学では、日本語を数ある言語のひとつとして客観的に捉え、実証的に、文法・語彙・音韻・表記等の体系を明らかにすることを目的としています。

社会言語学では、地域差(方言)・年齢差や場面による言葉の違いなど、現代社会に存在する日本語の多様性と、それがもたらす言語学的・社会的な問題を把握し、分析します。

応用日本語学では、日本語を母語や第二言語として習得する人たちが、どのようにして期待される発話行為を行い、その中で自分らしさを構築していくのかを、まわりの人々の関わりかたにも注目しながら考えます。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/nihongogaku/>



### 何を学んでいるの？

#### 日本語文法研究の基礎

日本語の文法に関する基礎的な事柄を学び、日本語がどのような言語であるのかということについて理解を深めます。また同時に、日本語を研究するための基盤を身につけます。

#### 社会言語学概説

ことばの地域差、性差、年齢差などを中心に、ことばと社会の関わりを考える社会言語学の研究領域について学び、自らテーマを設定して調査研究を行うためのスキルの習得を目指します。

### どんな授業があるの？

#### [講義題目]

批判的言語研究の諸相  
日本語文法研究の諸問題  
接触言語学概説  
言語とジェンダー

#### [演習題目]

語彙調査の理論と方法  
言語分析の諸問題  
言語・方言記述の実践  
会話分析

### 教員

いしい・まさひこ  
石井正彦 教授  
しふや・かつみ  
渋谷勝己 教授  
たのむら・ただはる  
田野村忠温 教授  
マッシュュー・バーデルスキー  
Matthew Burdelski 教授  
みやげ・ともひろ  
三宅知宏 教授  
たかぎ・ちえ  
高木千恵 准教授

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 日本におけるシンガポール人留学生の多言語混用

日本に住むシンガポール人留学生同士が、英語を使用した会話の中で、日本語を自在に活用しつつ会話をしている様子を描いている。「You can 昼寝 at my place」、「You 二度寝ed though」「I said, ハイボール飲みたい」「She 一番余裕 あったじゃん」… (選: 渋谷勝己 教授)

#### [卒業論文題目]

「お+動詞連用形」型名詞の意味について  
関西方言における文末形式ヤンナ・ヨナについて  
公衆に対する謝罪行為について  
サークル集団における会話分析

### 日本語学を選んだ理由は？

- ★もともと「ことば」に興味があったからです。
- ★英語学や国語学など他の専修とも迷いましたが、自分にとって最も身近なことばを探究できる点が決め手でした。
- ★日本語を専門的にいろいろな角度から研究してみたいと考えたためです。
- ★専門の先生方が多く在籍し、学生間でも刺激を与えあえる環境で、日本語について突き詰めて考えたいと思ったからです。ここなら、わくわくし続けられると思いました。

### 専修や「日本語学」という分野の魅力はどんなところ？

- ★何の予備知識が無くても日本語学者であるというだけで研究に入りやすい点です。
- ★普段は無意識に使っている日本語を意識的に捉え、いろいろなルールや現象があることに気づける点です。
- ★身の回りにある何気ないやりとりや表現が全て研究対象となるところ。普段の生活でも、些細な表現に疑問を持つようになる等、言葉に対するアンテナの感度が高くなります。
- ★普段使っていることばが研究対象になるという点。ふとした疑問が身の回りに散らばっているからこそ、授業で聞いたことの応用もしやすく楽しんで学べると思います。

- ★本当にささやかな疑問が研究へと発展していくところが面白いです。
- ★いろいろな文化背景を持つ人と接触することができるので、新しい視点で日本語を考えることができます。
- ★当たり前のように使っている日本語なのに「なぜ？」と聞かれる意外と答えに窮することが多く、「日本語ができる」と「日本語が分かる」は別だということを実感します。
- ★日本語学のさまざまな分野を専門としている先生方がいらっしゃるため、自分の興味があることを深めることのできる環境が整っている点です。

### 印象に残っている授業は？

- ★言語とジェンダーという授業が一番印象深かったです。どのようにジェンダーを構築し、伝えるかをさまざまな作品から知ることができました。
- ★社会言語学の講義で、方言を含むいろいろなことばの使い分けにはどんな要因が関わっているのかを扱っていて印象的でした。出身地がさまざまな学生からそれぞれの感覚などが聞けてとても面白かったです。
- ★現代日本語学の講義では、基礎的な日本語の文法について、身近な例から一般的な規則を見出していく過程に発見があって面白かったです。高校までに習ったことが裏切られるかも?! 日本語学習者の立場に立った説明など、ハッとさせられることも多くありました。

### 研究室はどんな雰囲気？

- ★学年、性別、国籍等を問わず、和気あいあいとしていて、他愛ない話から研究に関わる議論まで自由な雰囲気で繰り広げられています。
- ★それぞれ日本語について多様な視点から興味関心や疑問を持っていて、刺激を受けます。
- ★みなさん雰囲気が柔らかくて、困ったことや相談したいことを協力しあえる関係です。先生方も質問するととても丁寧に答えてくださいます。

### 未来の後輩へのメッセージ

- ★日本語学といってもさまざまな切り口があるので、少しでも言葉に関心がある人ならば、きっと楽しめます。ぜひ!
- ★言語に対してフラットな姿勢を持つことができるようになります。日本語学ではことばに対して優劣をつけず、等しく研究対象とします。この姿勢を身に付けたことで、偏見や先入観なしであらゆることを自然に受け入れて楽しむことができるようになりました。多様な価値観が尊重される時代だからこそ、ぜひこの楽しさを味わってほしいです。

[講座紹介協力者]

3年：2名、4年：3名  
博士前期課程：9名





## Japanese Literature and Japanese Historical Linguistics 日本文学・国語学専修

日本文学では、古代・中世の和歌や漢詩文、『源氏物語』などの物語文学、説話や随筆、近世では芭蕉・西鶴や秋成らに代表される俳諧や浮世草子、読本、近代では明治期の一葉や漱石から現代文学にいたるまで、ほぼ全ての時代とジャンルを研究の対象としています。古写本や板本、書簡などの文献資料を扱うための基礎技術（書誌学など）の習得に重きを置いています。

国語学では、音韻・文法・語彙・文字などの各分野について、日本の言語を歴史的に研究します。さまざまな言語現象を論理的・体系的に明らかにしていくのですが、社会的、文化的、また心理的な面を考慮することも必要です。古典など文学作品の言語から現代の言語まで、国語に関することは全て対象となりますが、歴史の変遷を考える研究や、文献に基づく研究に重点が置かれます（下線部が日本語学専修との差異）。

自国の文化や言葉について、その歴史的な変遷を含めて深く知ること、すなわち、日本についての“本物の知識”を得ることは、国際化が進み、社会情勢が複雑化する今日、ますます重要になっています。本研究室では、こうした今後生きてゆく上で土台となる思考を学ぶことが可能です。

### 教員

きんずい・さとし  
金水 敏 教授  
いいくら・よういち  
飯倉洋一 教授  
おかじま・あきひろ  
岡島昭浩 教授  
たきがわ・こうじ  
滝川幸司 教授  
さいとう・まさお  
斎藤理生 教授  
きしもと・えみ  
岸本恵実 准教授  
わたなべ・えり  
渡邊英理 准教授  
せた・みちお  
勢田道生 准教授

[http://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/\\_Nihon/\\_Nihon\\_Index.php](http://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/_Nihon/_Nihon_Index.php) (日本文学)

[http://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/\\_KoKu\\_Index.php](http://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/_KoKu_Index.php) (国語学)

<http://nichibunkokugo.blog.fc2.com> (ブログ)

### 何を学んでいるの？

#### 日本文学研究入門

物語論を援用して、日本近代文学の代表的な作品を読解しています。何が書かれているかだけでなく、どのように書かれているのかも分析することで、小説をより豊かに味わえるようになります。

#### 国語学入門

私たちが古文の日本語を難しいと感じるのは、文法、語の意味、表記などが現代と異なっているからです。上代から現代に至る日本語の歴史を、文献に基づき考察する方法とともに学びます。

### どんな授業があるの？

#### [講義題目]

日本の仏教文学  
日本古典文学と名所  
中上健次の文学世界  
——初期中期短篇を中心に  
日本語意味論

#### [演習題目]

『和漢朗詠集』を読む  
志賀直哉の小説を読む  
キリシタン版「エソポのハラス」を読む  
議会速記録による近代語の研究

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 夏目漱石作品における〈笑い〉の表現について

##### ——反復される表情

夏目漱石の小説の登場人物たちが、しばしば印象的な笑顔を見せることに注目した考察。特に『三四郎』の美禰子が見せる白い歯と、『行人』の直の淋しい笑いを取りあげて、内面が分かりにくく、男たちを惑わせる彼女たちの性質を、反復される笑顔を糸口に、鮮明に解き明かした。(選：斎藤理生 教授)

#### [卒業論文題目]

ツクヨミ神話の形成過程に関する研究  
——伊勢月夜見宮祭祀の観点から  
赤本・赤小本における「桃太郎」昔話の研究  
角田光代『対岸の彼女』論  
——女たちの関係性に注目して  
役割語から見るJ-POPラブソング  
——1990年代以降の男性アーティストを中心に



**研究室の雰囲気は？**

- A みなさんととも真面目に勉強されています。
- B 分からないことがあれば先輩が優しく教えてくれますよね。
- C 院生の方は資料など何か探し物があるときも助けてくれます。
- D 私は発表準備の際にアドバイスをもらいました。
- B 和やかで入りやすいです。
- A 私はまだ入るのに少し勇気がいるかな(笑)。
- D 慣れれば入りやすいですよ。
- C 留学生の方々も楽しそうにしています。

**授業の雰囲気は？**

- A 講義よりも演習のほうが多いのが、楽しくも疲れるところです(笑)。
- D 演習はどの授業も意見が活発に出て、とても内容が濃いです。
- C すごくしっかりと議論が行われていると思います。
- B 質疑応答が盛り上がり、授業外でも学生同士で議論している姿を見かけます。
- D アットホームで発言しやすい雰囲気があります。
- A 学年に関係なく自由に意見を言えます。笑いもあって楽しいです。
- B みんなの意見・知識が深くて毎回感銘を受けています。
- D 好きなことができています実感がありません。

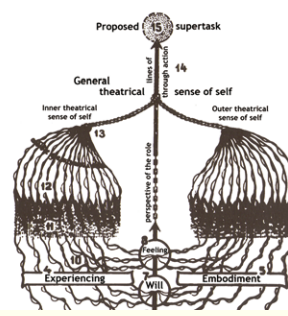
**はじめての演習発表**

- A 最初は手探り状態でしたが、先

- 輩方の発表を参考に資料を作りました。発表後、意見をもらったのが嬉しかったです。
  - B 発表するという事は担当内容について責任を負うことだと思っています。限られた時間の中で論理的な内容を組み立てるのが難しいです。
  - C さまざまな質問をもらって視野が広がりました。
  - D ぐずし字が読めなくて大変でしたが、調べてゆく内に分からないことが分かってくるのが面白いです。
  - A 質問されるのが怖くて緊張しました。ただ、この緊張感は自分を成長させてくれるように感じます。
  - C 準備をしていれば心配することはないですよ。
  - B 発表を終えた際の達成感、言葉にしがたいものがあります。
  - D はじめは分からないことばかりですが、分からないことはどんどん周りに聞くと良いですよ。
- 印象に残っている授業**
- B 古典文学の演習では、ぐずし字を読むところから始まり、語句の解釈なども行いました。はじめは意味の分からなかった和歌が、さまざまな方向から調べてゆくことで理解できたときは嬉しかったです。
  - A 多くの論文を読み、知識を増やすことができたため、印象に残っています。
  - C 近代文学の演習では、質問がどしどし飛んできて楽しかったです。
  - D グループで話し合いを行うので、

- さまざまな人の意見を知ることができて楽しいです。
  - 先生はどんな人？**
  - C 親しみやすい先生が多く、質問などもしやすいです。
  - B 演習でも、基本的に学生の意見を受け入れた上で、学生には思いつかなかった観点からアドバイスをくださるのでとても勉強になります。
  - A 最初は話しかけるのに勇気がいりましたが、面白い先生が多いです。ご自身の分野の話をしているときはひととき楽しそうに話されます。
  - D 私は初めて研究室見学に行ったとき、挨拶ただけで出身地を見破られてしまいました。日々ことばを研究されている先生方の観察眼に驚きました。
- 先輩へのメッセージ**
- A 時代を問わず、興味があるなら、その「興味」を「学び」に発展させられる研究室です。
  - B 専修内でも講義や演習の内容は幅広く、学べることも多いです。関心が多方面に向いている方にお勧めです。
  - C じっくり勉強ができる専修です。高校までの「国語」で知っていると思った日本語・日本文学を、まったく別物として見るができます。
  - D 「研究」は、高校時代に思い描いていた「勉強」よりも楽しいです。自分から積極的に行動すればするほど、学べるものが多くあると思います。





## Comparative Literature 比較文学専修

比較文学は、主に西洋と日本の近代文学の相互関係を研究する学問です。ただ個々の作品の影響関係を貸借表や成分表示のように並べるだけではありません。そうした「西洋」の近代文学を受容する必要が生まれた文学のグローバルゼーションという大前提や、それに対する抵抗や独自の変容についても検討する必要があります。

例えば、オリエンタリズムやジャポニズムといった西洋の東洋に対する関心は、日本でどのように交錯したのか、その結果、「日本」や「西洋」という枠組み自体が、どのように作られ、変化していったのか、そのような相互交渉を扱うことこそが比較文学の本領といえます。

このほか、ある主題について世界の文学を横断するテーマ研究、絵画と文学などのジャンル間交渉、世界の各帝国と(脱)植民地主義をめぐる問題も比較文学の対象となります。したがって、近代文学といっても、狭義の小説だけではありません。絵画、演劇、映画および漫画も含む広義の物語とその越境が研究対象になります。

いずれにせよ、一方ともう一方を比較する以上、その両方について綿密な調査と実証が欠かせません。そして両者の比較を可能にするだけの確かな外国語運用能力と厳密な方法論も求められることになります。

### 教員

はしもと・よりみつ  
橋本順光 教授  
すずき・あきよ  
鈴木暁世 准教授

<https://researchmap.jp/yorimitsu-hashimoto> (橋本順光教授の研究紹介)

<https://miraibook.jp/researcher/715> (橋本順光教授の研究紹介)

<https://researchmap.jp/read0134213> (鈴木暁世准教授の研究紹介)

### 何を学んでいるの？

#### 比較文学入門

現代の小説や映画が、どのようにして世界中で共有されるようになったのか、その経緯について、西洋文学の大きな流れや各地での衝撃や衝突を概観し、分析するための理論を学びます。

#### 比較文学講義

日本の近代文学はどのように海外の文学潮流と関わってきたのか、文学の流行現象が起きるのはどのような時か、文学作品を精読することによって文学研究の基盤となる方法を学ぶと共に、翻訳、流通、メディア等の文学を取り巻く環境を考えることで探っていきます。

### どんな授業があるの？

#### 【講義題目】

オリエンタリズム研究と比較文学  
世界のなかの日本近代文学

#### 【演習題目】

オリエンタリズム小説と近代日本  
芥川龍之介の作品を読む

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 一寸法師物語の再発見と現代化

一寸法師が子供向けの民話となったのは、巖谷小波以来のことでした。立身出世の主題が富国強兵に合致したのは想像できます。この論文の着眼点が鋭いのは、社会的包摂の高まりにつれて、一寸法師の物語が変わり、ゆっくりと忘れられていった意外なきっかけを探し出したことです。(選：橋本順光 教授)

#### 【卒業論文題目】

シャープ／マクラウドと薄田泣菫  
戦後日本児童文学にみる「黒人」表象  
『悲しみよこんにちは』受容と母殺し  
新選組の映画化における同性愛表象

## 比較文学の糸口としてお薦めの作品を学生に聞きました。

### 作品紹介

映画『劇場版ポケットモンスター ミュウツーの逆襲』（1998）をお勧めします。『フランケンシュタイン』（1818）に連なる物語として面白く、小説版も出ています。

主軸は、ポケモンのミュウツーによる存在理由の探求です。『フランケンシュタイン』の名前がない怪物もまた博士に詰め寄り、自分の存在に意味がないことに絶望し、彼を憎悪します。怪物がミルトンの『失楽園』（1667）に共鳴するのも当然です。この詩で父なる神にアダムは詰問します。「土塊から人間にしてくれと、あなたに頼みましたか？ 暗闇から私を導いてと懇願しましたか？」。

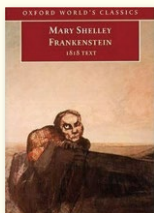
この訴えはミュウツーの叫びへとつながります。「わたしは誰だ。ここはどこだ。誰が産めと頼んだ！」。しかし、この時点で創造者はミュウツー自身の手によって殺害され、答える者はいません。ミュウツーは、神なき時代の実存的な不安に悩むわけで、だからこそ現代に生きる我々の胸を深く打つのです。（2年生）。

ラファディオ・ハーンの『東の国より』（1895）によれば、彼が1890年代の熊本で『フランケンシュタイン』を紹介した時、学生は何かの冗談としか思わなかったそうです。もしかするとハーンの学生は、名人の絵や彫刻が命を得て動き出す話（「抜

け雀」など落語になっています）を連想したのかもしれませんが。一方、同時代の英領インドで英文学が教えられた時、「天国の従者より地獄の王者」という詩句のある『失楽園』は、植民地支配への抵抗の象徴として読まれました。笑い飛ばすか我が事と受け止めるか、どちらが正しくどちらが幸福なのかはわかりません。重要なのは、いずれも教師の教育的思惑をはみだす反応が学生に生まれたことでしょう。その点で、フランケンシュタインの物語は大学の教室でも起こることなのです。つまり、かくいう「私」にとっても「あなた」にとっても無縁ではないのです。



『ミュウツーの逆襲 EVOLUTION』  
配給：東宝／2019



*Frankenstein (1818 text)*  
Mary Shelley：著  
Oxford World Classic  
1998



『ガラスの仮面』白泉社文庫  
美内 ずずえ：著  
白泉社／1999



『スタニスラフスキーとヨーガ』  
セルゲイ・チェルカフスキー：著  
堀江新二：訳  
未来社／2015

## 身近な読書から始める比較文学

### 書籍紹介

教員からは長く未完状態の漫画『ガラスの仮面』をお勧めします。主人公が独自の才能を孤独と逆境のなか開花させ、恵まれた境遇の天才と戦い、仲間を増やしていく点で、実は少年漫画と同じ展開となっています。同種の作品を少年誌に連載することも可能でしょう。

作中で主人公の北島マヤは、役になりきることで迫真の演技を行います。これは演出家スタニスラフスキーの有名な演技法を転用したものでしょう。役と似た過去の記憶を呼び戻すメソッド法もその派生物です。こうした北島マヤの困った影響は平田オリザの『演技と演出』が軽妙に

指摘するとおりです。

ここで注目したいのは『スタニスラフスキーとヨーガ』。実は、彼のいう役への没入の図は、ヨーガの覚醒の図から着想していました（左頁図）。仏教の阿頼耶識などを曲解して、万物に通じる宇宙意識を感得すれば、あらゆる人を演じられるというわけです。となると、北島マヤが地や水の霊を呼ぶ巫女のようにするのは、スタニスラフスキーと期せずして通底していたこととなります。

20世紀前半、欧米で能が注目されたのは、こうしたオカルティズムと深い関係がありました。奇しくも紅天女は能面劇となり、主役争いの戦

いもまた夢幻能を思わせる展開となります。ちょうど羅刹女が悟空との戦いで内面の嫉妬と向き合い、過去を昇華することでいわば成仏する物語と解釈できるように、紅天女が北島マヤもある種の開眼を果たすでしょう。演技をめぐる対抗心や自意識を超えて宇宙と一体化し、悟りにも似た境地に至る、と壮大な結末になるのかもしれませんが。

途絶していても、作品は異国や過去と思いがけない形で結びついていて、つながりを見つけることで精読はさらに面白くなります。こんな比較文学ならではの醍醐味をぜひ味わってほしいと思います。



## Chinese Literature

# 中国文学専修

中国文学は大阪大学文学部の中でも比較的若い専修で、文学のみならず古典時代の政治や経済・歴史・言語・哲学・芸術など、人間に関わるさまざまな問題をめぐって教育・研究が行われています。中国学の伝統に立脚しながらも、新たな風を吹き込もうとする若々しい活気に満ちています。

中国の文学者たちは古くから人間のさまざまな活動に興味を示してきました。本専修では、もちろん文学を中心に教育・研究が行われていますが、その志は高く、中国の文学者が興味を持ったすべてのものに等しく興味を持つようとしています。それは他にもなく、彼らが言葉で表現したすべてを、なるべく元のニュアンスで読み解こうとしているからです。言葉の分析を通して、人間という存在が生み出すさまざまな問題について考えてみましょう。そして、自由に発言し、討論してみましょう。授業においては中国の文献を読むうえでの基礎的訓練が行われますが、テキストの前では年齢や立場の違いはありません。本専修の若さはそういう面で発揮されています。

## 教員

あさみ・ようじ  
浅見洋二 教授  
りん・ぎょうこう  
林暁光 准教授

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/chubun/>

## 何を学んでいるの？

### 東洋の文学「中国古典詩の世界」

唐および宋の時代を中心とする中国古代の詩を、さまざまな側面から考察し、その全体像を明らかにする。中国古典詩の特質を把握し、それをもとに人間や社会の本質をより深く思考してもらいたい。

### 中国の文学「中国古典小説の世界」

史書や小説、語り物等を題材に、中国の俗文学史を概観する。特に唐代の伝奇小説や四大奇書・三言の登場人物や史実との関連などに関する、一通りの「常識」を身につけてもらうことを目的とする。

## どんな授業があるの？

### 〔講義題目〕

中国文学史概説  
中国歌謡史  
唐宋詩学の諸問題  
中国近現代文学——魯迅と周作人

### 〔演習題目〕

中国学研究法  
蘇軾の詩を読む  
『文選』を読む  
朱彝尊の詞を読む

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### 「人殺し」の文学

#### ——殺人描写から見た水滸伝のおもしろさ

『水滸伝』は、言わずと知れたアウトローたちの物語。社会の周縁部でうごめく人間の姿が躍動する。その躍動を「人殺し」という視点から切り取ってみせたところに、本論文の魅力はある。人間にとって「悪」とは何か、そういった根源的な視点を忘れていないところも評価できる。(選：浅見洋二教授)

### 〔卒業論文題目〕

風刺と滑稽——李漁『無声戯』をめぐって  
李賀詩について  
楽府詩集について——楽府詩と時代の変遷の関係  
魯迅作品における女性像

**興味の対象**

**A** 詞について興味を持っています。詩と違った、独特な雰囲気がありますから。また、諸子百家、特に道家の思想も面白いと思っています。

**B** もともとは『水滸伝』が好きでしたが、研究室でいろいろ知っていくうちに対象が変わって、卒論では晩唐詩を扱い、現在は清代の主に女性の詩に関心があります。

**C** 20世紀中国語圏文学にあらわれる男子学生表象に興味があります。

**中文を選んだ理由は？**

**A** もともとは歴史を学ぼうと思っていたのですが、次第に人と人の繋がりに関心を持つようになり、文学を通じてそれを学びたいと思いました。私は中国語ネイティブなのですが、母語をより深く考えたいです。

**B** 日本にも大きな影響を与えた中国の文学がどういものかに興味があったためです。特に女流文学は、日本にはたくさんあるのに中国古典文学においてはとても数が少ない点が気になって研究テーマに選びました。

**C** 高校の世界史の授業で魯迅の「薬」を読んだのが中国文学に興味を持ったきっかけでした。高校漢文独特の「説教臭さ」とは全く異なる、「生々しさ」に衝撃を受けたことを覚えています。

**現在の研究**

**A** 最近は明清の小説、特に『紅樓夢』を公開課（オンライン講習）で受講しています。豊富な登場人物の

造形に関心があります。

**B** 清代の袁枚という男性が、女性の弟子を集めて彼女たちの詩作を応援した、という、中国文学史上とても特異な出来事がありました。現在は彼女たちの作品を中心に研究しています。

**C** 日本占領下の上海で絶大な人気を誇った張愛玲という作家について研究しています。彼女は戦争や国家などではなく、男女の恋愛や家庭の問題をテーマに描き続けました。彼女が描く男子学生は民族の危機に立ち向かう雄々しい青年ではありません。現在はこうした男子学生の表象について研究を進めています。

**授業について**

**A** 授業では「精読」を何よりも重視します。そのため詩の二三句の解釈だけでもかなりの時間を要します。高校のときもいろいろな作品を読んできましたが、じっくり読む時間は与えられず、いずれも大ざっぱな理解にとどまっていた。隅々まで読むことで、新たな発見、複雑な文人像を得ることができました。

**B** 演習の授業では、自分の考えをしっかりと持っていれば、発言しやすく議論に参加しやすいです。その日取り扱った作品の解釈が、授業の前後で大きく変わることもあるのが醍醐味です。

**C** 自分の研究テーマについて発表する演習があるのですが、皆それぞれに研究テーマが異なるからこそ新

しい視点をいただけることが多々あります。

**研究室の雰囲気**

**A** 話をするのが好きなので、先輩たちと気軽に話せることが専修を決めた大きな理由ですね。

**B** 好きなきにきて、誰にでも相談できる自由な雰囲気があります。とてもオープンな研究室だと思います。みんなで餃子を作るなど授業外での交流もあります。オンとオフの切り替えのバランスが良いことが、先生と学生、あるいは学生同士のちょうどよい距離感を作っていると思います。

**C** そうだよな〜。いつでも気軽に相談できる環境というのはとても大事だと思います。大学院進学も研究室の雰囲気が決め手になりましたね。

**新入生へのメッセージ**

**A** 迷いがあっても、あまり深く考えず、まずは好きなことをやってみたらいいと思います！

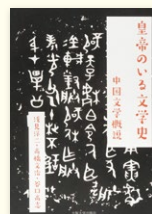
**B** まだ好きなことが見つからない人は、ぜひ中国文学研究室の扉を叩いてほしいです。研究対象は山ほどありますから、きっと好きなものが見つかるはず。

**C** 学部・院生を問わず、自由に研究・交流できるのが中文の強みだと思います。ぜひ一度中文研究室へ！

[インタビュー協力]

Aさん(2年)

Bさん、Cさん(博士前期課程2年)



『皇帝のいる文学史 中国文学概説』  
浅見洋二・高橋文治・谷口高志：著  
大阪大学出版会／2015

# English Dictionary

English  
Dictionary

English  
Dictionary

English  
Dictionary

English  
Dictionary

English  
Dictionary

English  
Dictionary

## English and American Literature and English Linguistics 英米文学・英語学専修

この専修では、英米文学と英語学に関する専門的知識を得るとともに、英語の総合的運用能力を習得することを目指しています。

そのため、アカデミックな講義・演習に加え、外国人教師による演習や海外留学や資格試験合格を視野に入れた実践的な授業を行います。

英米文学を専攻する学生は、英米を中心とする英語文学世界の全体的輪郭、ジャンルの特性、その成立・発展の状況等を文化的視野の中で把握します。それをふまえ、小説・詩・劇・批評などの具体的作品を取り上げ、テキストを正確、綿密に読む訓練を通して、文学研究の方法論を学び、文学センスを磨きます。学生は、各自の関心に基づき自由に研究テーマを選ぶことができ、それを卒業論文にまとめます。

英語学を学ぶに当たっては、理論と運用の両面にわたって英語の実際の姿を観察し、また英語学の研究史上重要な文献を読み、広く用例を収集・分析して、現代英語の構造やその特徴を把握することが基本となります。最近の英語学では、英語の音韻、文法、意味だけではなく、言語習得、発話行為や談話構造、言語と認識、日英語の比較研究も盛んです。講義、演習等は、これらの多様な研究に応じられるように配慮されています。

<http://osaka-english-lit.com> (英米文学)

<https://sites.google.com/site/handaieigogaku/home> (英語学)

### 何を学んでいるの？

#### 英米文学入門

数ある英米文学の傑作を取り上げ、英語原文を抜粋で講読、また映画版をダイジェストで視聴しながら、各作品世界の魅力を英米文学に親しんだことのない人にも分かりやすく紹介します。

#### 英語学の基礎

英語の文法事象について、高校までの考え方も比較しながら、なぜそのような文法規則が必要なのか、より妥当な説明はないのか、といった検討を行います。言語学の考え方を少しでも知ってもらえれば幸いです。

### どんな授業があるの？

#### [講義題目]

カズオ・イシグロの世界  
セクシュアリティの観点から考える  
アメリカ演劇  
動詞の意味論  
認知言語学概説

#### [演習題目]

アメリカ演劇を読む  
— David Henry Hwang 作品  
『ハムレット』を原書で読む  
古英語・中英語入門  
The Cambridge Grammar of  
Englishを読む:  
Chapter 9 Negation

### 教員

おかだ・さだゆき

岡田禎之 教授

かたふち・のぶひさ

片淵悦久 教授

かみやま・たかお

神山孝夫 教授

いしわり・たかよし

石割隆喜 教授

やまだ・ゆうぞう

山田雄三 教授

たなか・まひ

田中英理 准教授

もりもと・みちたか

森本道孝 准教授

ポール・ハーヴィ

Paul AS Harvey 外国人講師

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### A Study of Black Comedy in *Avenue Q*:

#### Social Aspects of Contemporary America

*Avenue Q* をブラックコメディ作品と位置づけ、社会の諸課題と切り離せないブラックジョーク、ミュージカルという表現形態の効果、*Sesame Street* のパロディ化などに注目し、21世紀アメリカの課題に対する現実を訴えかけるにあたり、ブラックユーモアが果たす効果について考察しています。(選: 森本道孝 准教授)

#### [卒業論文題目]

#### A Study of Black Comedy in *Avenue Q*:

Social Aspects of Contemporary America  
Narrative Strategies in the Descriptions of  
Tom and Huck's Lies: A Study of  
*The Adventures of Tom Sawyer and  
Adventures of Huckleberry Finn*

英米文学・英語学専修では英語で30枚の卒業論文を作成することが必要となります。ハードであるもののやりがいと達成感を味わえるこの体験の達成に至る手助けの方法の一つとして、英米文学分野では、11月末に1泊2日での「卒業論文指導合宿」という新たな試みを、2018年度より行っています。英米文学で卒業論文を執筆する4年生を主たる対象として、琵琶湖を臨む滋賀県の「白浜荘」にて、2年連続で開催することができています。

英米文学での卒業論文執筆に関わる指導の流れとしては、4年生の7月末に対象作家や・作品などについて

の構想を報告する場がまず設けられます。そして10月末に中間発表という形で、より具体的な論文の構想・展開について報告をします。そのうえで、11月末の合宿では、少なくとも卒業論文の第1章となる予定の原案を英語で準備してきます。それを基にした発表を聞き、教員および先輩である大学院生が、さまざまなコメントやアドバイスをする形で、合宿は過ぎていきます。食事や懇親会の場合などの、学生同士、教員や大学院生との交流も大きな意味を持っています。

2018年度は9名、2019年度は4名という英米文学で卒業論文執筆の

4年生は全員参加をしてくれました。また、大学院生の参加に加え、2019年度には卒業生有志も参加してくれたことで、就職活動や就職後の生活に関わるアドバイスも共有することができているようです。また、合宿後の4年生たちは、学生研究室とともに励まし合いながら論文執筆を進めるなどお互いに切磋琢磨する機会が増え、さらには演習科目などで授業の場での発表にも、成長をうかがえる効果を見て取ることができています。このように、学びという面での実り多いイベントですので、専修決定後の2・3年生にも参加を呼び掛けているところです。



## 教員の書籍をご紹介します。

### 書籍紹介

本書は「ネイティブ英文法」というシリーズ本のうちの1冊として、神戸大学の岸本先生と二人で書いたものです。どの言語でもそうですが、似たようなメッセージ内容を伝えるときにも、いくつか可能な表現が認められる場合があります。可能な選択肢のうちのどの形を選んで言葉にするか、というのは、私たちが無意識のうちに行っていることですが、どのような条件があるときにどの形式を用いるのか、ということには制限があったりします。この本では、英語の表現に見られる選択可能性について、欧米の文法書の記述を参考として、データを加えたり、自分なり

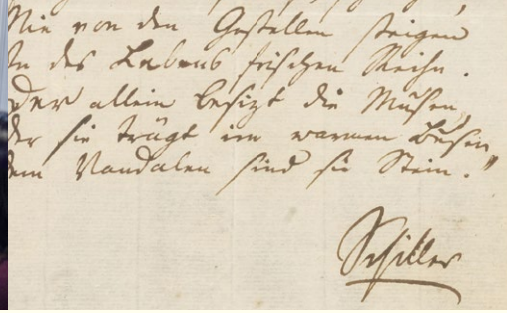
にこれまでの考え方を修正したりしながら、考えてみました。私は後半部分の担当でしたが、there is (are) ~の形で表れる存在文や、主語の前に目的語などを倒置させたりする前置文、逆に形式主語を使って文末に長い主語を置く後置文、ある要素を強調するために使う強調構文などがどのような場合に用いられ、どのような場合には用いられないのか、ということについて具体例を挙げながら説明しています。

通常の語順にしたがった文を用いるべきなのか、ある要素を前置したり、後置したりして語順配列を変えた文を用いるべきなのか、という構

文間の選択関係（交替現象ともよばれます）は、言葉を使う上でとても身近な問題であると思います。英語の表現の使い方を知ることは、英語話者の思考法の一端に触れることでもあります。文法の研究は、難しいルールや良く理由の分からない法則を覚えることではなく、他言語話者のものの見方、考え方を知ることなのだろうと思います。少しでもその様な側面を描けていれば幸いです。

『構文間の交替現象』  
岸本秀樹・岡田禎之：著  
朝倉書店／2020





## German Literature

# ドイツ文学専修

ドイツ、スイス、オーストリアだけでなく中東欧に広がるドイツ語文化全体を対象とし、文学にとどまらず、思想・芸術から日常的な生活文化までを扱う専修です。

18世紀に始まり、文豪ゲーテやグリム兄弟をへて、トーマス・マンやブレヒトにいたるドイツ語文学の伝統は、カフカやフロイトなどユダヤ系の人びとの活躍によって、いっそう豊かで複雑な流れをかたちづくってきました。こうした流れは、広い意味での社会的現象の一つですから、各時代や地域の政治や経済、宗教や慣習への目配りなしに議論することはできません。伝説やメルヒェンといった口承文化、さらには衣食住など日常生活や印刷物、画像、音声などメディア相互の連関も、欠かすことのできない着眼点です。

授業では、まずドイツ語能力をアップし、そのうえで文献を深く読み抜くねばり強い思考力を身に付けます。ネイティブ教員の授業では、実践的なドイツ語力も鍛えられます。研究室メンバーが全員参加し、ディスカッションやプレゼンテーションを重ねて表現力を徹底的に磨く演習も開設。小規模な専修ならではの、ともに学ぶ雰囲気大事にしています。

## 教員

みにに・けんじ

三谷研爾 教授

よしだ・こうたろう

吉田耕太郎 准教授

ヨハネス・ヴァスマー

Johannes Waßmer 特任講師

(常勤)

<http://germanistik533.wixsite.com/ougermanistik>

<https://bit.ly/dokubun-fb> (FB)

## 何を学んでいるの？

### ドイツの文化・芸術

ドイツ文学を、文化と芸術という切り口から紹介する講義。単なる作品紹介にとどまらず、ドイツ文学の背景にある歴史や文化を厚みを持って紹介する講義です。ドイツ文化って何？と少しでも興味を持ったら、まず聴講してほしい講義です。

### ドイツ語会話

ネイティブ教員によるドイツ語会話の授業です。日常会話はもちろんのこと、研究テーマについての発表やディスカッションにも対応できる実践的な語学能力を身に付けるための授業です。

## どんな授業があるの？

### [講義題目]

アシュケナージ・ユダヤ文化論

ドイツの文化・芸術

### [演習題目]

Kommunikative und

Kulturelle Kompetenz

(ドイツ語会話)

Forschungskolloquium

(研究発表の授業)

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### 日本における『ハイジ』

#### ——その受容史をめぐる比較文学的研究

野上弥生子(1920)に始まる『ハイジ』翻訳の歴史を、明治以降の児童文学の展開に即してたどった意欲作。野上訳、戦後すぐの竹山道雄訳(1953)、最新の上田真而子訳(2003)をドイツ語原文と丹念に比較して、それぞれの文体と各時代の読者像とを関連づけ、最後はアニメ版『ハイジ』の評価にまでおよぶ分析がスリリングです。(選：三谷研爾 教授)

### [卒業論文題目]

李弥勒『鴨緑江は流れる』における川の表象と機能

エリ・ヴィーゼルの揺らぎ

——『夜』における証言を手がかりに



## 内容の濃い授業をドイツ語で受けられるので刺激になります。 学生インタビュー

### 独文の授業について教えてください。

★独文の授業はアットホームですね。授業中も自然と意見を言える雰囲気があります。

★文学作品や作家について研究している専攻だと思っていましたが、文学を研究している人は少なくて、ドイツやヨーロッパの文化や歴史をはじめ、好きなテーマを研究している人が多いことに驚きました。

### みなさんは、ドイツ語を大学に入学後に勉強はじめてたんですね？

★そうです。疑問点や理解できない点を授業の中で発言して、参加者みんなで共有する良いサイクルができてきているような気がします。

★私も阪大に入学してからドイツ語を学びました。ネイティブの先生の授業も充実しています。参加人数が多くないので大変ですが、とても力になっておもらいます。

★内容の濃いドイツ文学の授業をドイツ語でしてくれる。刺激になりますね（一同同意）。

### その他に、独文のいいところありますか？

★独文以外の、ドイツ語の文献を読む人が授業に参加する点も特徴だとおもう。

★そうそう。いろいろな専攻の人が集まるので、授業も刺激になります。

★それからドイツ語圏への留学希望者や体験者が集まるので、留学についての情報が集まりますね。



2020年度秋冬学期授業参加学生有志のみなさん

### 2020年度は、独文の授業もオンラインで行われましたし、この座談会もオンラインでおこなっています。オンライン授業はどうでした？

★最初は大変でしたが慣れました。

★授業によっては対面と同じように学ぶことができましたし。

### 留学中の人は3月に緊急帰国しましたよね？

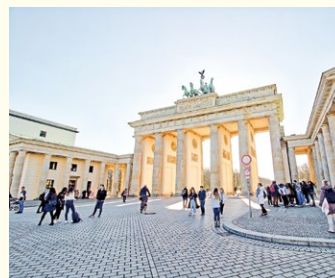
★帰国したのですが、ドイツの大学に留学中でもあるので春夏学期はオンラインで授業に参加していました。（驚き）

★私も、スイスの大学に留学中なのでオンラインで参加していました。

### 日本にいながら海外の大学の授業に参加できる。これも新しいオンライン教育の可能性なのかもしれませんね。では最後に読者の高校生のみなさんへひとこと

★独文のイメージがわからないかもしれないけど、研究室訪問や共通教育などの機会をつかって、いちど独文の雰囲気に触れてほしいとおもいます。

★大学の勉強にはたくさんの選択肢がある。求めればもとめるだけのことを返してくれる環境だとおもいます。





## French Literature

# フランス文学専修

フランス文学は、中世の騎士道恋愛物語や寓意物語から、20世紀のサルトルやフーコー、そして最近のモディアーノ、ウエルベックにいたるまで、世界の文学・思想の先端に位置して、大きな影響を与え続けてきました。当専修ではこのようなフランス文学の魅力をさまざまな角度から研究しています。専任スタッフはそれぞれ小説、思想、演劇という異なるジャンルを専門としており、授業科目も中世から現代まで、小説、詩、演劇、思想、フランス語学などあらゆるジャンルにわたって、みなさんの関心に応えるように配慮しています。フランスの学者や作家を招いたり、交換留学制度を活用してフランスの大学で学んだり、日仏の学術・教育交流も活発に行っています。知的好奇心をふんだんに持って、フランス語を少しずつ学んでゆけば、狭い研究室がいつしか広い世界へ通じています。

## 教員

やまじょう・ひろつく  
 山上浩嗣 教授  
 エリック・アヴォカ  
 Eric Avocat 特任准教授(常勤)

<http://www.gallia.jp/wordpress/> (研究室)

<http://www.gallia.jp/wordpress/gallia/> (研究室刊行雑誌『ガリア』バックナンバー)

## 何を学んでいるの？

### フランス文学史講義

フランス文学史の主要な潮流、概念、作家について、ルネサンスから現代に至る名作を厳選して取り上げ、作品の原文抜粋や映像資料をも用いながら概説する。

### フランス文学演習

代表的なフランス文学作品（小説、詩、哲学作品、文芸批評など）を取り上げ、フランス語原典を講読する。フランス語読解の基礎力を固めるとともに、テキスト分析の方法を学ぶ。

## どんな授業があるの？

### [講義題目]

モンテーニュ『エッセー』入門  
 フランス映画講義 歴史と社会の鏡  
 フランス・ルネサンス研究  
 恋愛抒情詩を中心に  
 文学とアダプテーション  
 ソラ『ナナ』を例に

### [演習題目]

フランス文学と西洋絵画  
 フランス語実践練習  
 ブルースト『失われた時を求めて』における旅の場面を読む  
 パスカル『パンセ』を読む

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### ミラン・クンデラ『緩やかさ』における物語の3つの階層

クンデラはチェコ出身の現代作家。彼の小説『緩やかさ』が、①18世紀の作家ドゥノンの小説『明日はない』の世界、②そのパロディである20世紀の物語、③それに対するメタフィクション的な作者の介入という三つの階層からなることを明晰に指摘した論文。(選：山上浩嗣 教授)

### [卒業論文題目]

ラ・フォンテーヌ『寓話』における自己の尊重  
 アンドレ・ブルトン『ナジャ』の心理的分析  
 アゴタ・クリストフ『悪童日記』における双子と家族  
 ヴェルレーヌの詩における楽器の表象と機能

## なぜこの専修を選びましたか？

**A** 第二外国語として仏（フランス）語を学び始めたのがきっかけで、仏語をもっと極めたい、文学を通してフランスの歴史や文化についても詳しく知りたい、と思って選びました。

**B** 私もそんな感じですね。

**C** 僕はやっぱり文学のほうが大きなきっかけでした。もともと本を読むのが大好きで、特に堀辰雄とか、仏文学の影響を受けた日本の作家が好きだったんですけど、「仏文学入門」の講義を受けて、仏文学そのものを学んでみたくなりました。

## いつ頃ここに入ろうと決めましたか？

**B** 1回目のガイダンスで研究室を訪問した時です。先生や先輩方の醸し出す素敵な雰囲気に惹かれたのを憶えています。

**A** 私は1年生の夏ごろです。蝉がたくさん鳴いていたのを憶えています。

**C** 僕はもっと遅くて、秋ごろの希望提出間際に決めました。金木犀の香りがしていたのを憶えています。

## 授業の内容は？

**C** 多様なジャンルの仏語テキストを講読する授業が多くて、例えば山上先生の授業では、モンテーニュの『エッセー』や、パスカルの『パンセ』の原文を、同時代の社会的・文化的背景も調査しながら精読していきます。仏文専修の授業を通して、文学や思想においてフランスが西欧全体

に与えてきた影響を改めて実感できます。

**B** アヴォカ先生の授業は仏語のみで行われるから少し大変だけど、先生はすごく優しく、丁寧に教えてくれます。今年は漫画の『アステリクス』を取り扱ったし、テーマもさまざまで面白いです。この専修ではとにかく、仏語を読む・書く・話す機会が多く得られるので、授業に一生懸命取り組むことで自然と仏語が身につけていきます。

## 研究室の雰囲気は？

**C** 研究室には気軽に立ち寄ることができて、常に誰かが勉強しているイメージです。そういう姿を見ると刺激を受けて、自分もがんばろうという気持ちになります。学生の人数は多くはないですが、その分先生や先輩との距離が近いので、授業や大学生活についての相談もしやすいです。

**A** 授業や勉強以外では、いろんな名目で定期的集まって、チーズやバゲットなどフランスっぽいものを食べています。あと、夏合宿では先生も学生も一緒になってトランプで遊んだりして、楽しいイベントが多いです。もちろん、真面目な行事もあって、年に何度か開催される研究会や講演会では新しい知識も得られるし、オンオフがしっかりした研究室だと思います。

## 渡仏の経験・思い出は？

**A** 私は大学の交換留学制度を利用して1年間ストラスブールに留学しま

した。最初は授業の内容が全く分からず掛けそうになったけど、録音した授業の音声を自宅で繰り返し聞いたりして必死に勉強しました。苦労したことも多いですが、そのおかげで仏語の力がついただけでなく、精神的にも強くなれたと思います。

**B** 私は観光でしか行ったことはないけど、2019年の火災が起きる直前の時期に、パリのノートルダム大聖堂を訪れました。繊細な彫刻や美しいステンドグラスを見たときの感動は忘れられません。

## 先輩に向けて一言

**C** 仏文専修では、娯楽の対象ではなく研究対象として仏文学に触れることになります。先生・先輩から頂く指摘、先行研究と向き合い、より深い考察を加えることで、単なる「読書」では知ることのできない奥深さに出会うことができます。「研究」を通して、人間として成長したいという方、ぜひ僕たちと共に学びましょう。

**A** 絵画や映画、フランスという国そのものに興味があるという方も大歓迎です。「シンデレラ」や『美女と野獣』など、なじみ深いものの中にも、実は仏文学が源流となっているものが多くあります。きっかけはどんな些細なことでもかまいません。ぜひ仏文に来ていろいろな作家や作品に触れ、自分のお気に入りを見つけてほしいです。



卒論中間発表会（2020年10月）

研究室夏合宿（2019年8月）



## Aesthetics and Science of Literary Arts

# 美学・文芸学専修

美学研究室は、美学思想をさまざまな芸術とのつながりから理解することを重視してきました。現在はさらに、美学という学問がいかに日常生活と関わりを持つのかにも関心を向けています。美学が積み重ねてきた議論は、分野を横断するアートを考察するうえで有効ですし、デザインの歴史について考える手がかりにもなります。今日ますます芸術を定義するのが難しいのは、周縁がたえず更新されて輪郭が定まらないからでしょう。ならば、芸術をその周縁から考えるのは一番有効な方法です。そして、既存の芸術ジャンルに制約されない美学こそが周縁分野に足を踏み入れることができます。

文芸学研究室は、芸術学の一分野として文学（文芸）や作家の思想を取り扱います。アリストテレス『詩学』などの西洋古典文献から連なる文芸学の潮流を重視することから西洋古典学も扱いますが、関心の対象は幅広く、古今東西の文学や思想・文学論も視野に収めており、文芸学研究室に所属する学生の研究対象は多岐に渡っています。文芸学は「文芸学という学問自体がどのような学問であるべきか」という問いを内在する学問でもあります。文芸学の名の下で取り組むひとりひとりの研究が、文芸学という学問を発展させていくという側面があり、研究室では日々切磋琢磨がなされています。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/bigaku/>（美学）

<https://bungeigakubungeiga.wixsite.com/mysite-1>（文芸学）

### 教員

たかやす・けいすけ  
高安啓介 教授  
わたなべ・こうじ  
渡辺浩司 准教授  
たなか・ひとし  
田中 均 准教授  
あずま・しほ  
東 志保 准教授  
にしい・しょう  
西井 奨 講師

### 何を学んでいるの？

#### 美学

学部生向けの授業では、美学の基本問題について概観するとともに、芸術について論じるうえで欠かせない用語について検討します。芸術は定義できるのか、作家の意図はどれほど重要なのか、表現とはいかなる行為かなどです。学びをとおして、芸術だけでなく身の回りの物事について論じる能力をやしません。

#### 文芸学

開講されている授業は古代ギリシア・ローマの神話・文学・思想に関する内容が主たるものとなっています。これらの研究方法を知ることを通じて、文芸学の基礎的な考え方を学びます。

### どんな授業があるの？

#### 【講義題目】

美学概論  
——5つのステップで学ぶ  
芸術学基礎  
デザイン思想  
ギリシア悲劇入門

#### 【演習題目】

カント『判断力批判』を読む  
芸術研究 A / 芸術研究 B  
文芸学文献講読  
ラテン語文献講読

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 『カレワラ』における呪術表現について

##### ——リョンロートの編集状況から

フィンランドの民俗詩を基に編纂された叙事詩『カレワラ』について、編纂者リョンロートが「良い」ペイガニズムとしての「古代フィンランド人」の呪術信仰の在り方を描こうとしたと論じる。原典のフィンランド語から丹念に読解し分析した力作である。（選：西井 奨 講師）

#### 【卒業論文題目】

勅使河原蒼風の彫刻とその評価  
——いけばな性をめぐって  
精神障害者の芸術における障害と作品の関係  
1930年代の書字教育と女学生の身体性の問題  
グリム童話「白い蛇」における飲食による  
能力の獲得について

## 芸術のフロンティアを開拓する。

美学

芸術系の学問分野にあって、美学研究室は、複数の芸術分野をまたがる問題や取り組みについて論じたり、美術・演劇・音楽といった既存のジャンルにおさまらない芸術について調べたり、芸術かどうか評価のさだまらない事柄について考えたりします。美学研究室では、哲学分野としての美学について詳しく学ぶか、美学の議論をふまえて、さまざまな事象について論じるかのいずれかになります。

### 分野を定める

学びと探究が散漫にならぬように、分野を定めます。美学思想であるか、陶芸・衣服・映像・写真・音響

や、情報デザインや、現代アートなど、卒業するまでに何か一つ分野について他の人より詳しくなって自信を持って話ができることを目指します。分野を定めたら、歴史の流れと通説を押さえておきます。自分の研究を始める下準備です。

### キーワードを定める

美学研究室では、事実関係を明らかにするだけでなく、物事を根本から考えることを重視します。そのため、自分の問題関心を一言であらわした研究キーワードを定めます。装飾・色彩・空間・身体といった語がそれです。陶芸の研究ならば、焼きものとは一体何なのだろう、焼いてな

い焼きものは焼きものなのか、というように、〇〇とは何なのかは、哲学分野としての美学らしい問いだと言えます。

### 題目を定める

キーワードを定めたら、自分の研究テーマに簡潔なタイトルをあたえます。例えば「生活の道具としての民藝の展示の問題」というようにキーワード「民藝の展示」に込められた問題への取り組みかたが一目で分かるようにします。ゼミでは、分野・キーワード・題目をおたがいに確認し合いながら、研究の進み具合を報告します。



## 文芸の本質と構造を解明する。

文芸学

### 研究室の特色は？

文芸学研究室では、自分の興味・関心に応じて自由に学習と研究を進めることができますが、それだけに強い自律性も必要となります。西洋古典について学ぶことを薦めているのは、西洋古典が文芸の類型として、また西洋古典の研究手法が文芸学研究の範として大きな参照価値を有しており、文芸の本質と構造の解明に大いに寄与すると考えられるからです。

### 何が学べますか？

ギリシア語・ラテン語文献講読などの西洋古典学分野の授業の他に、文学理論や神話学についての授業が開講されています。研究対象に選ん

だ文献の読解・分析に適切に取り組んでいるかどうかは「論文作成演習」にて指導されることとなります。研究対象は地域・時代・言語・ジャンルを問わず選べますが、原典が外国語文献である場合は当然その外国語に習熟することが求められます。

### どのような人に向いていますか？

西洋古典の文学・思想に関心がある方はもちろんのこと、ロシア文学やイタリア文学などの文学部に専修がない文学を研究したい方、また美学分野との関連から文学作品や作家の思想を研究したいという方に特に向いています。もちろん、日本文学・中国文学・英米独仏文学といった文

学部に専修がある文学を研究したい場合も文芸学研究室で学習・研究に取り組むことは可能です。ただし何を対象とするにしても、ただの愛好家レベルに留まることなく、その対象に関する専門家として真摯に研究に向かう人物を歓迎します。



## Musicology and Theatre Studies 音楽学・演劇学専修

この専修では、音楽、演劇、芸能などのいわゆる表演芸術（パフォーミング・アーツ）の研究が行われています。音楽学の分野では、世界諸地域の芸術音楽、伝統音楽、大衆音楽などの幅広い領域にわたって、音現象そのものの研究にとどまらず、それぞれの背景にある文化や思想の研究も含む幅広い研究が展開されています。演劇学の分野では、日本の古典演劇から西洋の現代演劇までの、狭い意味での演劇ばかりでなく、世界各国の映画、オペラ、ミュージカル、ダンス、そして芸能を含む幅広い対象を扱っており、それらの実証的かつ理論的な考察を通して、その芸術の美的特質や芸術史的、民族的特徴を理解し、さらにパフォーマンスの原理や本質を解明する試みがなされています。これらの領域を対象として扱っている大学の文学部は他にほとんどなく、本専修はこれらを人文学の一環として研究することのできる数少ない場所となっています。音楽や演劇の研究をする上で、実演の経験は必須ではありません。でも、観客として対象をみるだけでももったいないので、どういう立場であれ、なんらかの「現場」に深く関わる意欲を持った学生を歓迎します。

### 教員

ながた・やすし  
永田 靖 教授  
いとう・のぶひろ  
伊東信宏 教授  
わじま・ゆうすけ  
輪島裕介 教授  
なかお・かおる  
中尾 薫 准教授  
ごご・なおこ  
古後奈緒子 准教授

<https://musicologyosaka.wordpress.com> (音楽学)

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/theatre> (演劇学)

### 何を学んでいるの？

#### 音楽学

「ロマ（ジプシー）」の音楽は、知らないようで我々もいろんなところで出会っているはず（ゲーム音楽で、あるいは映画音楽で）。そのような「ジプシー音楽」を音楽史的、民族音楽学的文化研究的に考え、音楽学の多様な方法と内容を学びます。

#### 演劇学

演劇は古代ギリシャ以来、およそ2500年の歴史を持ちます。古代ギリシャ悲劇からコメディア・デラルデ、能、シェークスピア、人形浄瑠璃、歌舞伎を経て、イプセン、チェーホフなどモダン・ドラマ、そして多様な現代演劇に至る流れを学びます。

### どんな授業があるの？

#### 【講義題目】

「歌舞音楽」の近代  
クルターグ「遊び」の実践  
戦争とエコロジー  
近松門左衛門作『国性爺合戦』による  
演劇研究の基礎

#### 【演習題目】

音楽学研究室総合演習  
韓国農楽の身体技法の実技演習  
観劇実習  
『八帖花伝書』巻三を読む

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### ジョグジャカルタ王宮の鼓笛隊の起源と形態

インドネシア、ジャワ島の王宮で見られる笛と太鼓の楽団に関する研究。「西洋的」な服装と楽器で奏される軍楽は、これまでの地域研究では顧みられなかったものだが、筆者自身の驚きから出発し、フィールドワークを踏まえて考察した。インドネシア語の研究も読み解いた労作。（選：伊東信宏教授）

#### 【卒業論文題目】

見世物としてのフランス・ミュージカル『太陽王』  
禁止曲から見る韓国の大衆音楽規制  
野田秀樹『THE BEE』論  
三島由紀夫の歌舞伎観

## 語りえぬ音楽への尽きせぬ情熱を言葉にします。

### 音楽学

#### どんな研究をしていますか？

島根県西部の民俗芸能である石見神楽を対象に研究しています。石見神楽は舞の美しさも魅力的ですが、地域の歴史や社会を読み解く上でもとても面白い対象です。研究を通じて、歴史・政治・経済などの他分野と音楽の繋がりを実感し、興味の幅を広げています。

#### 研究室の雰囲気は？

アットホームで落ち着ける雰囲気です、気軽に行くことができます。先輩や先生方とも交流できるので、とても良い刺激を受けられます。

T. C. (学部生)



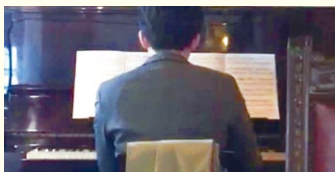
#### どんな研究をしていますか？

近代フランスの作曲家シャルル・ケクランの研究をしています。彼は自ら脚本を書き、写真集も出版するほどでしたので、その足跡を辿るには音楽外の見識も必要です。今はケクランの映画メディアへの関わり方に注目しつつ、20世紀前半の「音楽とメディア」の相互作用について考えています。

#### 未来の後輩へ

音楽を共通項に雑多なテーマで研究が行われます。音楽学の現場にあふれる興奮を味わってほしいです。

S. K. (博士前期課程)



#### どんな研究をしていますか？

都はるみの唄がきっかけで昔の歌謡曲にハマリ、上原敏や松島詩子といった戦前の歌手まで遡りました。現在では大戦前後の流行歌に落ち着き、楽しく聴きながら勤んでいます。最近は大沢桃子という現代の演歌シンガーソングライターに惹かれ、若い世代にも関心が向いています。

#### 研究室を選んだ理由

研究室の自由闊達な雰囲気に魅力を感じ選びました。好きな音楽を学問としても楽しみたい諸君！きっと新しい発見ができると思います。

C. K. (博士後期課程)



## さまざまな演劇を多様なアプローチで研究します。

### 演劇学

#### 演劇を学ぼうと思った理由は？

小学5年生で宝塚歌劇に出会ってから、現代劇、歌舞伎、演劇を観るのも創るのも大好きだからです。演劇に携わることを考えたときに、歴史・理論や上演分析の方法などの専門的な知識は不可欠だと考えました。

#### 研究室はどんな雰囲気ですか？

話が気軽にできる温かい雰囲気です。昨年はコロナ禍のため交流は少ないものの、院生が毎週、研究方法を教えてくださいました。大きなテレビ、演劇関係の雑誌や書籍に囲まれながら、楽しく演劇の話ができます。

Y. N. (学部生)



#### どのような研究ができますか？

「演劇」であれば幅広く研究することができます。宝塚歌劇団からバレエなどの舞踊、人形劇までさまざまなジャンルを扱えます。テキスト、衣装、音楽などあらゆる切り口で考えることができるのが魅力だと思います。

#### お勧めの講義・演習はありますか？

秋冬学期に開講される観劇実習です。実際に劇場に赴いて生の演劇を目の当たりにすることができます。歌舞伎や文楽といった伝統芸能から、テレビでも見かける俳優の出演する作品まで幅広いジャンルを観劇できます。

M. A. (学部生)



#### 研究対象は何ですか？

学部の際にドイツへ留学して以来、戦後ドイツのナチス反省における演劇の在り方に興味を持ち、現在大学院では極右政党の台頭するドイツ社会で、演劇がどのような立場にあるのかについて研究しています。

#### 後輩に向けてメッセージをどうぞ

研究室には、興味のある領域に骨の髄から浸り込んでいる人たちがいます。その人たちとぜひたくさん話して、「こんな世界があるんだなあ」と思うと同時に、知的好奇心を満たしてもらえたらいいなと思います。

S. T. (博士前期課程)





## Art History 美術史学専修

美術史学専修では、絵画、彫刻、工芸はもとより、写真や映像、建築や庭園など、あらゆる「イメージ」を研究対象としています。作品の様式や意味についての研究、制作の背景や受容の歴史を考える研究など、その手法はさまざまです。ただし、特定の思想や先入観にひきずられることなく、あくまで作品的確かな観察に基づいた実証的研究をめざしています。

美術史学専修は、日本・東洋美術史と西洋美術史の二つの専門分野に分かれています。教授、准教授あわせて5名の専任スタッフに加え、大阪大学総合学術博物館の教授1名が芸術史講座のスタッフを兼任し、6名が幅広い授業を開講しています。日本の大学では、最も充実した体制を持つ美術史研究室の一つです。

隣接の美学・文芸学、音楽学・演劇学専修、あるいは歴史や文学など他分野との連携や、海外の研究者との交流も積極的に行っています。近年はコンピュータによる画像データベースの作成、画像処理などにも力を入れています。

<https://www.handaitobi.com/> (東洋美術史)

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/arthistory/seibi/seibifront.html> (西洋美術史)

### 教員

こうでら・つかき  
園府寺司 教授  
はしづめ・せつや  
橋爪節也 教授  
ふじおか・ゆたか  
藤岡 穰 教授  
おかだ・ひろしげ  
岡田裕成 教授  
くわきの・こうじ  
桑木野幸司 教授  
かどわき・むつみ  
門脇むつみ 准教授

### 何を学んでいるの？

#### 日本・東洋美術史

日本とアジアの美術の歴史を学びます。教員の専門は仏教美術、日本近世絵画、近代美術ですが、学生の研究テーマは自由！

#### 西洋美術史

伝統的な「西洋」の線引きにこだわってはいません。「美術」の枠のとらえ方も。驚くようなテーマに挑戦してみてください。

### どんな授業があるの？

#### [講義題目]

近代美術と大阪  
近世絵画史  
16世紀美術の図像解読術  
近現代美術文献講読

#### [演習題目]

見学演習 (美術館・寺社など実地見学)  
仏教美術史料講読  
西洋美術史 研究発表と討論  
建築・庭園見学演習

### 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

#### 谷文晁筆『公余探勝図』に就いて

松平定信の巡検の追体験を文晁がいかに具現化したかを考証。(選：橋爪節也 教授)  
**毎年の、限界までの努力が見える論文すべて**  
追込みで徹夜を重ね、提出後丸2日寝続けたという人も。(選：岡田裕成 教授)

#### [卒業論文題目]

葛飾応為が描いた夜と光  
梁代神将像の形成と伝播  
シャガールの磔刑図：『白い磔刑』  
17世紀オランダ絵画における働く女性像



## 直に作品に出会うことが第一！

東洋美術史

### 研究室の雰囲気

先生とコミュニケーションできる機会が多く、相談がしやすい雰囲気でです。授業ではお互い助け合っています。グルメな方がたくさんおり、研究室では美味しいものによく出会います。(Hさん/博士前期課程1年)

### 見学演習

毎週金曜日に近畿圏の美術館や社寺に足を運び、美術作品を実見することができる貴重な機会です。学芸員の方の説明を受けたり、作品を鑑賞しながら先生や先輩、同期と意見を交わすことが、知見を広げる上で助けになっています。今年度は約20箇所を訪ねました。(Aさん/3年)

### 授業について

仏教美術・近世絵画・近代絵画といった幅広いジャンルを学ぶことができます。演習は、見学演習の他に史料や論文の購読演習があります。先生方が作品の見方や魅力を熱くお話して下さるので、美術作品を見ることが好きになりますよ。論文作成演習は自身の論文作成に向けた発表を行い、メンバーの発表を聴くことで新しい作品や芸術家の魅力に出会えます。(Tさん/博士前期課程2年)

### 東美を選んだ理由

文化の中心地、奈良・京都・大阪へのアクセスが良く、先生方が研究の第一線で活躍されていることに魅力

を感じました。課外でも調査への参加、作品解説の執筆等多くの学びの機会があり、研究室には優れた学生が幅広い地域から集まっています。(Oさん/博士前期課程1年)

日本文化を勉強したいと思っていたところ、美術品の美しさは研究がしんどくなっても救いになるよ、という先生のお言葉に惹かれて東美を選びました。(Sさん/3年)

### 卒業論文について

題材や切り口について自分で一から考え、何万字もの文章を書くのは初めてで、しんどいと思うこともありましたが、「美術史の楽しさ」を体感できた気がしました。(Tさん/4年)



## 「目を鍛える」授業が新鮮でした。

西洋美術史

### 西洋美術史研究室に入った理由

★興味を持ったきっかけは西美の先生の講義でした。ポッティチェリの《春》などの絵画にも実は寓意的な意味が隠されていることを知り、「美術史って面白い」と思うようになりました。(Sさん/博士前期課程1年)

★1年生時に受けた授業の中でいちばん興味を惹かれた授業が「西洋の芸術」だったからです。ゴッホやフェルメールの本物の作品と偽物の作品の見分け、ルネサンス期とバロック期の作品の識別など「目を鍛える」内容が新鮮でした。(Oさん/4年)

### 授業について

★西洋美術に関する基礎知識を一

から丁寧に教えてもらえます。また、ヨーロッパやアメリカ合衆国といったいかにも「西洋」らしい地域の芸術だけでなく、中南米などの芸術についても教わることもできるのも西美の魅力です。(Tさん/博士前期課程1年)

★カバーする分野が幅広いので、他の人の発表を聴いているだけでも知識の幅が広がります。ディスカッションを通して思ってもいなかった発想を得たりすることで、日々刺激を受けています。(Kさん/研究生)

### 西洋美術史研究室のいいところ

★先生方も先輩方もとても優しく、困ったときはすぐに助けてくれます。研究室はアットホームな雰囲気です

が、ちょうどいい距離感です。(Aさん/4年)

★研究室旅行では研究室出身の学芸員さんの案内で美術館のバックヤードを見学させていただきました。普段は入ることのできない美術館の裏側を見られるのも、美術史学専修の特権ではないでしょうか。(Oさん/3年)

### 大変だったこと

★留学生の私は、いわゆる横文字に苦労しました。日本語での読み方は母語での読み方とも原語での読み方とも微妙に異なるので、聞き取ったり発音したりするのがとても難しかったです。(Sさん/博士前期課程2年)

# スタッフ／文学部の教育体制

## 教員一覧

専修	教授		准教授		講師	助教
哲学・思想文化学	舟場保之	望月太郎	中村征樹 (兼)※1 嘉目道人		三木那由他	西條玲奈
倫理学	堀江 剛	ほんま なほ (兼)	小西真理子			
中国哲学	湯浅邦弘				辛 賢	
インド哲学	堂山英次郎				名和隆乾	
日本史学	飯塚一幸 市 大樹	川合 康	伴瀬明美	野村 玄		北泊謙太郎
東洋史学	松井 太	田口宏二郎	河上麻由子			齊藤茂雄
西洋史学	秋田 茂 栗原麻子 Gerold Krozewski (兼)	藤川隆男 Nadin Heé	中谷 惣		見瀬 悠	高垣里衣
考古学	福永伸哉	高橋照彦				上田直弥
日本学	宇野田尚哉		北村 毅 中嶋泉	安岡健一		西井麻里奈
人文地理学	堤 研二	佐藤廉也	井本恭子			
日本語学	石井正彦 田野村忠温 三宅知宏	渋谷勝己 Matthew Burdelski	高木千恵			東条佳奈
日本文学・国語学	金水 敏 岡島昭浩 斎藤理生	飯倉洋一 滝川幸司	岸本恵実 勢田道生	渡邊英理		尹芷汐
比較文学	橋本順光		鈴木暁世			
中国文学	浅見洋二		林 暁光			陳 竺慧
英米文学・英語学	岡田禎之 神山孝夫 山田雄三	片淵悦久 石割隆喜	田中英理	森本道孝	Paul AS Harvey [外国人教師]	好井千代
ドイツ文学	三谷研爾		吉田耕太郎		Johannes Waßmer [特任講師 (常勤)]	
フランス文学	山上浩嗣		Eric Avocat [特任准教授 (常勤)]			平光文乃
美学・文芸学	高安啓介		渡辺浩司 東 志保	田中 均	西井 奨	
音楽学・演劇学	永田 靖 輪島裕介	伊東信宏	中尾 薫	古後奈緒子		横田 洋 (兼) 鈴木聖子
美術史学	囀府寺 司 藤岡 穰 桑木野幸司	橋爪節也 (兼) 岡田裕成	門脇むつみ			
文化動態論学科目 ※2	永田 靖 田野村忠温 渋谷勝己 堤 研二 三谷研爾 金水 敏 桑木野幸司	囀府寺 司 神山孝夫 藤川隆男 堤 一昭 岡田禎之 石割隆喜	井本恭子 古後奈緒子 鈴木暁世 東 志保			
留学生専門教育					鄭 聖汝	
懐徳堂研究センター	石井正彦					
国際交流センター						Nicholas Lambrecht Mohammad Moinuddin Felipe Motta [特任助教]
埋蔵文化財調査室	福永伸哉 (兼) 高橋照彦 (兼)					上田直弥

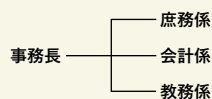
※1 略語 (兼) は大阪大学内の他部署との兼務を表します。

※2 これは専修ではなく、大学院と共通の学科目を示します。

### 教育・研究の支援体制

- 研究推進室
- 評価・広報室
- 教育支援室
- 国際連携室

### 文学研究科事務部



**Eric Avocat** 特任准教授（常勤）  
エリック・アヴォカ

フランス文学

古代ギリシア＝ラテン文学・文化  
西洋演劇史

研究：フランス革命期の政治的言説、19－21世紀文学におけるフランス革命のイメージ、悲劇史・悲劇思想史

文学、哲学、社会科学を学び、ギリシア＝ラテン文学を専攻しました。リセ教員時代に、政治史と文芸史に関わる博士論文を書きました。学生のみなさんには、こうした折衷主義の精神を伝えたいと考えています。フランス語は多様性と討論の言語です。フランス語圏の文化も芸術表現（文学、歌謡、映画、漫画、音楽）も、多様性に富んでいますし、深淵にも駄弁にもなる討論が、フランス的な生活と思考を特徴づけています。フランス語を学び、このフランス精神を身につけましょう！



**東 志保** 准教授  
あずま・しほ

美学・文芸学

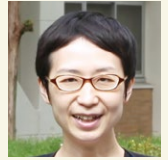
文化動態論（アート・メディア論）

映画・映像研究／比較文化論

研究：フランスを中心とした記録映画の研究

映画と都市、映画と旅の関係

高校生の頃に映画の魅力に取り憑かれ、その後フランスをフィールドに映画を研究するようになりました。今でも映画館に行くと、安心するような、ワクワクするような、不思議な感覚にとらわれます。映画を楽しむことは、映画の歴史を学んだり映像を分析することとは相容れないように思うかもしれませんが。しかし、映画を見る喜びから、世界への探究心も生まれるのです。スクリーンの中と外を繋ぐような授業ができればと思っています。



**秋田 茂** 教授  
あきた・しげる

西洋史学

グローバルヒストリー・世界史  
イギリス帝国史・経済史

研究：近世以降現代までの新たな世界史を、帝国の形成・発展・解体を軸に、経済史の観点から構築する。

21世紀の世界で活躍される若い皆さんと共に、大阪をベースに、新しい世界史、グローバルヒストリーを考えていきたいと思っています。阪大歴史系は、世界史システム論、中央ユーラシア史、海域アジア史で世界的な業績を積み重ね現在最も注目されています。オクスフォードやライデン等6大学による国際共同研究も始まります。国際的ネットワークを通じて、大阪・アジアから、西洋中心史観にとられない新たな世界史像を、実証的に構築していくことが当面の目標です。



**飯倉 洋一** 教授  
いいくら・よういち

日本文学・国語学

日本近世文学

研究：上田秋成の文芸、近世上方文壇における人的交流、「奇談」を中心とする近世小説（仮名読物）史

江戸時代の文芸においては、ありとあらゆることが題材とされ、ありとあらゆる表現の試みがなされていて、その豊かさには驚かされます。芭蕉・西鶴・近松らの著名な作者の他に、無数の天才の作品が埋もれています。それは深い思考、超絶技巧の言語トリック、波乱万丈の物語、世の中を生き抜くための今も役立つ指針…に満ち満ちています。現代人の想像を絶する知恵と勇気と笑いと教訓と言葉の力を、私たちは日本近世文学から学ぶことができます。

(2022年3月退職予定)



**浅見洋二** 教授  
あさみ・ようじ

中国文学

六朝・唐・宋を中心とする古典中国の詩学

研究：六朝・唐・宋の詩と詩論（詩文集の編纂・注釈史、『文選』詩篇、蘇軾・黄庭堅等の宋代文人研究など）

中国文学の研究に取り組もうとする者は、当然のことながら中国の言葉や社会・文化に対して深い愛着を持たなければならないでしょう。しかし、それだけでいいのでしょうか。中国あるいは中国文学という枠組みにとられない、人文諸学全般にわたる柔軟で幅広い関心を備えていただきたい、さまざまな分野の先鋭な書物との対話を通して自分独自の問題を構築できるような言葉の力を育てていただきたい、と願っています。



**飯塚一幸** 教授  
いづか・かずゆき

日本史学

日本近代史

研究：近代化による地域社会の変容を検討することで、伝統と近代の問題を考えている。

近年、日本近代史に限らず、史料へのアクセスは飛躍的に改善されてきました。史料の森への旅は、その気さえあれば格段に容易になりつつあります。けれども膨大な史料の中からテーマを発見し問題をつかみ出すことはむずかしい。歴史学を学ぶものとしてのセンスを問われるのもそこです。新しい発想で史料と格闘し、問題を徹底的に考え抜く気迫を持った若い世代に登場してほしい。我々も「昭和の老人」扱いされぬよう自戒しつつ、皆さんを待っています。



### 石井正彦 教授

いしい・まさひこ

日本語学

現代日本語学／計量言語学  
コーパス言語学



研究：基本語彙とその成立の研究、メディアの言語・言説の批判的研究、探索的データ解析による日本語研究など

しばらく前から「ことばがどのように使われ、また、その背後にどのようなものが見方があるのかを、ありふれた言語使用の中から発見する」ということに関心があります。例えば、新聞で「沖縄の人々」「アジアの人々」はあっても「東京の人々」「先進国の人々」という言い方がほとんどないのはなぜか。こうした事実を発見し、その上で、その背後にある我々自身のもの見方に気づくことで、日本社会を批判的に観る力を身につけていくことができたらと考えています。

### 伊東信宏 教授

いとう・のぶひろ

音楽学・演劇学

音楽学／西洋音楽史  
東欧の民俗音楽研究



研究：東欧、中欧地域の音楽史、民俗音楽研究。

ハイドン、バルトーク、オペレッタ、バルカンのポップフォーク

「音楽」は、現代の日本では、あってもなくても良い「お飾り」、趣味的な「気晴らし」、主要教科ではない「息抜き」としか考えられていません。けれど、本来それが響いていたのは、異界とコミュニケーションする「儀礼」の場であったり、自分から解き放たれる「法悦」の場であったりしたはずで、だから「音楽」は生きることそのものと同じくらい深い体験であった、と私は考えています。音楽学の研究を通して、そんなことを伝えたい、と思っています。

### 石割隆喜 教授

いしわり・たかよし

英米文学・英語学 文化動態論（文学環境論）

アメリカ文学



研究：小説論的視座からトマス・ピンチョンらの  
ポストモダン文学を捉え直す研究を試みています。

小説形式の歴史性とも呼ぶべき問題に関心があります。ポストモダニストと称される現代アメリカ作家の小説を丁寧に、かつ理論にも目配りしながら分析してゆくことを通して、広く近代という歴史的な条件の中で「小説」がどのような役割を果たしてきたのか、「小説」という形式そのものにどのような意味が潜んでいるのか、「小説」を必要とするのはどのような「人間」だったのか、といったことを探ってゆきたいと考えています。

### 井本恭子 准教授

いもと・やすこ

人文地理学 文化動態論（共生文明論）

文化人類学／南ヨーロッパ研究



研究：サルデーニャ島をフィールドに、  
共同性（あるいは秩序）の形成や維持の原理を考えています。

ヒトは北極圏から砂漠、そして熱帯雨林に至るまで、さまざまな地理的条件や気候条件のもとで暮らしています。住居、親族組織、習俗、信仰など、そこに住む人びとにとって「あたりまえ」で「自然」なものが、実に多様であることは容易に想像できるでしょう。この多様性を説明できる理論を、個別で具体的な生活空間や日常的な実践を導き手に模索しています。あなたも現場に身を置きながら、自然と文化にわたる最大限の視野で、自ら問いを立ててみませんか。

### 市大樹 教授

いち・ひろき

日本史学

日本古代史



研究：交通史から勉強を始め、その後、木簡、都城制、  
飛鳥時代政治史へと少しずつ関心を広げています。

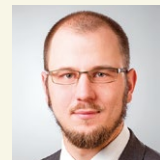
かつて「頭脳の古代、ロマンの中世、体力の近世・近代」という俗語があったそうです。古代史の史料は限られており、先行研究も膨大にあるため、よほど頭が良くないと何も新しいことが言えない、というわけです。しかし、地中には木簡などの文字資料が無尽蔵に眠っています（現時点で約40万点が出土）。遺跡も多くのことを語りかけてくれます。また、東部ユーラシアに目を向けることで、多くのヒントも得られます。好きだという強い気持ちがあれば、何ら恐れる必要はありません。ちなみに私は体力勝負です。

### Johannes Waßmer 特任講師（常勤）

ヨハネス・ヴァスマー

ドイツ文学

ドイツ文学／思想史



研究：思想史や歴史学を横断した戦争文学や紀行文学の  
研意味論・記号論の再検討にも取り組んでいます。

授業では、ドイツ文学、ドイツ語会話、ドイツ語作文を教えています。詩や戯曲といった題材をとりあげて、ドイツ語のもつ音、響き、リズムに親しめる授業をこころがけています。授業では、参加者の議論を重視しますし、ドイツの文化やドイツのアクチュアルな出来事も紹介しています。Ich freue mich auf Sie! (授業で会えることを楽しみにしています！)

## 宇野田尚哉 教授

うのだ・しょうや

## 日本文学

近世・近現代の日本思想史



## 研究：近世日本の儒学史／戦後日本の文化運動

私のもともとの研究テーマは、荻生徂徠を中心とする18世紀の儒学史なのですが、思想史と社会史の接点のようなところで歴史を叙述することはできないかと考えるようになり、徂徠学を受容した無名の武士の思想と行動を論じる論文などを書きました。無名の人々の思想的・文化的営みからその時代を捉えかえたいという問題意識は近現代の問題を扱う場合も一貫して、最近では1950年代のサークル運動を手がかりとして50年代像を描きなおすことを試んでいます。

## 岡田裕成 教授

おかだ・ひろしげ

## 美術史学

西洋美術史



## 研究：初期近代スペイン・ラテンアメリカ美術、

## 植民地主義の下での図像文化の産出と受容、移動と変容

美術史というと、高尚な「名作」のみを論じる学問と思われがちですが、今は対象の領域も、扱う地域も大きく広がっています。イメージに込められた多様なメッセージを読み解く知的な関心、その表現の質を見定めるすぐれた感覚、そして、作品が生まだされ受容された場に入り込んでゆく行動力と、多様な力を求められる美術史の研究ですが、それだけにやりがいのあるものだと思います。どうでしょう、あなたもチャレンジしてみれば？

## 岡島昭浩 教授

おかじま・あきひろ

## 日本文学・国語学

国語学（国語史・日本語学史）



## 研究：日本語が意識・研究されてきた歴史を通して、日本語の歴史・言語生活の歴史を探る。

人はしばしば言葉について意識し、そのことを書きとめます。学問に裏づけられたものもあれば、常識的な感想もありますし、とんでもない妄想としか見えないものもあります。それは、現代人だけでなく、過去の人が書きとめたものも同様です。ただ、現代の目から見ると奇妙な感覚のように見えるものでも、当時の状況を知ると、これが突拍子もないことを書きとめているわけではないことが分かることもあって、そこに言語意識の歴史を探る面白さがあるのです。

## 片淵悦久 教授

かたふち・のぶひさ

## 英米文学・英語学

アメリカ文学／アダプテーション研究  
物語更新理論

## 研究：ユダヤ系アメリカ小説における物語意識、アダプテーション研究、物語更新理論

私がかつとも関心を持っているのは、「物語」です。小説や詩のように書かれた文学作品であっても、舞台上上演される演劇やミュージカルであっても、あるいは映画やアニメやマンガであっても、すべて広い意味での物語です。かたちを変えながら生き延びる物語への関心を土台にして、私は物語の生成とメディア文化の濃密な関係についての研究を深め、「物語更新論」という新たな物語研究のありかたを模索しています。授業の中でも、研究の成果を還元していくつもりです。

## 岡田禎之 教授

おかだ・さだゆき

## 英米文学・英語学 文化動態論（言語生態論）

英語学／機能主義言語学

意味論・語用論・認知言語学



## 研究：語彙概念拡張・語彙の意味変化

## 等位構造および従属構造に関する機能的文法分析

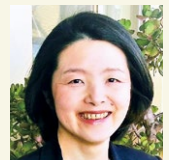
言葉は思考内容を伝えるものである以上、メッセージ伝達という機能を効率的に行える形に整えられているでしょうし、表現したい内容が異なれば、何らかの形で形式に反映されるはず。言語形式とその意味機能の対応関係を研究していますが、まだまだ分からないことがたくさん言葉の裏には隠れています。何故この表現を使ったのか、何故他の言い方ではダメなのか、といったことを考えることは、それ自体が重要な言語学的課題です。言葉の研究は私たちにとって卑近なものなのです。

## 門脇むつみ 准教授

かどわき・むつみ

## 美術史学

日本美術史



## 研究：近世の絵画を中心とする美術作品

美術史学の楽しさは、魅力的な造形の芸術性を把握・分析すること、そして作品を生み出した社会の状況や特定の集団の思想などに作品を通じて向き合うことにあります。時代の空気や人々の思いがいかにか視覚化され、そのために画家はどのような表現を用いているか。巨大画家集団である狩野派の組織と社交・伊藤若冲と禅宗との関係・奇妙な因柄の肖像画を取り巻く人間模様などを扱い、美術作品と人間・社会との関わりを考えています。

### 神山孝夫 教授

かみやま・たかお

英米文学・英語学 文化動態論（言語生態論）

歴史言語学／音声学



研究：英独仏露語史、印欧語比較言語学、文字論、日欧対照音声学、ヨーロッパの神話・伝説

ヨーロッパ諸語の歴史と、印欧（インド・ヨーロッパ）語の比較言語学を主たる専門としています。その主材は古い言語ですが、今のヨーロッパ諸語も、特にその響きが大好きで、これらと日本語との対照音声学が第2の専門です。授業では英語史、印欧語比較言語学の初歩と音声学を扱います。英語は昔どんな言語だったのか、どのようにして今の英語に至ったのか、他の印欧語との起源的関係等々、また英語と日本語の細かな発音の差異を学ぶお手伝いができればと思います。

### 岸本恵実 准教授

きしもと・えみ

日本文学・国語学

国語学



研究：キリシタン資料（特に辞書類）の研究

日本の戦国時代、世界の大航海時代に、フランシスコ・ザビエルに続きポルトガルやスペインから宣教師が来日し、日本人キリシタンと共に様々な書物を作りました。西欧文化と日本文化の接触により生まれたそれらは、今日、キリシタン資料と呼ばれ、当時の日本語を知るための重要な手がかりとなっています。ザビエルが聞き、秀吉が使った日本語がどのようなものだったか、日本語の歴史や当時の文化と共に学んでみませんか。

### 川合 康 教授

かわい・やすし

日本史学

日本中世史



研究：院政期武士社会や鎌倉幕府の研究を中心に、平家物語や鎌倉街道、河内国金剛寺の研究などを進めています。

8歳の時にNHK大河ドラマ「源義経」を見て日本の歴史に興味を抱き、11歳の時に同「天と地と」を見て熱狂的な「戦国オタク」になりました。大学の史学科に進んでからは、平安時代後期から鎌倉時代にかけての政治史研究や、『平家物語』を歴史学的に読み解く研究、中世の戦争（特に源平合戦）を実態的に考察する研究などを進めています。常識にとらわれず、通説を疑いながら、皆さんと一緒に史料を読み、考え、新たな歴史像を発見していきたいと思っています。

### 北村 毅 准教授

きたむら・つよし

日本学

文化人類学／民俗学

オーラルヒストリー



研究：近現代日本における戦争の記憶の研究 沖縄の戦後史研究、沖縄の民俗文化の研究

他者の体験を聞くことに興味をもって研究してきました。聞き書きやオーラルヒストリーと呼ばれる手法です。民俗学者の宮本常一は、民俗学を「体験の学問」と評しました。この言葉には、フィールドワークを通じた調査者自身の体験という意味だけではなく、人の体験を見聞きする学問という意味も込められています。聞き書きには、どんな本にも書かれていないことを自分の体で知る面白さがあります。そこから研究を切り拓いていく楽しさに魅了されて、今日に到ります。

### 河上麻由子 准教授

かわかみ・まゆこ

東洋史学

東アジア史



研究：魏晉南北朝～隋唐時代の仏教史

魏晉南北朝～隋唐時代における東アジアの国家間交渉

私たちは今、どのような世界に生きているのか。様々なコンテンツで配信されるニュースを見るたびに、皆さんも、この問題を考えていることでしょうか。

その際、「私たち」の範囲、「世界」の範囲を広げれば広げるほど、豊かな考察が可能になるはずですが。そのためには、「私たち」の「世界」を形作ってきた歴史について、正確な知識と深い理解が必要になります。皆さんが、アジアの歴史を学び、より広い世界に羽ばたいていくお手伝いができれば幸いです。

### 金水 敏 教授

きんすい・さとし

日本文学・国語学 文化動態論（文学環境論）

国語史／言語学



研究：日本語文法の歴史的研究、役割語研究

私の研究テーマの一つに「役割語」というものがあります。「そうじゃよ、わしが知っておるんじゃ」と言えばおじいさん、というように、話し方と話し手の人物像が緊密に結びつく現象のことです。役割語はフィクションにとって大変重要な役割を果たしますが、その歴史的形成過程もまたさまざまなドラマに満ちています。もし役割語について興味を持たれたら、日本文学・国語学専修を訪れてみてください。

(2022年3月退職予定)

## 栗原麻子 教授

くりはら・あさこ

西洋史学

古代ギリシア社会史



**研究：法廷弁論を主史料とする、前4世紀アテナイの社会的結合関係の研究**

古代ギリシア史の研究蓄積の中で、特にアテナイ史にはどのテーマにも19世紀以来の研究史があります。でも、手あかまみれた史料から、新しい時代像を導き出すこともできるのです。歴史学は、事実発掘だけでなく問題発掘的な側面を併せ持っているからです。アッティカ法廷弁論は、そのような、再発見されるべき史料の一つであり、市民たちの日常的な人的紐帯のありかたは、そのような、発掘された問題の一つです。古代との対話は、思いがけぬ自己発見にもつながります。

## Gerold Krozewski 教授

ジェロルド・クロゼウスキー

西洋史学

西洋史学

**研究：Western history, African history, transnational history, economic history, maritime history**

My teaching and research focuses on the relationships between European countries (Britain, France, Germany, and Italy) and the 'overseas' world, especially Africa, in the nineteenth and twentieth centuries. Topics include European colonialism, doctrines of development, political and economic thought in international relations, and social and labour relations. I have recently finished a project studying the role of overseas relations in the building of European nation-states and national economies. Currently I am researching the experiences of workers from the Western Indian Ocean on European steamships.



## 桑木野幸司 教授

くわきの・こうじ

美術史学 文化動態論(アート・メディア論)

西洋美術・建築・庭園史

ルネサンス思想・文学史



**研究：イタリアを中心とする初期近代西欧における、空間とイメージとテキストの創造的關係について**

もともと工学部の建築学科で学んでいたのですが、美しい建物や庭園を見ているうちに、なぜそのような造形が生まれてきたのか、その歴史的経緯に関心が移り、気がつけば文学部に。文・理の壁にこだわらず、空間や視覚芸術の問題を、思想史や文学、メディア論と結び付ける柔軟な視点で、研究を行ってきました。コンピューターやCGがなかった時代に生きた人々が、圧倒的な視覚的想像力を持っていたことに驚く毎日です。イメージを制するものが世界を制する！

## 圀府寺 司 教授

こうでら・つかさ

美術史学 文化動態論(アート・メディア論)

近現代美術史



**研究：ファン・ゴッホ研究、アート・マーケット研究、近代美術史とユダヤなど**

近現代の絵画、彫刻、デザイン、建築、メディア・アート等を担当します。学生には基本的に最も好きな、関心のあるテーマを研究してもらいます。その中で、自分自身の眼で作品を評価し、確実な情報を選別しながら思考、発見し、新しい知見を後世の人々が生かせる形で記述するスキルをしっかりと身につけてもらいます。大学院に進んで研究職や美術館学芸員などの専門職を希望する人には、希望実現のための専門的プログラムを学段階から相談しながら決めていきます。

## 古後奈緒子 准教授

ごご・なおこ

音楽学・演劇学

文化動態論(アート・メディア論)

舞踊史／パフォーマンス・スタディーズ

**研究：ドイツ文化圏の1880年代以降の舞台舞踊と歴史叙述について**

グローバルゼーションの中で、踊る身体をめぐる様々な慣習、伝統が変わりつつあります。バレリーナは白人で40才までに引退するという不文律、女性の振付師が珍しい創作現場、ブラックフェイスの“伝統”をめぐる議論などは、海の向こうの関心事ではもはやありません。今ある価値を受け継ぎながら開いてゆくために、舞踊学の先端を率いる老いや障害をめぐる実践と理論にも学びながら、みなさんと考えてゆきたいと思います。



## 小西真理子 准教授

こにし・まりこ

倫理学

臨床哲学／倫理学



**研究：依存と嗜癖をめぐる現代の諸問題ケアの倫理**

日常を過ごすなかで、(他者や自己の)言葉にならない「苦しみ」や「想い」に出会うことがあると思います。倫理学・臨床哲学の営みは、それに一定の言葉を与え、「この苦しみ／想いは一体何なのか」「それはどのようなことを訴えているのか」「何が必要とされているのか」などに対する答えの一つを、これまでとは別の仕方で導く手助けをしてくれます。「言葉なき声」に耳を傾け、それをあえて学術的に言語化することでこそ見えてくるものについて考えていきたいです。

齋藤理生 教授  
さいとう・まさお

日本文学・国語学

日本近現代文学



**研究：太宰 治・織田作之助を中心とした昭和期の小説の研究**  
小説を読むのに準備は要りません。思い立ったときに書店や図書館に出かけて、書架の間を歩いてみましょう。気になった本があれば手に取って、面白そうだったら読めばいい。読み終えたら、その作家の本をできる限り集めましょう。読めるだけ読んだら、お気に入りの一冊を前にして、どうしてその作品に惹かれるのか、じっくりと考えてみましょう。他のものにはない、その作品ならではの魅力について、まずは自分の言葉で説明を試みる。それが研究の出発点になります。

辛賢 講師  
しん・ひよん

中国哲学

経学思想史／易学哲学史



**研究：儒教經典が各時代にどのように解釈され、受け継がれていったのか、その経学史・哲学史を探る。**  
近代以降、西洋の学術と文化の流入により、私たちはそれまでの儒教の権威の枠組みから自由な価値判断ができるようになりました。しかし、これはそれまで長い間培われてきた儒教の伝統から脱却したことを意味するものではありません。むしろ、20世紀以降、西洋の新しい価値観の流入は、受ける側の伝統的思想の上に変容をもたらし、全く新しいものを生み出すことさえありうるからです。今日の我々において中国古典研究の持つ意味は何か、この問題について考えていきたいと思えます。

佐藤廉也 教授  
さとう・れんや

人文地理学

環境地理学／文化生態学



**研究：人類の環境適応に関する文化生態学的研究  
アフリカ・アジア地域研究**  
アフリカ（熱帯林・サバンナ）、中国内陸部（半乾燥地域）、ラオス（熱帯モンスーン）などでフィールド調査を続けながら、資源利用や環境適応の諸問題について研究しています。地理学ではさまざまな専門分野にまたがる横断的研究が求められ、「ブリッジ・サイエンス」と呼ばれることもあります。地理学を学ぶ上で大事なことは、世界に対する好奇心と、それを科学的に説明したいという欲求です。苦行ではない研究の純粋な楽しさに目覚めてもらうことができれば幸いです。

鈴木暁世 准教授  
すずき・あきよ

比較文学 文化動態論（文学環境論）

日本近代文学／比較文学



**研究：日本近代の文学、日本文学とアイルランド文学（英語圏文学）の相互交渉**  
文学作品は、文化や言語を越えたさまざまな刺激のなかから生み出されます。文学者たちの創作の糧となった想像力の熱い奔流と交感、その理由を問うことは、世界文学の潮流の中にある日本近代文学の姿とその魅力を活写することにつながるでしょう。作品を読み、資料を発掘することによって得られた知見に基づいて、越境する想像力の源泉を問うことが私の研究の大きな原動力です。日本近代文学研究のフィールドは、世界に広がっているのです。

渋谷勝己 教授  
しぶや・かつみ

日本語学 文化動態論（言語生態論）

日本語学



**研究：日本語の変種の記述的研究、日本語の動態研究**  
ことばの使用者は、身につけたことばをフルに活用して会話に参加していますが、同時にそのことばを作り替えていくということも行っているようです。このような作り替えが何世代にもわたって積み重ねられると、古典語と現代語の間にあるような大きな違いとなって現れてきます。話し手も持っていることばとはどのようなものか、それはどのように作り替えられていくのか、言語習得や言語接触、言語使用といった観点から、いっしょに考えてみませんか。

勢田道生 准教授  
せた・みちお

日本文学・国語学

日本中近世文学



**研究：南朝に関する軍記・歴史書を素材とする歴史叙述についての研究**  
私たちの日常は、多くの「ありきたり」なものごとを支えられて成り立っています。では、その「ありきたり」なものは、どのように「在り来た」って現在に至り、そして未来へとつながってゆくのでしょうか。日本古典文学には、過去の日本人の価値観や美意識、世界観が詰まっています。古典に触れることは、現代の「ありきたり」な価値観を相対化し、その由来を問い直す作業でもあります。この点で、古典研究は、すぐれて現代的な作業であると考えています。



**高木千恵** 准教授

たかぎ・ちえ

日本語学

社会言語学／方言学



**研究：ことばの変化（ライフステージとことば、移住とことば、標準語と方言の接触）、地域方言の記録と記述**

日本語の多様性とその変容に関心を持っています。単に「日本語」と言っても、そこには世代差があり、地域差があり、集団差があります。また日常語の中には古いことばと新しいことばのせめぎあいがみられます。日常生活の中で感じることばへの疑問や関心が研究へとつながっていくのが社会言語学という学問分野です。ことばと社会のかかわり、ことばの運用やことばの変化について深く考えてみたいと思っている方は、どうぞ日本語学研究室を訪ねてください。

**滝川幸司** 教授

たきがわ・こうじ

日本文学・国語学

平安文学



**研究：平安時代の和歌・漢詩文、和漢比較文学、儒家歌人伝研究**

文学作品を読んで、教訓的にならなくても、自身の生活の指針としても、どのように受け取っても結構ですが、作品、資料が指し示す内容を歪めてはなりません。それには一字一句をゆるがせにしない、厳密な読解が必要となってきます。そして、そのためには、作品が描かれた時代の社会や制度、思想なども理解しなければなりません。多くの労苦が必要となってきますが、そうしてこそ多様な世界に繋がると考えています。

**高橋照彦** 教授

たかはし・てるひこ

考古学

日本考古学（飛鳥～平安時代）

東アジア考古学



**研究：日本古代あるいはアジア地域の陶磁器（三彩・緑釉陶器）や銭貨、古代墳墓や寺院などの研究**

大学の学生時代のうちに、いろいろなことに挑戦し、その中で「これは面白そう」というものを見つけて、どっぷりとその対象にのめりこむ経験を持ってほしいと思います。考古学は、現地へ行ったり、実物を見たりして、自分なりの発見をするのが楽しさ。発掘現場で汗水たらしながら、みずから掘り出した土器や埴輪は、たった小さな一片であっても、忘れられない体験になるはず。物言わぬはずのモノに歴史を語らせる面白さに出会うことを期待します。

**田口宏二郎** 教授

たぐち・こうじろう

東洋史学

中国史／経済史



**研究：明清期中国の社会経済史・財政史・河北地域史 民国期南京の都市不動産**

我々は複数の時間の流れの中を生きています。10の何乗年以上ものスパンが意味を持つような超長期のものから、コンマ秒の価格変動が利潤を生ずるような時間まで、われわれの生活を律しているのです。これらいくつかの時間体系を越境し、それぞれの中に自らを位置づけ、世界のなりたちをぎりぎりまで考えることを楽しむ。目の前のオプティメーションを淡々とこなし、熱く天下国家を語り、役にも立たない思考実験を反復する。その楽しさを皆さんとぜひ共有したいと思います。

**高安啓介** 教授

たかやす・けいすけ

美学・文芸学

美学／デザイン史／デザイン論



**研究：近代工芸論、近代デザインの歴史、デザイン美学、農と食のデザイン、視覚伝達理論、現代デザイン論**

今日ますます芸術を定義するのが難しいのは、周縁がたえず更新されて輪郭が定まらないためでしょう。それならば、芸術をその周縁から考えるのは有効な方法であるはず。そして、既存の芸術ジャンルに制約されない美学こそ、周縁にある感覚世界に足を踏み入れることができます。美学研究室においてデザイン研究がおこなわれる理由もそこにあります。陶芸・衣服・家具・展示・建築・景観・印刷・映像など、芸術かどうか際どいからこそ面白いのです。

**田中英理** 准教授

たなか・えり

英米文学・英語学

形式意味論



**研究：英語・日本語の文の構成的意味論研究 段階性の関わる言語表現の意味論研究**

言語は情報伝達の道具である、とよく言われますが、言語の伝える「情報」とは何でしょうか。例えば、『試験に通った人がある』と教員が言うと、なぜ学生はそう言われてもいないのに『全員が通ったわけではない』と解釈してぎざぎざするのでしょうか。発された文と解釈の間にはどうしてこのような乖離が生まれるのでしょうか。言語の意味とはどこからどこまでなのでしょう。言語の伝える「情報」の不思議さに興味を持っている学生は、ぜひともに考えましょう。

田中 均 准教授

たなか・ひとし

美学・文芸学

美学／芸術理論／西洋近代美学史



研究：ドイツ・ロマン主義を中心とする芸術理論の歴史  
芸術への「参加」の理論

「よく知っているつもりなのに、ひとに尋ねられるとうまく答えられない」  
時間についてこう述べたのはアウグスティヌスですが、美学の主題である芸術や美にも同じことがあてはまります。  
「芸術」とはモノなのかコトなのか、それとももっと抽象的な存在なのか。「美」とは美しいものの性質か、それとも美しいと思う心の状態なのか。フィクションだと知りながら物語に心動かされるのはなぜか。こうした美学の問題、みなさんはどう考えますか。

田野村 忠温 教授

たのむら・ただはる

日本語学 文化動態論（言語生態論）

言語学／日本語学



研究：主に日本語の文法・意味・音韻などの諸現象の分析

言語は我々の関心をそそる疑問の宝庫です。言語はいつどうやって生まれたのか？人間は言語を使わずに思考できるのか？話す言語が違えば思考も異なるのか？ことばの意味とは何なのか？日本語にはどんな特徴があるのか？……と、挙げていけばきりがありません。ことばや日本語の問題に関心がある人にとって、日本語学は興味の尽きない学問分野です。若い皆さんのフレッシュな感覚と着想で日本語の研究に新たなページを付け加えていただけることを期待しています。

鄭 聖汝 講師

ちよん・そんよう

留学生専門教育

日韓対照言語学／言語類型論



研究：自動詞・他動詞・使役・受身など他動性をめぐる  
形式と意味の対応関係に関する研究

他動性の現れには二つの理論的仮説があります。一つは、Hopper&Thompson（1980）が提案した普遍性の仮説。もう一つは、池上（1981）によって主張された類型論的仮説です。後者によれば、英語はスル型、日本語はナル型とされ、スル型の「人間中心」の見方をとする言語では他動詞表現が好まれ、ナル型の「状況中心」の見方をとする言語では自動詞表現が好まれます。私の研究では、実証的手法を用いて、矛盾しているように見える普遍性と類型論的仮説の関係を明らかにすることを目指しています。（2022年3月退職予定）

堤 一昭 教授

つつみ・かずあき

文化動態論（共生文明論）

東洋史学



研究：モンゴル時代（13～14世紀）の中国史、中国石刻資料  
世界史教育、東洋学史

約700年前の“昔”を研究していますが、それが“今”にどうつながるかも気になっています。歴史の勉強には現代世界・社会への関心と、複数の価値観につき合う思考の柔軟性が必要だと、強く感じるようになりました。さらに、現代を理解して将来を展望するために不可欠な、過去についての深い知識をどう伝えていけばいいのか、世界史の教育はどうあるべきか、ということも考えています。阪大図書館の東洋学コレクション「石瀆文庫」の調査研究も手がけています。

堤 研二 教授

つつみ・けんじ

人文地理学 文化動態論（共生文明論）

人文地理学／社会経済地理学



研究：地域社会変動、人口減少社会、地域生活機能  
地域連携教育、地域分析

人文地理学では、地域・空間・環境などに関するさまざまな事象を課題や対象とすることができます。実証的な地域分析もできれば、思想や感性に関わる空間-人間関係を考察することも可能です。対象も方法も多様で、色々な可能性を広げてくれる研究分野です。日本のことも海外のことも、過去のことも未来のことも、空間で展開する事柄の万象を取り上げることのできる、大きな舞台が人文地理学であるといえます。自分を試し、伸ばしてくれる分野である、と思います。

堂山 英次郎 教授

どうやま・えいじろう

インド哲学

インド学（ヴェーダ文献研究）

インド・イラン学／歴史言語学



研究：姉妹言語の古インド語と古イラン語諸文献に基づく歴史  
言語研究、およびそれらの神話・思想の研究

「鷲が二羽、一つのくびきに連れ合って、同じ木を取り囲んでいる。その一方はピッパラ（インド菩提樹）の甘い実を食べているが、もう一方は食べることなく、じっと眺めている」——インド最古の聖典『リグヴェーダ』の一節です。何を意味するのでしょうか？ 答えは幾つあってもいいのです。古文獻の解説は学問的な答えを求めるだけでなく、読む者の内面を豊かにする作業でもあります。イン哲の甘い実を食べるのか、それともただ眺めるだけなのか、それはあなた次第です。

## 中尾 薫 准教授

なかお・かおる

音楽学・演劇学

演劇学／芸能史



### 研究：伝統演劇研究、能楽研究

能の研究をしています。能は、長い歴史を生き残っただけあって、それぞれの時代の生活様式や思想、社会の潮流などを反映して、柔軟に変化している部分があり、それが見えてくると、ひとつは楽しみに感じています。ここ数年変化の大きかった明治・大正期に目がいていましたが、今年こそは、もともと専門にしていた江戸時代に戻りたいです。演劇研究は、テキスト分析から、演出、舞台美術、舞踊、音楽、歴史、政治など、さまざまな視点と絡みあって面白いです。

## 中嶋 泉 准教授

なかじま・いずみ

日本学

現代美術／ジェンダー、フェミニズム理論

### 研究：近現代美術におけるジェンダー構造の分析および女性美術家の調査、研究

第二次世界大戦後の美術における女性作家の芸術的実践について調査をしてきました。社会が大きく変わりジェンダー秩序が変化するとき、視覚文化はどのように変化するのか。あるいは視覚文化が変えるものとは何か。最近では、こうした問いを現代文化における写真、映像、広告、ファッションなどを対象に考える機会も増えています。一度視覚文化の分析の面白さを知れば、「普通に」身の回りのものを見ることはできなくなるでしょう。

## 永田 靖 教授

ながた・やすし

音楽学・演劇学

文化動態論（アート・メディア論）

演劇学／20世紀演劇史



### 研究：ロシア・アヴァンギャルド演劇の研究

日本を含む現代アジア演劇のインターカルチャリズムの研究  
世界中にはさまざまな演劇があり、実に多様な姿を見せています。一見何も共通点がないように見えますが、実は劇の作り方、演じ方や観客の楽しみ方まで、かなり約束事に則っていたり、互いに関係し合っていたりします。演劇研究の醍醐味は、このような多様な演劇の現象を大づかみで理解しながら、それぞれの作品に固有の価値や影響関係を見いだして行くことにあります。そのための基礎になるのは、何と言っても、繰り返し劇場に行って多くの作品を見ることです。

## 中村 征樹 准教授

なかむら・まさき

哲学・思想文化学

科学技術社会論／科学技術史

科学技術コミュニケーション



### 研究：科学技術をめぐる倫理的・社会的問題についての研究 市民の科学技術への関与に関する研究

新型コロナウイルス感染症は、専門的知見を社会がどのように受け止めればいいのか、専門家と政治はどのような関係を結ぶべきかなど、多くの問題を提起しました。また近年、AIの発展が私たちの生活に及ぼす影響についても多くの懸念が生じています。現代社会において無視することのできない科学技術をめぐる問題を考えるにあたって、人文・社会科学からのアプローチの重要性はこれまでに高く高まっています。そのような問題について一緒に考えてみませんか。

## 中谷 惣 准教授

なかや・そう

西洋史学

ヨーロッパ中世史



### 研究：イタリアを中心に、都市社会史、法実践の歴史、金貸しの歴史など

イタリアの小さな町の文書館に所蔵されている、中世の法廷や議会の記録を読んでいます。そこには住民からの様々な訴え、たとえば貸した金を返せ、司祭から暴力を受けた、貧しいので刑罰を軽くしてほしい、公道の整備が必要だ、税金を安くしろ、などが記されています。こうした市井の人びとによる都市国家への訴えを通じて、中世に特有の、しかし近代以降にも通じる要素をもつ、国家、正義、公共善が立ち現われてくる過程を研究しています。

## 名和 隆乾 講師

なわ・りゅうけん

インド哲学

インド学／仏教学



### 研究：インド初期仏教文献学

経験世界の全ては移ろいゆく無常なもの。故に、何処にも安心出来る場所はない。無常である故に全ては自己ならざるものであり、私という存在もまた例外ではない、と見るのが仏教の基本的な世界観です。その観を徹底すべく修行する僧らは時に我々の常識的理解を逸し、死を目前に、最後に一目、仏陀に会わんと望む僧に対してさえ、仏陀が「腐臭のするこの身を有り難がるとは何か」と叱責したとの逸話がある程です。常識的な「慈悲」とは程遠い世界がここにあります。

西井 奨 講師  
にしい・しょう

美学・文芸学

文芸学／西洋古典学／ラテン文学



研究：ラテン文学作品におけるギリシア・ローマ神話の表象  
帝政ローマにおけるラテン詩人の平和思想

自分が学生だった頃は、現代社会の諸問題と一定の距離を置いていたからこそ文学テキストを研究対象とする道を志していたように思います。しかしここ数年は、ギリシア・ローマの古典文学作品を研究することがそのまま現代社会の諸問題の解決への糸口に繋げることができないだろうかということを探求しております。そのような意識から改めてギリシア・ローマの古典文学作品に目を通していくと、また新たな気づきを多く得ることができます。

野村 玄 准教授  
のむら・げん

日本史学

日本近世史



研究：天皇の地位・権能についての歴史学的研究

いまフェイクニュースへの懸念が高まっています。また世間では、事の実態や重大性よりも、非論理的で声の大きな人の主張のほうが注目され、考慮される傾向にあります。この傾向は、残念ながら学界にもあります。これからの社会人には、自分の目と耳で見聴きし、その現場や立場に立ってみて、事の実態や性格を判断し、自分のなすべき事や主張・解決策を論理的に示す能力がさらに求められます。その能力の養成に、文学部での学問の体験は、きっと役立つと思います。

Paul AS Harvey 外国人教師  
ポール・ハーヴィー

英米文学・英語学

English Literature

英文学



研究：English Poetry 英語詩

My work has focussed on education for the last ten years, in particular on poetry, both creative writing work with students and reading poetry in class. I have translated poetry in various fields. I have published a wide range of books under the name Stean Anthony. This work continues.

Matthew Burdelski 教授  
マシュー・バーデルスキー

日本語学

応用日本語学



研究：語用論、会話分析、言語社会化、言語とジェンダー

日本語をより深く理解するために、言語と文化の相互関係も理解する必要があると思われます。文化というのは会話的相互行為で埋め出される発話行為と言語・非言語的リソースという社会的実践であると考えられます。授業では、日本語話者（非母語話者、バイリンガルも含む）がどのようなリソースを使用して実践を行うのか、またどのようにアイデンティティを形成する（または形成されるか）のか、という問いを様々な言語データの分析を通して一緒に考察していきます。

橋爪節也 教授  
はしづめ・せつや

美術史学

日本近世近代絵画史



研究：文人画ならびに大阪を中心とする近世近代絵画史

感染症のパンデミックによって、これからの美術も展覧会も様々な問題に直面している。個人的には、その状況下、「なにわの企業が集めた絵画の物語」展監修や阪大博物館での大阪万博50年展など携わったが、今後も予期せぬ問題が発生する可能性がある。しかし美術研究の第一は自分の眼で作品の価値を見抜く力の育成である。美術館博物館のあり方を問うミュージオロジーも意識して作品に接する機会を増やし、ダイナミックに美術の世界を体感してほしい。

橋本順光 教授  
はしもと・よりみつ

比較文学

(日英) 比較文学／英国地域研究



研究：日英におけるジャポニスム・黄禍論・旅行記の研究

道でぶつかった人と思われぬ形で再会し、最悪だった印象が徐々に好意へと変わる。『はいからさんが通る』など、1970年代の漫画によくある展開です。起源はおそらく『ジェイン・エア』でしょう。原作を改変した1943年版の映画がきっかけと思われます。一方、ショーの『ビッグマリオン』でも衝突した二人が再会しますが、言葉遣いが変わったため気づきません。まさかこれはあの時の？と、退屈だった勉強と意外な形で再会していることに驚く、そんな授業と研究を目指しています。

**伴瀬明美** 准教授

ばんせ・あけみ

**日本史学**

日本中世史



**研究：中世天皇家の研究、東アジア諸王室儀礼を通じた比較史研究**

高校時代、注釈付き『源氏物語』を読んで、物語自体ではなく注釈（官職名や宮廷行事の解説）の方に夢中になったのが歴史学へ導かれるきっかけでした。現在は、政治や経済のあり方が大きく転換していく平安時代から鎌倉時代に天皇家がどのように姿を変えていったかに関心を持っています。日本には同時代人が作成した文書や日記をはじめ多種多様な史料が伝存しています。それらを丹念に解読し立論していく楽しさと厳しさを学生の皆さんと共にしたいと思っています。

**福永伸哉** 教授

ふくなが・しんや

**考古学**

日本考古学／比較考古学



**研究：弥生時代、古墳時代を中心とする墓制、社会変化  
青銅器、国家形成論など**

はじめて発掘調査に参加した大学3年生の冬。1400年前の古墳から金の耳飾りを掘り出したときの感動は今も忘れられません。名もない人々が使った土器、記録に残っていない村の跡、権力者の墓に納められた数々の宝器。長い年月、地中に埋まっていた遺跡や遺物を発掘するとき、昔の人々と時間を超えて直接向き合っているような、不思議な気持ちになります。この臨場感こそが考古学の魅力。そして、発掘現場で苦楽をともにした仲間も、生涯の友人としてみなさんの人生の宝物になるでしょう。

**藤岡 穰** 教授

ふじおか・ゆたか

**美術史学**

東洋美術史／仏教美術史



**研究：彫刻を中心とした東アジアの仏教美術に関する研究  
蛍光X線分析、AIによる画像解析などの新手法を駆使**

運慶、快慶が活躍した鎌倉時代の仏像の研究に始まり、その後、時代は飛鳥時代まで遡り、地域は朝鮮半島から中国、東南アジアへと関心を広げて研究を行ってきました。近年は東アジアの金銅仏について、科学的な分析を踏まえ、技法、様式から制作地や時代を再検討する研究を進めており、さらに新たに人工知能による仏像の顔の画像分析にも取り組んでいます。美術史としての仏像研究は、仏像を通して人と信仰、そして芸術と技術の歴史を探ることを目的としています。

**藤川隆男** 教授

ふじがわ・たかお

**西洋史学** 文化動態論（共生文明論）

西洋史学／オーストラリア史



**研究：オーストラリア史、デジタル・ヒストリー、移民史、  
パブリック・ヒストリー、スポーツ史、白人性史**

現在は、オーストラリアのパブリック・ミーティングを対象に、デジタル・ヒストリーの手法を用いて、歴史的に世論形成の構造を解明する研究を行っています。同時に、オーストラリアのカントリー・フットボールを対象とするスポーツ史の研究を進め、地方の歴史博物館の調査をまとめるつもりです。2016年には『妖獣バニヤップの歴史』でオーストラリア先住民の歴史を考えようとなりました。学生の皆さんにも幅広く、歴史のテーマを考えてほしいと思います。

**舟場保之** 教授

ふなば・やすゆき

**哲学・思想文化学**

ドイツの近代／現代哲学



**研究：18世紀ドイツの哲学者カントおよび現代ドイツの哲学者  
ハーバーマス+アーレント、バトラーなど**

現在、普遍主義や原理原則主義の評判は芳しくありませんが、これらが一度たりとも、理念としてすら採用されたことのない共同体においては、いまなお重要な視点を提供しうることには間違いはありません。200年以上も前に生きていたカントの考えと、現代を生きるハーバーマスの考え、またこれらに加えてアーレントやバトラーの考えを参照しつつ、共同体の強固なおきてにいかに対抗できるか、その方途を探索してゆきたいと考えています。

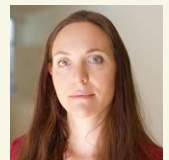
**Nadin Heé** 教授

ナディン・ヘー

**西洋史学**

グローバル・ヒストリー

環境史／帝国史／科学技術史



**研究：環境・海洋史の視座から見た世界史**

**間帝國的視座から見たグローバル・ヒストリー**

歴史を動かす国際的な環境問題、国境を越える移民の移動や世界的流行病などは、国民国家単位のアプローチでは十分に把握できません。グローバル・ヒストリーはそうした諸問題の系譜やメカニズムを理解することを可能にする学問です。地球規模の問題と市民の日常生活レベルでの問題との関連や非関連を吟味することで、多角的に物事を考えられるようにしたいと思っています。

堀江 剛 教授

ほりえ・つよし

倫理学

臨床哲学／倫理学



研究：近代西洋哲学（特にスピノザ）、社会システム理論、対話の哲学（特にソクラテック・ダイアローグ）

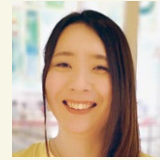
近・現代の社会をどのように捉えていけばよいのかについて、システム理論のコミュニケーション概念を基軸に考え続けています。その中には「倫理」も含まれますが、人々が「関係し合うさまざまな形」という意味での、より幅広い社会の現象を問題にすることが大切だと考えます。また、最近「組織」というものに興味を持っていて、組織と哲学を結びつける臨床哲学の可能性を探ってみたいと思っています。

三木那由他 講師

みき・なゆた

哲学・思想文化学

分析哲学／言語哲学



研究：言語やコミュニケーションについて、英語圏の哲学者たちの議論を参照しつつ研究しています

ひょっとしたらあまりなじみがないかもしれませんが、実は20世紀初頭に分析哲学という流派が起こり、だんだんと英語圏の国々に広まって、いまではアメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなどで哲学が大いに盛んに研究されています。言語、科学、真理、存在、知識など、いろいろなテーマが論じられています。分析哲学におけるそうした議論に関心を持たれたかたは、ぜひ一緒に勉強していきましょう。

ほんまなほ 教授

ほんま・なほ

倫理学

倫理学／臨床哲学



研究：哲学プラクティス、こどもの哲学、フェミニズム哲学、社会の臨床と対話に関する実践と研究

じっとしていられない、うまくことばにならない、感情がささばる、ひとにいけない…などの悩みをもちながら、哲学や倫理学から排除されたり、不適格とされてきたひとたちが、安心してたがいの声に耳を澄まし、ケアしながら、ともに考えることのできる場づくりとそのための研究をしています。大学が能力主義と競争から自由になり、たがいに学びあう場となるために、フェミニズムからクィア研究まで、わたしたちの生に関わる実践研究にも取り組んでいます。

見瀬 悠 講師

みせ・はるか

西洋史学

フランス近世史



研究：近世フランス王国・植民地における外国人と法制度 王権の外国人政策、国籍概念の生成

外国にルーツをもつ人々といかに共生するかという問題は、現代社会の大きな課題のひとつです。近世のフランス王国でも、戦争の勃発、政治宗教的な迫害、国際商業の発展、旅行文化の誕生を背景として、外国人の到来と定着がみられました。彼らを統合ないし抑圧・差別する法・制度や言説がどのように形成され展開したのかを観察することで、歴史学の立場から現代社会が直面する課題を考察するための素材を提供できると考えています。

松井 太 教授

まつい・だい

東洋史学

中央アジア史／モンゴル時代史



研究：モンゴル時代前後の中央アジアの社会経済史・税役制度／古代トルコ語・モンゴル語文書の歴史文献学的研究

中央アジア地域で発見・発掘された古代トルコ語・モンゴル語の文書史料を利用して当該地域の歴史を研究しています。一つ一つの古文書は、長い・広い歴史のごく限られた一部を切り取ったものでしかありませんが、編纂記録にはみえないような個人・社会の実像をうかがうことができます。それらの微細な発見を大きな歴史の流れに位置づけていくためには、幅広い知識と、柔軟で多面的な構想力が必要です。「しんどい」分野ですが、学生の皆さんが挑戦してくれることを期待しています。

三谷研爾 教授

みたに・けんじ

ドイツ文学 文化動態論（文学環境論）

ドイツ・オーストリア文学／中欧文化論



研究：19世紀末～20世紀初頭のブラハ・ドイツ人社会とその文化／中欧の都市文学とその歴史

カフカの文学テキストを入口にして、彼とその周囲のユダヤ系ドイツ知識人たちの活動、舞台となった都市ブラハの政治的・社会的状況、19世紀末から20世紀初頭のハプスブルク帝国の文化・芸術環境へと関心を広げてきました。他方、日本でもっとも早くカフカに接した中島敦を追いかけるうち、満洲・朝鮮・台湾にまたがる日本語文学の世界も、視野に入ってきています。まさに「考えることは（境界を）踏み越えることである」（E・プロッホ）です。

**三宅知宏** 教授

みやけ・ともひろ

**日本語学**

日本語学／言語学



**研究：普遍的な一般言語研究を視野に入れた、個別言語としての日本語の研究**

例えば、「ここは、飛行機（ ）飛び立つところだ。」の（ ）内には、「が」「の」の両方が入るのに対し、「これから、飛行機（ ）飛び立つところだ。」の（ ）内には、「が」は入っても、「の」は入らないということを、日本語を母語とする人なら「知っている」はずですが、しかしそれがなぜかすぐに説明できるのでしょうか。「知らない」ことを「知る」ようになるのではなく、「無意識に知っている」ことを「意識的に知る」ようになるという学問分野の面白さを紹介したいと思っています。

**望月太郎** 教授

もちづき・たろう

**哲学・思想文化学**

西洋哲学／倫理学／哲学教育



**研究：発展途上国における教育開発のための哲学プラクティス**

日本－ASEAN グローバル哲学研究交流ラボラトリー（日本：大阪大学／タイ：チュラロンコン大学）を設置、これを拠点として東南アジアの発展途上国（カンボジア、ミャンマー）における教育開発のために哲学プラクティスをアウトリーチすることを研究と教育の課題としています。昨年度は、COVID-19パンデミックの影響で、現地で活動することができませんでしたが、オンラインで哲学ワークショップを開催するなど、新時代の取り組みを始めています。将来、国際機関やNGOで働きたい人、海外で活躍したい人は、ぜひ授業に参加してください。

**森本道孝** 准教授

もりもと・みちたか

**英米文学・英語学**

アメリカ文学／アメリカ演劇



**研究：アメリカ人劇作家サム・シェパードの作品研究**

**「家族観」から見る現代アメリカ演劇研究**

学部生のときの演習で読んだサム・シェパードの演劇作品に魅了されて以来、アメリカ演劇に関する研究を進めてきています。「家族」、「アンチエイジング」など様々なキーワードからアメリカ文学の世界を読み解いています。また、演劇・漫才・ライブなどジャンルを問わず舞台上で演じられるものに対してもともと持っていた関心と、研究が結びついていることに喜びを感じています。皆さんにもその魅力を少しでも伝えることができれば、と思っています。

**安岡健一** 准教授

やすおか・けんいち

**日本学**

日本近現代史



**研究：戦時期から現代にかけての地域社会史研究**

**（オーラルヒストリー、自分史、人の移動と共生）**

農業・農村に関する研究からはじまり、いろいろな地域をたずねて人に会ってきました。その過程で、現代と地続きの歴史をいかに記録し、誰が叙述するかということへの関心を強くしています。歴史は過ぎ去った昔のことだけではなく、今を生きる自分たちにつながっています。新しい時代を歴史として描く試みを、次世代の皆さんの関心に向き合いながら創り上げていきたいと思っています。

**山上浩嗣** 教授

やまじょう・ひろつぐ

**フランス文学**

フランス文学・思想



**研究：パスカルとモンテーニュおよびその同時代の哲学・宗教思想の研究**

大学に入って何気なく選択したフランス語に惹かれ、当時流行のフランス現代思想に興味をもったことから、思いがけず大学院に進学し、5年以上のバリ留学を経て、大学教員になりました。大学生のころ、こんな将来が待っているとは夢にも思いませんでした。今はフランス17世紀の思想家パスカルと、彼に多大な影響を与えたモンテーニュの思想について研究しています。古典を原文で読み解くことの楽しさと喜びを日々かみしめています。

**山田雄三** 教授

やまだ・ゆうぞう

**英米文学・英語学**

英米文学／文化理論研究



**研究：英国初期近代の大衆演劇フォームの研究および**

**Raymond Williamsによる文化ダイナミクス理論の研究**

「文化」ということばは、価値を帯びています。どんなマニアックな趣味でも、「〇〇文化」とつければかっこよく思えてしまいます。そうした現象を考察するカルチュラル・スタディーズに、私は関心があります。今日「カルスタ」と呼ばれ、マンガやラップなどを対象として社会学的手法で研究されることも多いのですが、私は、それが1950年代後半にイギリスで起きた点に注目し、「政治＝文化」運動として再評価しています。

## 湯浅邦弘 教授

ゆあさ・くにひろ

### 中国哲学

中国思想史／日本漢学



**研究：中国新出土文献の研究、諸子百家の研究、懐徳堂研究**  
令和2年（2020）の春から夏、三ヵ月間で世界を一周したと言っても信じてはもらえないだろう。世界の主要都市がロックダウンされる中、世界旅行は到底無理であった。これは、西村天因『欧米遊覧記』に導かれた私のバーチャル旅行である。明治43年（1910）、漢学者が見た西洋世界とはどのようなものだったのか。それにより、近代日本が再構築しようとしていた学問体系が見えてくるように思う。漢文や漢学をこうした観点から見直すのも興味深い作業である。

## 林 暁光 准教授

りん・ぎょうこう

### 中国文学

漢魏六朝文学／中国中世文化史  
日中古代文学交流



**研究：前2世紀～6世紀の中国文学のテキストの生成と変貌、および中世貴族文学の研究**

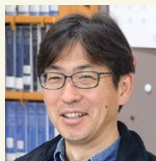
千数百年前の文学なんて、あまりにも遠く、現代人とは無関係だと思いませんか。しかし、「令和」という年号が『万葉集』や『文選』といった書物に由来するように、古い文学も時を超えて我々の人生に甦り、身近なものとなりうのです。一個の短い人生にも、実は数千年にもわたる文明史が凝縮されています。昔の文学はどのような社会環境から生じて、どのような形で伝えられてきたのでしょうか。それを吟味し、考察することは、我々自身を知るためにも有意義でしょう。

## 吉田耕太郎 准教授

よしだ・こうたろう

### ドイツ文学

ドイツ文化史／ドイツ文学



**研究：18世紀ドイツ語圏の印刷メディア、最近では児童文学のはじまりについて調べています。**

ドイツ文学と聞いて、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか。グリム童話やゲーテの作品を読んだことのある人、ヘッセやカフカといった作家の名前を聞いたことのある人、東西ドイツの分割と統一といった歴史が思い浮かぶ人、バッハやベートーベンといった作曲家を連想した人もいることでしょう。ドイツ文学を狭く理解する必要はありません。みなさんが抱くドイツのイメージを交換する場を提供したいと思っています。

## 輪島裕介 教授

わじま・ゆうすけ

### 音楽学・演劇学

ポピュラー音楽研究／民族音楽学



**研究：近代日本大衆音楽史、非西洋地域における音楽の近代化／西洋化に関する批判的研究**

世界中どこでもビートルズやMJやニルヴァーナが聞こえてきます。また、アジアでもアフリカでも南米でも、レゲエやヒップホップやハウスの影響を受けたローカルなダンス音楽が続々とあらわれています。一方、「ヒップホップはゲットー黒人の魂」「演歌は日本人の心」といったように、音楽と特定の人々の特権的で排他的な結合もしばしば主張されます。ある音楽が文化的／地理的な境界をつくったり壊したり超えたりするさまざまな仕方について、あれこれ考えています。

## 嘉目道人 准教授

よしめ・みちひと

### 哲学・思想文化学

近代ドイツ哲学／コミュニケーションの哲学



**研究：フィヒテおよびカントの哲学  
超越論的語用論および討議倫理学**

言語に媒介された文化の相対性・多様性は、誰も認めるところですが、しかし言語文化が多様であるという事実と、それらが共生すべきであるという規範はイコールではありません。その規範を正当化するためには、やはり共通の基盤が必要で、それは討議という制度だろうと考えます。この考えに基づいて、討議、ひいてはコミュニケーション一般が成立するための条件や、そこで前提となる真理や道徳などを、カントやフィヒテの哲学とも関連させながら研究しています。友好的かつ相互批判的な討議を行いましょ。

## 渡邊英理 准教授

わたなべ・えり

### 日本文学・国語学

近現代日本語文学



**研究：（再）開発の視座からの「戦後文学」研究  
（中上健次、崎山多美、干刈あがた）**

文学の言葉を読むことは、移動をせずに別の時間と空間を生きたこと、その場を離れずに動くことです。最も手軽な「その場での旅」のひとつが、読むことだと思います。「旅」における他なるものとの出会い、それは時に自らの存在基盤を揺るがし、感性や知性のあり方を変える、つまり新しい価値が創造される瞬間をもたらします。「規格外」の生や小さな声をも掬いとり、それらを救いとる言語として文学を読み、価値の創造を体験できればと思っています。



**渡辺浩司** 准教授

わたなべ・こうじ

美学・文芸学

文芸学／西洋古典学

**研究：古代ギリシア・ローマの詩学と弁論術****および弁論術から美学への変容**

詩学と弁論術を研究しています。日本ではあまり聞いたことがない学問かもしれませんが、西洋においては古代ギリシア・ローマからの長い伝統を持っています。内容も、悲劇や喜劇、叙事詩についての考察や、修辞や文章構成法、記憶術、崇高論など多岐にわたっています。意外に面白いです。

**北泊謙太郎** 助教

きたどまり・けんたろう

日本史学

日本近現代史／軍事社会史

**研究：日本近代の軍隊・戦争と地域社会の研究**

新型コロナの感染拡大は、歴史学の語り方においても大きな見直しを迫っているように思われます。従来の日本史学では、感染症流行や地震・火災・風水害などの〈災害〉は一時的で逸脱した「非常時」の歴史事象として語られてきましたが、今後はこのような〈災害〉が、同時代や後世の国家・社会にどのような影響を与えたかという視角もますます重要になってくるでしょう。このように、絶えず更新されていく歴史学のダイナミズムを皆さんにも味わってほしいと思います。

**尹芷汐** 助教

いん・しせき

日本文学・国語学

日本近現代文学／日中比較文学

**研究：日本の社会派推理小説、およびアジア諸地域における日本文学の翻訳**

推理小説はエンターテインメントとして捉えられがちですが、読み方によっては、社会の仕組みや人間の深層を表出し、奥深い知的世界に導いてくれるものでもあります。例えば松本清張の小説は、高度経済成長期の日本社会をリアルに描いていますが、同時にそれはアジア諸地域にも共有できる問題であったため、様々な言語に翻訳され、広く読まれました。文学作品は、私たちが自分の社会、そして自分と他者との関係を知る手がかりになるのです。

**西條玲奈** 助教

さいじょう・れいな

哲学・思想文化学

分析哲学／形而上学

**研究：分析形而上学における性質の存在論とその応用****分析フェミニスト哲学、ロボット倫理学**

哲学の中でも形而上学とは、何がどのように存在するかを問う分野です。たとえば「女性」という性質は一体何を表すのでしょうか。個々人とは独立に女性という性質そのものが存在するのか、もし存在しないなら何を根拠に私は自分を女性だと主張するのか。そしてその根拠は自分以外のさまざまな女性にとっても同じ役割を果たすのか。性質の存在という抽象的な問いが社会的属性に応用される時、世界や自己を深く考える契機となることを体験してほしいと思います。

**上田直弥** 助教

うえだ・なおや

考古学 埋蔵文化財調査室

日本考古学

**研究：古墳時代における葬送儀礼の研究**

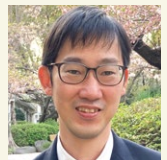
発掘調査で地中から掘り出された土器のかけら、青銅の鏡、鉄の武器、棺や石室などはすべて、その時はじめて世に存在を知られるものです。教科書にも載っていない、誰もまだ見たことのない歴史資料に、一番に触れることができるのが、考古学の醍醐味です。実はみなさんが勉強（など）をしているこの豊中キャンパスの下にも、「待兼山遺跡」という遺跡が眠っています。身近な遺跡から広がる考古学の面白さに、是非触れてみてください。

**齊藤茂雄** 助教

さいとう・しげお

東洋史学

内陸アジア史／古代トルコ遊牧民族史

**研究：唐北辺におけるトルコ系遊牧民の研究、古代トルコ語碑文・唐代石刻碑文研究**

私はモンゴル高原から中国北辺へと政変などで移住した遊牧民の活動を研究しています。当時の唐王朝は、騎馬軍事に優れた遊牧民を支配して軍事力としていました。では、遊牧民たちは唐の支配をどのように「利用」していたのか、そこが私の問題関心です。支配される側の遊牧民は確かに「弱い」立場にありますが、支配を利用して生活を成り立たせる「強かさ」を持っていた人々だと思います。私はその強かさに魅力を感じ研究を続けているのです。

助教 すーひ

鈴木聖子 助教

すずき・せいこ

音楽学・演劇学

近現代日本音楽史／文化資源学



研究：音・音楽の制度化・文化財化・文化資源化の歴史研究  
開国後の日本政府は、軍楽隊・教育・宮中等の公的機関に、「西洋音楽」を導入する方針を取りました。この「西洋音楽」を鏡として、「日本音楽」の概念も誕生しました。では、現在の「日本音楽」を考えるために、国の無形文化財に指定された音楽と、されていない音楽に、並行して着目してみましょう。これらのあいだに、誰が/いつ/どのように/なぜ/線を引いたのでしょうか。この問いは、「音」と「音楽」のあいだについても考えさせてくれます。

東条佳奈 助教

とうじょう・かな

日本語学

現代日本語学



研究：名詞の助数詞的用法についての研究

あるものの数え方が分からないとき、人はどのようにそれを数えるのだろうか、と疑問に思ったことが、私が助数詞に興味をもったきっかけでした。普段は意識せずに使っている「ことば」ですが、出発点は些細な疑問であっても、実際に使用された文脈から大量に集めて分類してみると、思わぬ発見と出会えることがあります。ことばに注目して、それがどのように使われるのかを探り、特徴や変化を捉えて傾向を見出していくことが、現代語の研究の面白さだと感じています。

高垣里衣 助教

たかがき・りえ

西洋史学

経済史・貿易史／海域史



研究：近世におけるバスク商人による貿易についての研究

スペインとフランスに跨る地域であるバスクを対象に、商人による貿易活動や、港湾都市の歴史的役割について研究をしています。バスクは、現在でも独立問題を抱える地域ですが、その動きは何世紀も前から続いています。そうした経緯を持つ地域を研究対象とすることで、「国家」と「地域」の関係、そして、より外界にある「世界」と貿易を通じて繋がろうとする「地域」や「港湾都市」、それらが持つネットワークのあり方や機能について考えています。

西井麻里奈 助教

にしい・まりな

日本学

現代史／都市史



研究：戦災都市の復興と戦争の記憶に関する研究

都市は流動的で、表層を争い、上書きされたものが不断に現実をつくりだす空間です。私は原爆被害地である広島をフィールドに、復興に関する人びとの語りから都市の歴史・記憶を研究してきました。激しく塗り替わり続ける空間に、人びとの生きた痕跡はどのように残っており、それをいかに読み解くことができるのでしょうか。人の語りや、読み継がれてきたテキスト、紐解かれていない資料など、災厄によって破壊された都市の中に過去のかげらを探し、歴史をとらえる方法について考えています。

陳竺慧 助教

ちん・じくけい

中国文学

中国古典文学／清代詞学



研究：清代の詞と詞論

江戸時代の詞に見る清代詞学の影響

中国古典文学の「詞」という韻文形式は日本の学生にとって馴染みが薄いかもしれませんが、中国語圏では「詩」と並べて「詩詞」と呼ばれるほどポピュラーな文学ジャンルです。「詞」は楽曲のメロディーに合わせて言葉をうめていくことで作るもので、いわば千年前のポップ・ミュージックです。そのため、「詞」は皆さんが高校まで真面目に勉強してきた漢文・漢詩と毛色が異なり、もし興味があればぜひ一緒にその独特な美を楽しんでください。

平光文乃 助教

ひらみつ・あやの

フランス文学

フランス文学・文化



研究：マルセル・ブルーストおよびその同時代の

文学・文化研究

社会学で学部を卒業、一般企業に就職した後にブルーストに出会いました。よく晴れた夏の日、閉じた部屋の中に差し込む日の光から、夏の光景の総体を享受する。そんな一節に惹かれ、研究を始めた気がします。その作品を「部屋」というテーマで深く読み込む一方、同時代の文化的背景を紐解き、テキストを外に開いていく、という両方向のアプローチを心がけてきました。みなさんにも、耽溺したい、開きたいと思える作品の一節に出会うことが、あるのではないのでしょうか？

**Mohammad Moinuddin** 助教

モハンマド・モインウッディン

国際交流センター

近現代日本文学／グローバル核文学  
国際交流**研究：近現代日本文学を歴史的な文脈から読む****核・原爆に関わる海外の文学、日印交流史、国際交流**

文学作品は永久に、そこに描かれた社会や文化を読者に想像させ理解させる大変重要な媒体になると言われています。新型コロナウイルスの影響で人間の移動が制限されている現在、換言すれば、人間が直接交流できない時期に国際交流の媒体としての読み物の影響範囲や社会の動きについて検討していきたいと思っています。

**横田 洋** 助教

よこた・ひろし

音楽学・演劇学 総合学術博物館

近代日本演劇史／日本映画史

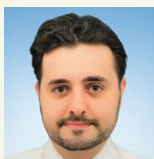
**研究：映画と演劇の相互の関係、その歴史についての研究**

大阪大学の博物館では、大学の最新の研究成果を展覧会の形式で紹介しています。最新の研究成果といっても、歴史や美術、古生物など展示映える学問分野がある一方、一般には展示に向かないと思われる分野もあります。研究成果を論文ではなく、展覧会の形式に変換することで、その研究が抱える新たな課題が見えてくることもあります。

**Felipe Motta** 特任助教

フェリッペ・モッタ

国際交流センター

日本学／海外日本移民研究  
マイグレーション・スタディーズ**研究：海外日本移民史、主に日系ブラジル移民の歴史と文化  
ブラジルにおける日系知識人層の活動、コロナ文学**

〈越境〉がますます注目される現在、日本研究でも〈移動〉が重要なキーワードになっています。私は「思想」と「歴史」を軸に、日系ブラジル移民研究を主題にしてみました。最近、日本社会におけるマイノリティーと在日外国人研究も視野に入れています。担当する科目では、マイグレーション・スタディーズという分野を意識しつつ、「日本を出た人びと、日本に入った人びと」に注目し、近現代日本史における〈移動〉の諸相を皆さんと考えてみたいと思います。

**好井千代** 助教

よしい・ちよ

英米文学・英語学

アメリカ文学

**研究：生命科学の知見を取り入れた文理融合の  
アメリカ文学研究**

文学を「科学のこぼれ」で議論することが、今の私の研究目標です。例えば、脳科学のこぼれだと、ヒトをヒトたらしめる高次脳機能を育成し、さまざまな科学技術や文明を生み出す源となってきた文学。そこからは文系領域のみで語られる文学のイメージとは全く違う、新しい文学の姿と魅力が立ち現れてきます。まさに文系と理系を統合した文理融合の研究の面白さです。大学では、専門を極めると同時に、こうした専門の枠を超えた幅広い視野を学ぶことも大切だと思います。

**山崎達哉** 特任助教（常勤）

やまざき・たつや

文化動態論（アート・メディア論）

芸能史／アートマネジメント

**研究：神楽の形態や歴史についての研究****アートマネジメント講座**

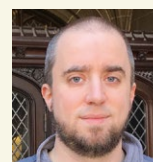
日本各地にはさまざまな芸能があり、その形態や歴史、関わる人はさまざまです。地域社会に根付いているものもあれば、地域の枠を超えて全国的に知られているものもあります。島根県的神楽を中心に、主に日本の芸能や神事について、内容や歴史について研究しています。

同時に、アートマネジメントの講座も担当しています。アートを単に観賞するだけでなく、その良さや課題などをどのように社会に発信できるかを考えています。

**Nicholas Lambrecht** 助教

ニコラス・ランブレクト

国際交流センター

近現代の日本文学／比較文学  
国際日本研究**研究：文学で表象されている戦後引揚げの記憶****世界文学・アジア文学の中の日本語文学**

人の移動は現代社会において世界的に最も重大な問題の一つです。今までの研究では海外移民、難民問題も視野に入れ、日本への戦後引揚げとそれに関わる文学を主題にしてきました。英語で行うグローバル・ジャパン・スタディーズの授業を通して、大阪大学に集まっているさまざまな移動経験のある人たちと、それに関心を持っている人たちのために意見を自由に交わせられる場を設け、現代における「移動」の意味を一緒に考えていきましょう。

## 留学体験



**国際化の時代だからこそ、多くの外国語を履修することを勧めます。**

### 平田智子さん

哲学・思想文化学専修（4年）  
[留学先] ゲッティンゲン大学（ドイツ）  
[留学期間] 3年生3月から7ヵ月間

### 留学をしようと思ったきっかけは？

ずっと大阪で生活していたので、大学生生活の1年くらいは海外に行くのもいいかもしれないと思ったことがきっかけです。ドイツ語能力を伸ばしたいという意欲もありました。

### 出発前に準備したこと

パスポートなどを用意したりドイツの生活について調べたりしました。ドイツ語は1年生から学習していたので、普段通りの勉強にプラスして検定を受けたりしました。

### 大変なこと、得るものや喜びは何ですか？

ドイツに来て1ヵ月も経たないう

ちにロックダウンしてしまったので、はじめは大変なことしかありませんでした。ドイツ語の授業については2週間ほどでしたが対面で受けたので、オンラインに移行してからも比較的すぐに慣れましたが、日常生活がとにかく大変でした。ニュースやSNS、ブログを読んだり、周囲の人の真似をしたりしてなんとか切り抜けたといった感じです。体当たりの生活だったので、買い物に必要なドイツ語はすぐに覚えました（笑）。

通常の留学のように現地の学生や留学生とコミュニケーションをとる機会は減ってしまったのですが、代

わりに寮のフラットメイトや街の人と交わす会話が貴重で、とても大切なものになりました。

### 留学を終えて変わったこと

端的に言うと、肝が太くなりました。迷ったら行動してみる、ということが以前よりもできるようになったのではないかと思います（事前の準備も大切なのはもちろんですが）。

演劇を見たり、youtuberの動画を見たりとさまざまな角度でドイツ語に触れる方法を知ったので、これからも勉強を続けていきたいです。

### 将来の夢

またドイツに行って、ゲッティンゲンでケーキを食べたいです。いつになるかは分かりませんが、もう一度留学するのもいいなあと思います。

### 高校生へのメッセージ

苦しい場面もあるかもしれませんが、無理せず周りの人に頼りましょう。サポートしてくれる学生や先生、職員の方々、いろいろな人とコミュニケーションをとりながら充実した大学生活を送ってください。

## 留学サポート

### 国際連携室

文学部・文学研究科で学ぶ学生の国際交流に関わる業務を担当しています。

学生派遣では、大阪大学、文学部・文学研究科で実施している交換留学や語学研修、奨学金情報についてご案内しています。

留学生については、奨学金情報や学内外で行われる国際交流行事についての案内、さまざまな質問・相談の窓口として日本での学生生活をサポートしています。

また、留学生だけでなく、文学部・文学研究科の学生が参加できるプログラムも実施しています。

### 留学支援プログラム

#### 語学研修プログラム

夏休みや春休みに2週間から1ヵ月の期間、国外の大学等で受講する語学研修です。単位を修得できるプログラムもあります。

#### 交換留学（大学間派遣・部局間派遣）

交流協定を締結している大学への1年未満の留学です。休学せずに大阪大学に在籍したまま協定校での授業を受けます。

#### Erasmus Mundus (EM)

#### Euroculture Programme 修士課程

文学研究科ではEUが運営するプログラムにパートナー校として参加しています。文学研究科では毎年若干名の学生を奨学生に推薦しています。採用されるとEU圏内の8大学のうちの2大学へ2年間留学できます。

### 留学をしようと思ったきっかけは？

日本と異なる環境で学び、自分の見聞を深めたかったからです。また、大学生のうちにさまざまなことに挑戦したいと思いました。

### 出発前に準備したこと

もともと英語は苦手だったので、留学に必要なIELTSのスコアを取るため必死に勉強しました。自分の専門分野の知識は留学先でも役立つので、日本での専門の授業もしっかり受けたほうが良いです。

### 大変なこと、得るものや喜びは 何ですか？

やはり言葉の壁は大きかったです。友達と軽く話をするだけでもストレスを感じますし、うまく言葉が伝わらずに自信を失くします。今思うと、留学前にもっと英語で話す練習をするべきでした。ただ、同じ寮の子や大学の友達と関わっていく中で、少しずつ話せるようになりました。

授業は、オンライン資料で予習・復習ができたのと、日本で学んだ専門知識からだいたい内容を把握で

### 留学生活の喜びは、忘れたくない 鮮やかな瞬間が起こることです。

#### 蓮井寛子さん

考古学専修（4年）  
[留学先] マンチェスター大学（イギリス）  
[留学期間] 4年生9月から10ヵ月間

きたので、理解は難しくなかったです。ただ、レポートやディスカッション授業、実習は大変でした。

せっかく留学しているのでいろいろな土地を巡りたいと考え、週末特に予定のない場合はできるだけ旅をしました。イギリス人も知らないような遺跡・博物館に行くことが多かったため、ほとんど一人旅でしたが、友達とエジンバラで年越しをするなど、友人との旅行も大切な思い出です。

#### 留学を終えて変わったこと

一番は、肝が据わったことです。言葉も満足でない状況に1人挑戦し、自分が努力するしかない環境にいた



ので、とにかく精神が強くなりました。また、さまざまな価値観を持つ学生と話す中で、社会問題やニュースに関心を持つようになりました。

#### 将来の夢

将来は考古学の専門職に就くことを考えています。留学で得た知識や経験を活かして研究を続けたいです。また、研究室内で、留学で得た知識を共有する場なども考えています。

#### 高校生へのメッセージ

大学では自分の意志次第でいろいろなことにチャレンジする機会があります。自分のできることを見つけてみてください。応援しています！

## 語学力をつけるために

### 国際交流科目（英語）

交換留学生を対象にプログラムされた英語による授業です。留学生とともに英語でのディスカッションも行います。

### 全学共通教育科目 外国語授業

英語をはじめとして、初級から上級までのさまざまな授業があります。

### 外国語による発信力を育成するための科目

“Basic Academic Skills for Humanities”  
“Introduction to Contemporary Japanese Studies”  
などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開設しています。

## 留学のための助成制度

### 大阪大学未来基金グローバル化推進事業

#### 交換留学奨学金（派遣）

対象：3ヵ月以上1年以内の交換留学をする正規学生  
助成金額：月額5万円

### 教育ゆめ基金

対象：交換留学制度を利用する文学部生  
助成金額：18万円（2019年度実績）

### 日本学生支援機構（JASSO）

#### 海外留学支援制度（協定派遣）

対象：3ヵ月以上1年以内の交換留学をする正規学生  
奨学金額：月額6・7・8・10万円（留学先による）

### 官民協働海外留学支援制度

#### トビタテ！ 留学JAPAN日本代表プログラム

対象：28日以上2年以内の留学をする者（3ヵ月以上推奨）  
助成内容：奨学金、留学準備金、渡航費の一部、授業料等（支給額は留学先地域による）

## Job Search 就職活動

専修を問わず広く人文学に親しめる環境は、他者を理解する際にその根底にあるものに思いを馳せる力を育ててくれたように感じます。



高田紫帆さん  
ドイツ文学専修(4年)  
就職先: 外務省

4月から外務省で勤務する予定です。安全保障、経済、国際協力、広報文化など、外交にもさまざまな分野があり、本省や在外公館でこのような仕事に携わっていくことを、今から楽しみにしています。

大学に入学した当初、このような進路を選択するとは想像していませんでした。幼い頃に杉原千畝さんの伝記を読んで外交官という職業を知り、憧れを抱いた覚えはありますが、長らく外交や国際情勢は身近なものではありませんでした。しかし、人

との出会いやさまざまなチャレンジを経て、外務省の門を叩こうと決めました。

最初のきっかけは大学3年の時、国家公務員として働く人に会う機会があり、「日本のために」という志を抱いて取り組める仕事に魅力を感じました。また、大学4年時にドイツに留学し、日本を離れて改めて自分が育った環境への感謝が芽生え、将来は国に貢献できる仕事に就きたいとの思いをもちました。

一口に国の仕事といってもさまざま

な分野がありますが、外務省を一番に志望したのは、業務の内容・地域共にそのフィールドが非常に多岐にわたり、常に自分を高められる環境に魅力を感じたからです。この場所なら何十年か後に今よりもっと成長できるはずだと思い、最終的には外務省に絞って就職活動を行いました。

文学部は就職活動に不利なのではないか、とも言われます。もちろん、国家公務員試験の受験や、外務省での面接の際にも、学部での学びとは別に準備することがたくさんありました。しかし、文学部でさまざまなテキストに触れて一言一句を丁寧に追う中で、批判的に文章に向き合う力がつきまし、専修を問わず広く人文学に親しめる環境は、他者を理解する際にその根底にあるものに思いを馳せる力を育ててくれたように感じます。

また、就職活動において拠り所となったのは、学内外での活動を通して悩みながら作っていった、自分なりの軸でした。私自身がそうでしたが、大学に入ってその自由度の広さにたじろぐこともあるかもしれませんが、けれども、小さな好奇心を大切に、ぜひ自分なりの道を見つけていただきたいと思います。

## 進路について

卒業生の進路は、大学院進学と就職に大別されます。

大学院に進学するのは、将来は研究の道を志したい、4年間では飽き足りずもう少し研究を続けたいという学生たちです。大学院修了後は、大学等の研究・教育機関のスタッフとして、あるいはキャリアをいかした高度専門職業人として活躍しています。

就職は、教員、官公庁、マスコミ、出版、金融、製造業、サービス業など、さまざまな業種・職種にわたります。昨今の厳しい社会情勢にもかかわらず、就職状況は良好を維持し、卒業生の多くが社会の第一線で活躍しています。

文学部では、就職支援活動として、企業やOB・OGを招いての説明会や就職活動のためのサポート講座を開催しており、インターンシップ制度の充実にも取り組んでいます。

春から、大阪地方裁判所にて裁判所事務官として採用されます。裁判所事務官とは、裁判の事務手続きに携わる職業で、来庁者対応や裁判日程の調整などの仕事をします。また将来的には書記官試験に合格することで、裁判に立ち合い、記録や和解調書の作成を行うことができますようになります。

進路について本格的に考え始めたのは大学2年生の冬です。父親が公務員であることから、自身も公務員を目指そうと思っていましたが、その頃は具体的な志望は決まっていませんでした。以降、インターンシップや業務説明会に参加する中で裁判所事務官という職業を知り、司法・警察の分野にもともと関心があったこと、若手のうちから責任ある仕事を任せられること、職員の方々の雰囲気などが決め手となり、「裁判所で働きたい」と感じるようになりました。

面接では、「ここで働きたい」という気持ちはもちろん、自分の経験や考え方をその仕事にどう生かすことができるかを丁寧に伝える必要があります。面接対策ではこのような情報を整理し言葉にすることにとても

面接では、文学部で身につけた自分の意見・考えを論理的に構成する力が役立ったと感じています。



**高木 瞳さん**  
英米文学・英語学専修（4年）  
就職先：大阪地方裁判所

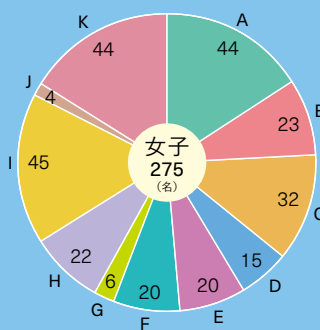
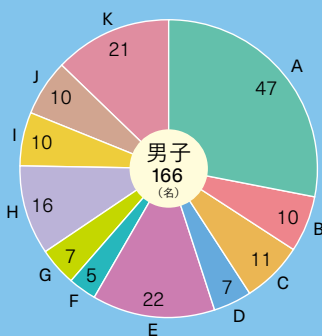
苦労しましたが、文学部で身につけた、自分の意見・考えを論理的に構成する力が役立ったと感じています。また、友人の存在にも助けられました。文学部に所属する学生たちの興味関心は多様であり、自分とは違った視点を持つ友人たちと就職活動について話したり面接カードを添削し合ったりすることで、自身の職業観や人生観について考えが深まることが多々ありました。

就職活動を終えた今思うことは、早い段階からできるだけ幅広い分野

に触れ、情報を集めることの大切さです。一見興味を持たない分野でも調べていくうちに、実は自分のやりたいことに近いと分かったり、新たに関心を持つきっかけが見つかったりします。「知る」ということが、自分の可能性を広げる第一歩になるのだと感じています。文学部では、20の専修の学問から授業を選択でき、積極的に「知る」姿勢を身につける機会に恵まれています。このような環境で学ぶ4年間は、社会に出てからも大いに役に立つはずで

## 業種別就職者数の割合（2018～2020年度）

- A 大学院進学
- B マスコミ・出版・広告・印刷
- C 製造業
- D 金融・証券・保険
- E 電力・ガス・倉庫・運輸
- F 商社・百貨店・製造小売業
- G 不動産業・建築・建設業
- H 通信・IT・ソフトウェア
- I サービス業・その他
- J 学校（中学・高校）
- K 官公庁





田中 融さん  
日本史学専門分野  
(博士前期課程1年)

平安時代の終わり、平氏軍の攻撃によって奈良の東大寺・興福寺が焼失しました。この両寺の再建に、権力者がどのように向き合い、取り組んだかをテーマとしています。

両寺の焼失事件は治承・寿永内乱（源平合戦）の初期に発生しました。治承・寿永内乱は日本全土を巻き込んだ大規模な「戦争」です。その

歴史学が専門知識や技術だけではなく、私たちが生きる現在の社会を考える力を与えてくれる学問だと気付きました。

「戦中」「戦後」を通して再建事業は行われていきました。とすれば、再建事業は、権力者の「戦争」終結や「戦後」復興という政治課題と密接に関係していたのではないのでしょうか。このような問題意識を持って研究を続けています。

大学院進学は学部3年の冬に決めました。それは、中世史料を読む中で、当時の社会の豊かな世界に引き込まれたからであり、従来の通説を覆し自身の新たな学説を創り上げて論文を書く面白さに気付いたからです。大学院で研究する魅力は、史料の世界に沈潜しつつ、後者のような専門的な力を鍛えられることだと思います。一方で進学を決めた際、学部時代にさまざまな事象に興味を

持って読書をしたり、授業に出ておくべきだったと後悔しました。専門分野でクリエイティブな研究をするために、知識の裾野を広くしておくのがよいのではないのでしょうか。

高校生の私にとって、歴史学は「昔の出来事を知る学問」でしかありませんでした。しかし、大学・大学院と進学し、歴史学を本格的に学ぶ中で、歴史学が専門知識や技術だけではなく、私たちが生きる現在の社会を考える力を与えてくれる学問だと気付きました。歴史学にとどまらず、哲学・文学・芸術など文学部の学問は現在の社会の問題と密接に関連して存在しています。過去から現在まで見通す豊かな学問の世界にぜひ踏み込んでください。



藤原郁弥さん  
英米文学・英語学（4年）

言葉の歴史に関心があり、英語の不規則変化動詞の歴史的発達について調べています。「不規則」変化などと呼んでいることからわかるように、特殊なもののように感じますが、歴史的にみると動詞として正統なのは不規則変化の方であって、母音交替という現象に基づいて規則的に説明することができます。しかし、

将来は研究で生計をたてられることが第一目標ですが、語学を活かすことのできる職に就けたらと思っています。

この強変化動詞の中にも例外的なものがいくつかあり、それらに対し上手い説明ができないか試んでいます。もともとは歴史に興味があったのですが、自分が当たり前だと思っている事象に理路整然とした説明を与えることができる言語学の魅力を感じ、学んでいく中で言語の歴史的発達という二つの関心結びつけるようなテーマに出会うことができました。

大学入学以前から漠然と研究というものがしてみたいと思っていたので、大学院も進路の一つとして考えていましたが、学部2年になって専門科目が始まると、新しいことを学ぶたびにまだ知らないことや知りたいことが山のように増え、その思いがさらに強くなったので、大学院進

学を決めました。将来は研究で生計をたてられることが第一目標ですが、語学を活かすことのできる職に就けたらと思っています。

高校生の方に伝えたいことは、日ごろの興味関心を大切にしてほしいということです。例えば、社会の授業で勉強した用語について調べてみたり、名前だけ習った文学作品を読んだり、これらはわかりやすい例ですが、芸術やスポーツなど自分の身近なものについての疑問を調べてみてほしいです。文学部で扱える対象は、皆さんの想像以上に多様です。自分の好きなことが一見学問とは関係なさそうでも、大学での学びが新しい視点をもたらしてくれるかもしれません。



# Employment List

## 就職実績

データは過去3年間（2018～2020年度）、（）内の数字は女子数

### A 大学院進学者 91 (44)

大阪大学文学研究科 81 (40)  
他研究科・他大学院等進学 10 (4)  
**就職者 合計 350 (231)**

### B マスコミ・出版・広告・印刷 33 (23)

毎日新聞社 1 (1)  
読売新聞大阪本社 1 (0)  
中日新聞社 2 (0)  
山陽新聞社 1 (0)  
西日本新聞社 1 (0)  
NHK 3 (3)  
テレビ朝日 1 (0)  
TBSテレビ 1 (1)  
毎日放送 1 (1)  
テレビ大阪 1 (0)  
名古屋テレビ放送 1 (1)  
サンテレビジョン 1 (1)  
テレビ大分 1 (1)  
アップセットNEO 1 (0)  
講談社 1 (1)  
KADOKAWA 3 (3)  
ポプラ社 1 (1)  
白泉社 1 (1)  
数研出版 1 (1)  
ランズ 1 (1)  
北文出版 2 (2)  
メディックメディア 1 (1)  
メディカ出版 1 (1)  
中央法規出版 1 (0)  
NHK出版 1 (1)  
凸版印刷 1 (0)  
岩岡印刷 1 (1)

### C 製造業 43 (32)

霧島ホールディングス 1 (1)  
二軒茶屋餅角屋本店 1 (1)  
三菱電機 4 (3)  
日立国際電気 1 (0)  
ダイヘン 1 (1)  
クロイ電機 1 (1)  
クラレ 1 (1)  
Meiji Seika ファルマ 1 (1)  
資生堂ジャパン 1 (1)  
アサヒペン 1 (1)  
千寿製薬 1 (0)  
信越ポリマー 1 (1)  
三協立山 1 (0)  
パリュプランニング 1 (1)  
日本特殊陶業 1 (0)  
I-T-O 1 (1)  
湯山製作所 1 (1)  
福原精機製作所 1 (1)  
ソニーインタラクティブ  
エンタテインメント 1 (0)  
パップアロー 1 (1)  
ヴァイタル・インフォメーション 1 (1)  
トヨタ車体 1 (1)  
三菱重工業 1 (1)  
ダイハツ工業 1 (0)  
小松製作所 1 (0)  
日本写真印刷  
コミュニケーションズ 1 (1)  
写真化学 1 (1)  
佐川印刷 1 (0)  
グラフィック 1 (1)  
セーラー万年筆 1 (1)  
デザインフィル 1 (1)  
バンダイ 2 (2)  
BANDAI SPIRITS 1 (1)  
コーエーテクモ  
ホールディングス 2 (0)  
コンビニ 1 (1)  
日本ガイシ 1 (1)

タミヤ 1 (1)  
俄 1 (1)

### D 金融・証券・保険 22 (15)

三菱UFJ銀行 1 (1)  
りそな銀行 3 (2)  
三井住友信託銀行 1 (1)  
京都銀行 1 (1)  
伊予銀行 1 (1)  
肥後銀行 1 (1)  
みずほフィナンシャルグループ 1 (1)  
りそなホールディングス 1 (1)  
近畿労働金庫 1 (1)  
富山信用金庫 1 (0)  
楽天証券 1 (0)  
住友生命保険 1 (0)  
日本生命保険 2 (1)  
大樹生命 1 (1)  
ジブラルタ生命 1 (0)  
ほけんの窓口 2 (1)  
三井住友カード 1 (1)  
アコム 1 (1)

### E 電力・ガス・倉庫・運輸 42 (20)

関西電力 5 (5)  
中国電力 2 (2)  
北陸電力 1 (0)  
中部電力パワーグリッド 1 (0)  
大阪瓦斯 8 (5)  
住友倉庫 1 (0)  
滋澤倉庫 1 (1)  
京神倉庫 1 (1)  
山村倉庫 1 (0)  
日本航空 1 (0)  
日本郵船 1 (0)  
西日本高速道路 1 (1)  
日本通運 1 (0)  
日立物流西日本 1 (0)  
コクヨサプライロジスティクス 1 (1)  
JR全昭和運輸 1 (0)  
JR東日本 1 (0)  
JR東海 2 (1)  
JR西日本 2 (1)  
JR九州 2 (0)  
大阪市高速電気軌道 1 (0)  
阪急阪神ホールディングス 1 (1)  
近鉄グループホールディングス 2 (0)  
南海電気鉄道 2 (1)  
神戸新交通 1 (0)

### F 商社・百貨店・製造小売業 25 (20)

住友商事 1 (1)  
双日 1 (0)  
伊藤忠エネクス 1 (1)  
エイシンインターナショナル 1 (0)  
ミスミグループ本社 1 (1)  
MonotaRo 1 (1)  
六家 1 (1)  
阪急阪神百貨店 1 (1)  
イオンリテール 2 (1)  
丸井グループ 1 (1)  
紀伊國屋書店 1 (1)  
三洋堂ホールディングス 1 (0)  
生活協同組合 COOP とやま 1 (1)  
ひこばえ 1 (0)  
ゲンキョー 1 (1)  
鈴花 1 (1)  
大黒天物産 1 (1)  
IDOM 1 (1)  
ニトリ 6 (6)

### G 不動産業・建築・建設業 13 (6)

生和コーポレーション 1 (0)

コスモスモア 1 (1)  
大和ハウス工業 1 (0)  
イオンモール 1 (1)  
福屋ホールディングス 1 (0)  
日本エスコン 2 (0)  
ウィル 4 (3)  
ハウスフリーダム 1 (1)  
オープンハウス 1 (0)

### H 通信・IT・ソフトウェア 38 (22)

Microsoft Corporation 1 (1)  
NECソリューションイノベータ 1 (0)  
富士通 1 (1)  
西日本電信電話 1 (0)  
SRIシステムズ 1 (1)  
DIRインフォメーションシステムズ 1 (0)  
兼松エレクトロニクス 1 (1)  
コベルコシステム 1 (1)  
楽天 4 (2)  
NSソリューションズ関西 1 (1)  
両備システムズ 1 (1)  
G&Uシステムサービス 1 (0)  
オネスト 1 (1)  
大阪エヌデーエス 1 (1)  
Fringe81 1 (1)  
EDP graphic works Co., Ltd. 1 (1)  
ロボット 1 (1)  
セブテニ・ホールディングス 1 (0)  
日本レジストリサービス 1 (1)  
フューチャー技研 1 (0)  
ソッドアーツ 1 (0)  
NCA&A 1 (1)  
SRA 1 (1)  
ゼクシス 1 (0)  
シティ・コム 1 (0)  
日本電営 1 (0)  
パーソナルプロセス  
アンドテクノロジー 1 (0)  
ラクス 1 (0)  
ニック 1 (1)  
エイベックス 1 (1)  
ビズリーチ 1 (1)  
groxi 1 (0)  
eftax 1 (0)  
ビュブラン 1 (1)  
エイコーシステムクリエイツ 1 (1)

### I サービス業・その他 55 (45)

大阪大学 2 (2)  
京都大学 1 (1)  
富山大学 1 (1)  
河合塾 1 (1)  
Z会 2 (2)  
ベネッセコーポレーション 1 (1)  
駿河台学園 1 (1)  
ワオ・コーポレーション 1 (1)  
ブレーバンク 2 (2)  
トワール 1 (1)  
志高塾 2 (2)  
光の子どもクリスチャンスクール 1 (1)  
徳洲会生駒市立病院 1 (1)  
京都大学医学部 1 (0)  
ベネッセスタイルケア 1 (0)  
青谷学園 1 (1)  
理化学研究所労働組合 1 (1)  
国立文化財機構 1 (1)  
日本年金機構 1 (1)  
Seven golden way ventures sdn 1 (0)  
WAVE 2 (2)  
日本郵便株式会社 1 (1)  
アクセンチュア 1 (1)  
三菱UFJリサーチ  
& コンサルティング 1 (0)  
アビームコンサルティング 1 (0)  
KPMGコンサルティング 1 (0)

ビジネスコンサルタント 1 (1)  
ブレンセンター 1 (1)  
ワンスター 1 (0)  
地域ブランディング研究所 1 (1)  
スターバックス  
コーヒージャパン 1 (1)  
星野リゾートマネジメント 1 (1)  
電通 1 (0)  
リクルート 2 (2)  
リクルートキャリア 1 (1)  
SGフィルダー 1 (1)  
ヤマハコーポレートサービス 1 (1)  
アイ・ケイ・ケイ 1 (0)  
日本赤十字社  
(社団法人類似組織) 1 (0)  
同志社大学産官学  
連携支援ネットワーク 1 (1)  
パーソルキャリア 1 (1)  
ベルクリック 1 (1)  
テラスホールディングス 1 (1)  
Buy Sell Technologies 1 (1)  
UTグループ 1 (1)  
U-NEXT 1 (1)  
アビリティセンター 1 (1)  
ワールドサービス 1 (1)  
ヴィス 1 (1)

### J 学校(中学・高校) 14 (4)

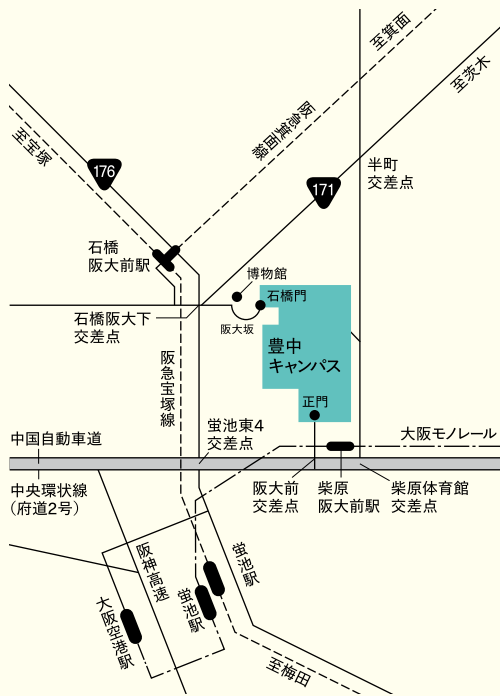
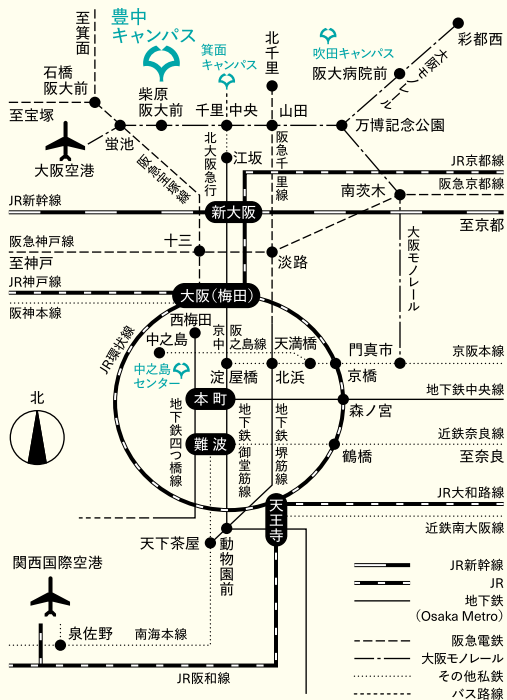
大阪府教員 1 (0)  
兵庫県教員 1 (0)  
静岡県教員 1 (0)  
奈良県教員 1 (1)  
香川県教員 1 (0)  
愛知県教員 1 (0)  
岐阜県教員 1 (0)  
石川県教員 1 (0)  
西大和学園 1 (1)  
須磨学園中学校・高等学校 1 (0)  
追手門学院高等学校 1 (0)  
大阪芸芸中学・高等学校 1 (1)  
大阪青凌中学・高等学校 1 (1)  
神戸海星女子学院  
中学・高等学校 1 (0)

### K 官公庁 65 (44)

人事院 1 (1)  
内閣府 1 (1)  
財務省 1 (0)  
外務省 1 (1)  
文部科学省 1 (1)  
厚生労働省 2 (1)  
国税庁 1 (1)  
国税局 1 (0)  
参議院事務局 2 (2)  
出入国在留管理庁 1 (0)  
東京法務局 1 (1)  
兵庫労働局 1 (1)  
鳥取労働局 1 (0)  
裁判所 4 (4)  
奈良地方検察庁 1 (1)  
厚生労働省近畿厚生局 1 (1)  
製品評価技術基盤機構 1 (0)  
神戸法務局 1 (1)  
大阪検疫所 2 (0)  
福岡検疫所 1 (1)  
近畿管区警察庁 1 (0)  
東京税関 1 (1)  
東京国税局関税会連合会 1 (1)  
都道府県庁 17 (10)  
市役所・町村役場 等 19 (14)

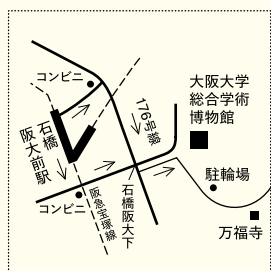
# Access Map

## アクセスマップ

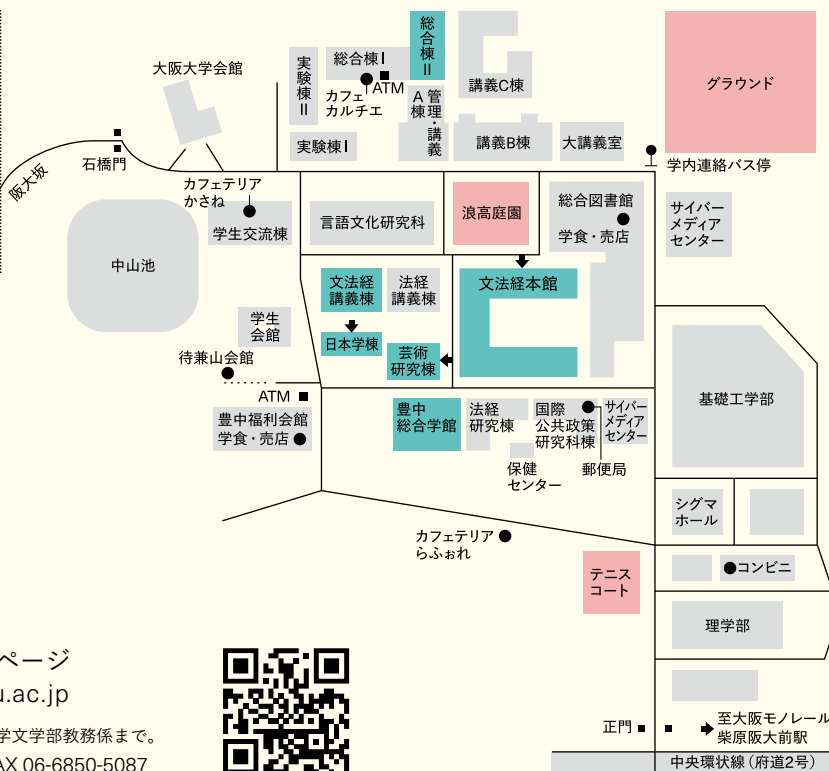


◎阪急電車宝塚線・石橋阪大前駅(急行停車)下車東へ徒歩約15分

◎大阪モノレール・柴原阪大前駅下車西へ徒歩約10分



枠内の図はキャンパス内より縮尺を1/10程度縮小しています。



大阪大学文学部ホームページ

<http://www.let.osaka-u.ac.jp>

電話でのお問い合わせは、大阪大学文学部教務係まで。  
TEL 06-6850-5084 (直通) FAX 06-6850-5087



2021年7月発行

発行＝大阪大学文学部

編集＝評価・広報室

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1番5号 TEL 06-6850-6111（代表）

印刷＝岡村印刷工業株式会社

掲載写真・掲載記事の無断転載・複製を一切禁じます。  
本冊子の在学学生／卒業生の学年、所属などは2020年度のもので

